



# 令和6年度 保護林モニタリング調査結果報告

北海道森林管理局  
株式会社環境指標生物

1. 保護林モニタリング調査について
2. 令和6年度モニタリング調査対象保護林
3. モニタリング調査結果報告
  - 3-1. 森林生態系保護地域（1箇所）
  - 3-2. 生物群集保護林（5箇所）
  - 3-3. 希少個体群保護林（31箇所）

# 1. 保護林モニタリング調査について

## 1 保護林モニタリング調査について

### 本調査の目的

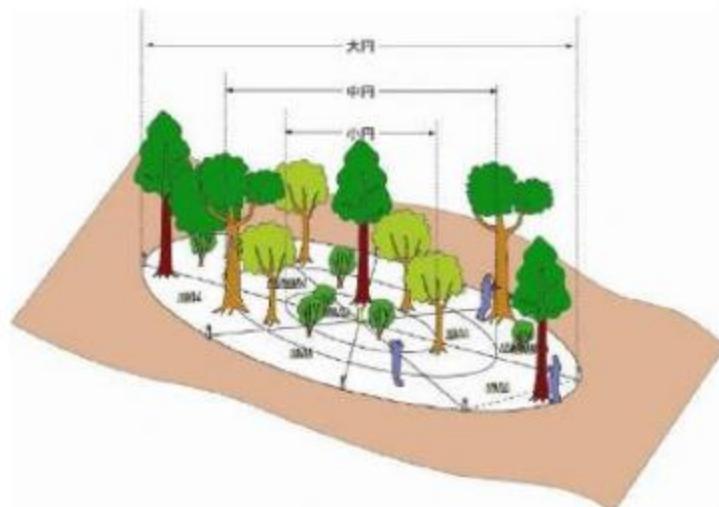
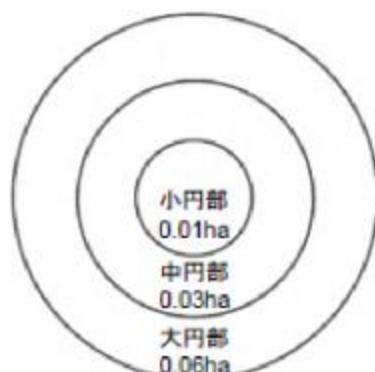
- ・ 林野庁は、国有林内の原生的な天然林や希少な動植物の生息・生育地に保護林を設定している。
- ・ 本調査は、保護林の保全・管理を行うために、保護林の現状を的確に把握し、個々の保護林の現状に応じたきめ細やかな保全・管理の推進に資するため、保護林の設定目的に照らして保護林を評価することを目的とする。
- ・ 平成27年度に保護林制度は改正され、平成29年度より新たな保護林3区分に再編された。
- ・ 平成29年3月に「保護林モニタリング調査マニュアル」が改訂された。
- ・ 本調査は「保護林モニタリング調査マニュアル」及び  
「北海道森林管理局版 森林概況調査等マニュアル」に則り実施した。

# 1 保護林モニタリング調査について

## 保護林モニタリング調査方法

### ①-1. 森林詳細調査（毎木調査）

- ・調査マニュアルに従った0.1ha円形プロット内の毎木調査
- ・その他、定点写真の撮影〇



円形調査プロット（全体0.10ha）

#### 毎木調査

細分	胸高直径対象木
小円部	1cm以上の全て
中円部	5cm以上
大円部	18cm以上

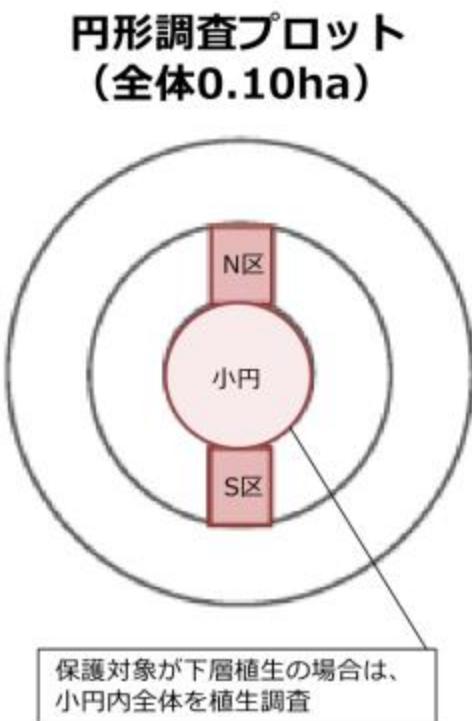
※過年度結果との比較時に、小円部における計測対象木が異なる(増加している)ことに留意が必要。

# 1 保護林モニタリング調査について

## 保護林モニタリング調査方法

### ①-2. 森林詳細調査（下層植生調査）

4m×6mの区画内（N区、S区の2箇所）で植生調査を実施



### **植生調査（下層植生調査）**

細分	調査対象（調査区画内の全出現種）
中円の内周と 外周の間 (N区・S区の2箇所)	低木層（S）及び草本層（H）の植被率、 優占種名とその他出現種名
調査区以外の特記種	調査区以外の希少種や優占種など

※過年度結果との比較時に区画が異なるため、経年変化等の比較がやや難しい。

## 保護林モニタリング調査方法

## ②森林概況調査（北海道版）

- ・概ね5年ごとに実施する簡易な現況調査。
  - ・保護林調査プロットで、右の野帳に沿った森林概況調査と定点写真撮影を行う。
  - ・過年度調査結果と比較し、林況に変化が認められた場合に対策を検討する。

- ・各保護林で確認された影響があれば、
    - ア. 野生鳥獣、
    - イ. 病虫害、
    - ウ. 外来種、
    - エ. 温暖化、
    - オ. 自然攪乱、
    - カ. その他 より選択して記録する。

# 1 保護林モニタリング調査について

## 保護林モニタリング調査方法

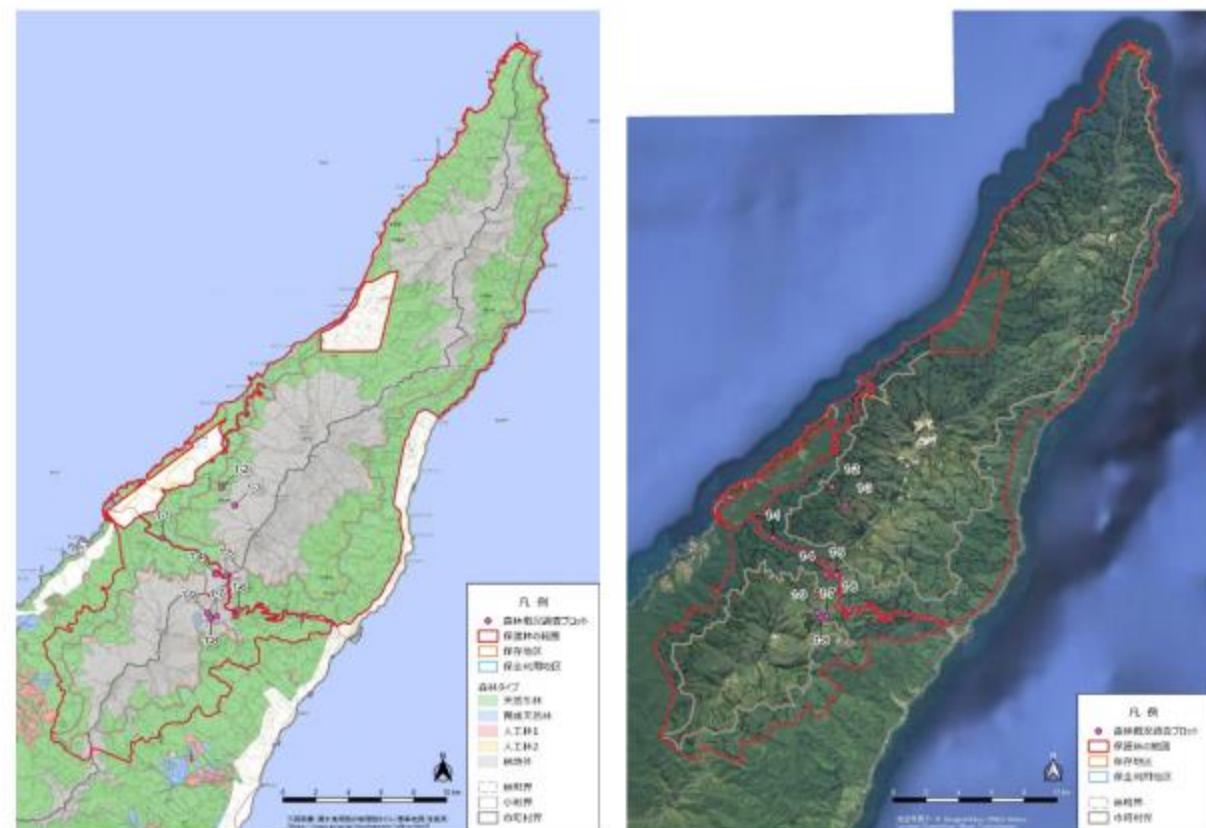
### ③資料調査

- ・保護林の森林タイプの分布等状況（人工林・天然林別など）や論文の発表状況等を整理する。
- ・森林生態系多様性基礎調査（林野庁が実施している全国的な森林）も対象保護林で実施されていれば、その結果も活用する。

森林タイプの分布等状況 取りまとめ例 →  
(知床)

最新の森林簿データを利用し、GIS等を活用して、  
人工林及び天然林等の分布を表示。

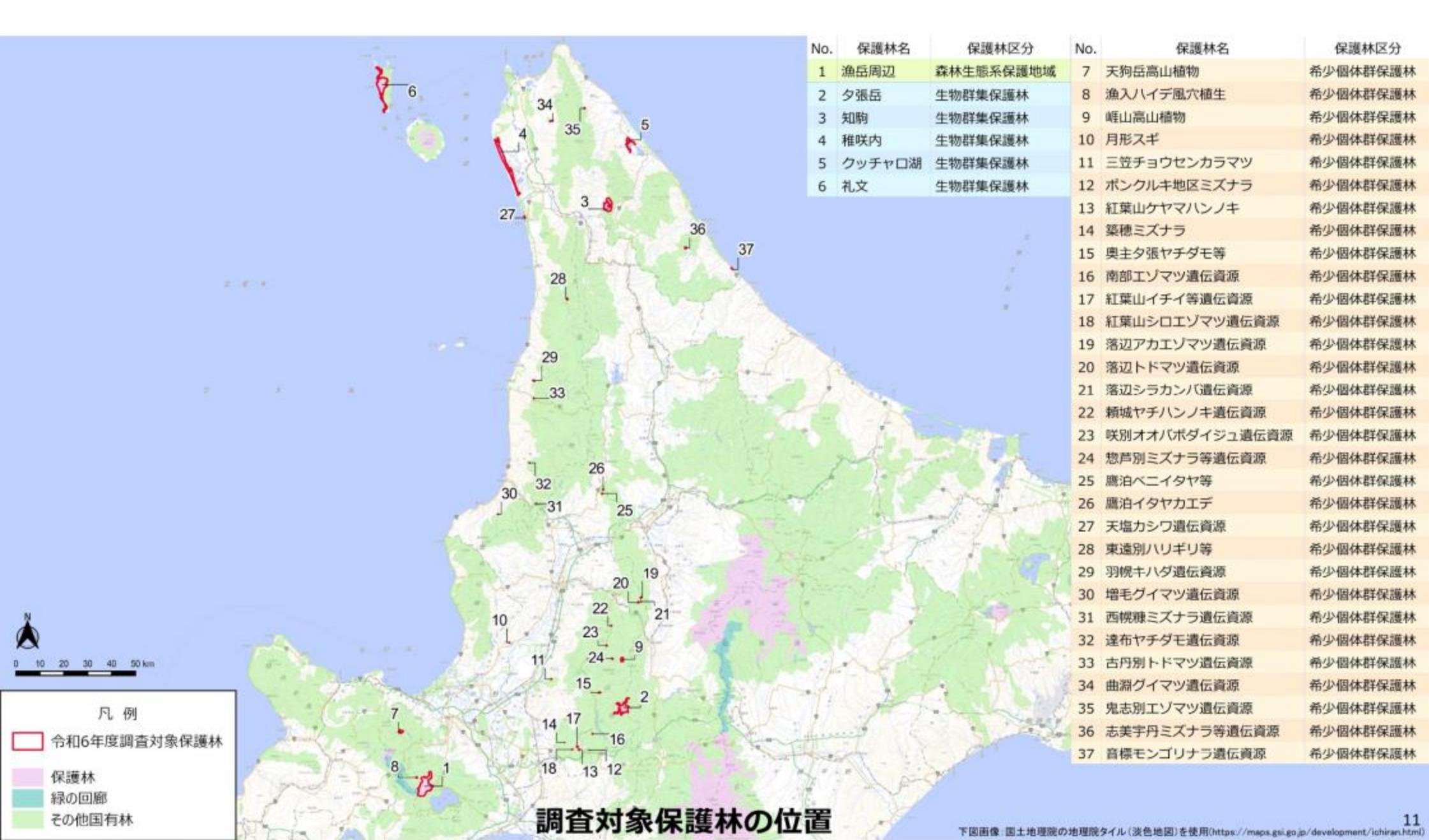
その他、資料調査として、前回調査以降に行われた樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、森林への被害状況、保護林関連論文の発表状況等の情報を収集する。



## 2. 令和6年度モニタリング調査対象保護林

## 令和6年度 調査対象保護林と調査項目

No	保護林名称	タイプ	管轄署	面積(ha)	所在市町村	資料調査	モニタリング調査				森林生態系多様性基礎調査	No	保護林名称	タイプ	管轄署	面積(ha)	所在市町村	資料調査	モニタリング調査				森林生態系多様性基礎調査		
							森林概況調査	森林群組調査	植生方形状調査	その他調査															
1	雄岳周辺	森林生態系保護地域	石狩	3286.60	恵庭市 札幌市 千歳市	○		2			4	21	落羽シラカンバ遺伝資源	希少個体群保護林	空知	4.35	芦別市		2						
2	夕張岳	生物群集保護林	空知 上川南部	1448.87	夕張市 南富良野町	○	2		5		2	22	類稀ヤチハシノキ遺伝資源		空知	4.96	芦別市		2						
3	知鶴		宗谷	1233.43	中頓別町	○	3				3	23	秩別オオバボダイジュ遺伝資源		空知	11.79	芦別市		2						
4	稚内		宗谷	2017.52	豊富町 幌延町	○	4				2	24	悲芦別ミズナラ等遺伝資源		空知	11.74	芦別市		2						
5	クッチャロ湖		宗谷	383.84	浜頓別町	○		2		鳥類	2	25	鹿追ベニイタヤ等遺伝資源		北空知支	13.06	深川市		2						
6	礼文島		宗谷	2391.30	礼文町	○		5			5	26	鹿泊イタヤカエデ遺伝資源		北空知支	9.86	深川市		2						
7	天狗岳高山植物	希少個体群保護林	石狩	177.45	札幌市		2					27	天塩カシワ遺伝資源		留萌北部	12.89	天塩町		2						
8	進入ハイデ風穴植生		石狩	13.71	札幌市			2				28	東造別ハリギリ等遺伝資源		留萌北部	16.97	遠別町		2						
9	旭山高山植物		空知	164.93	芦別市			2				29	羽幌キハダ遺伝資源		留萌北部	14.30	羽幌町		2						
10	月形スギ		空知	2.12	月形町			2				30	増毛グイマツ遺伝資源		留萌南部	4.28	増毛町		2						
11	三笠チョウセンカラマツ		空知	0.81	三笠市		2					31	西幌繪ミズナラ遺伝資源		留萌南部	8.69	留萌市		2						
12	ポンクルキ地区ミズナラ		空知	1.00	夕張市		2					32	遠布ヤチダモ遺伝資源		留萌南部	5.00	小平町		2						
13	紅葉山ケヤマハンノキ		空知	14.57	夕張市			2				33	古丹別トドマツ遺伝資源		留萌南部	8.05	苦蘗町		2						
14	栄穂ミズナラ		空知	1.00	栗山町		2					34	曲源グイマツ遺伝資源		宗谷	25.58	稚内市		2						
15	奥主夕張ヤチダモ等遺伝資源		空知	18.75	夕張市		2					35	鹿志別エゾマツ遺伝資源		宗谷	9.19	猿払村		2						
16	南創エゾマツ遺伝資源		空知	7.78	夕張市		2					36	志美宇丹ミズナラ等遺伝資源		宗谷	37.89	枝幸町		2						
17	紅葉山イトイ等遺伝資源		空知	10.13	夕張市	○		2			1	37	音樺モンゴリナラ遺伝資源		宗谷	15.87	枝幸町		2						
18	紅葉山シロエゾマツ遺伝資源		空知	4.79	夕張市		2																		
19	落羽アカエゾマツ遺伝資源		空知	17.78	芦別市		2																		
20	落羽トドマツ遺伝資源		空知	15.11	芦別市		2																		



### 3. モニタリング調査結果報告

#### 3-1. 森林生態系保護地域

### 3-1.森林生態系保護地域（1箇所）

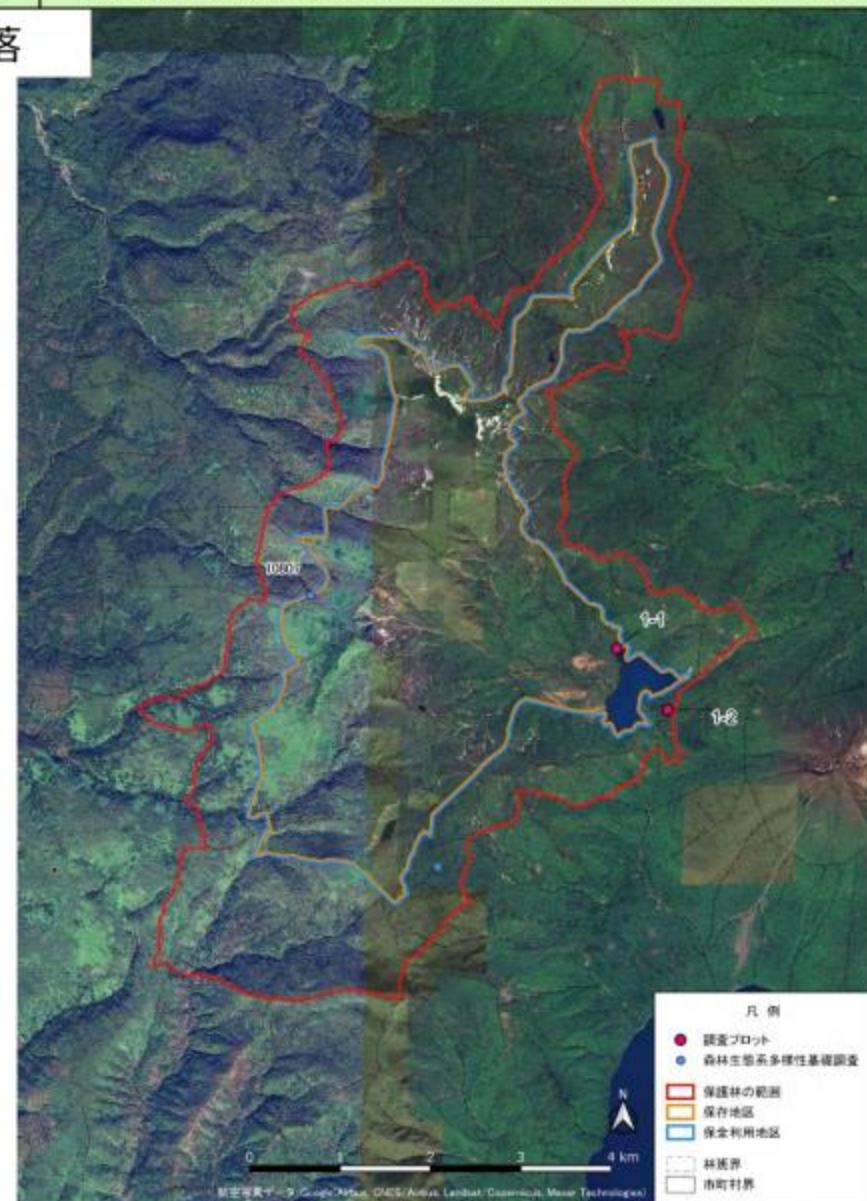
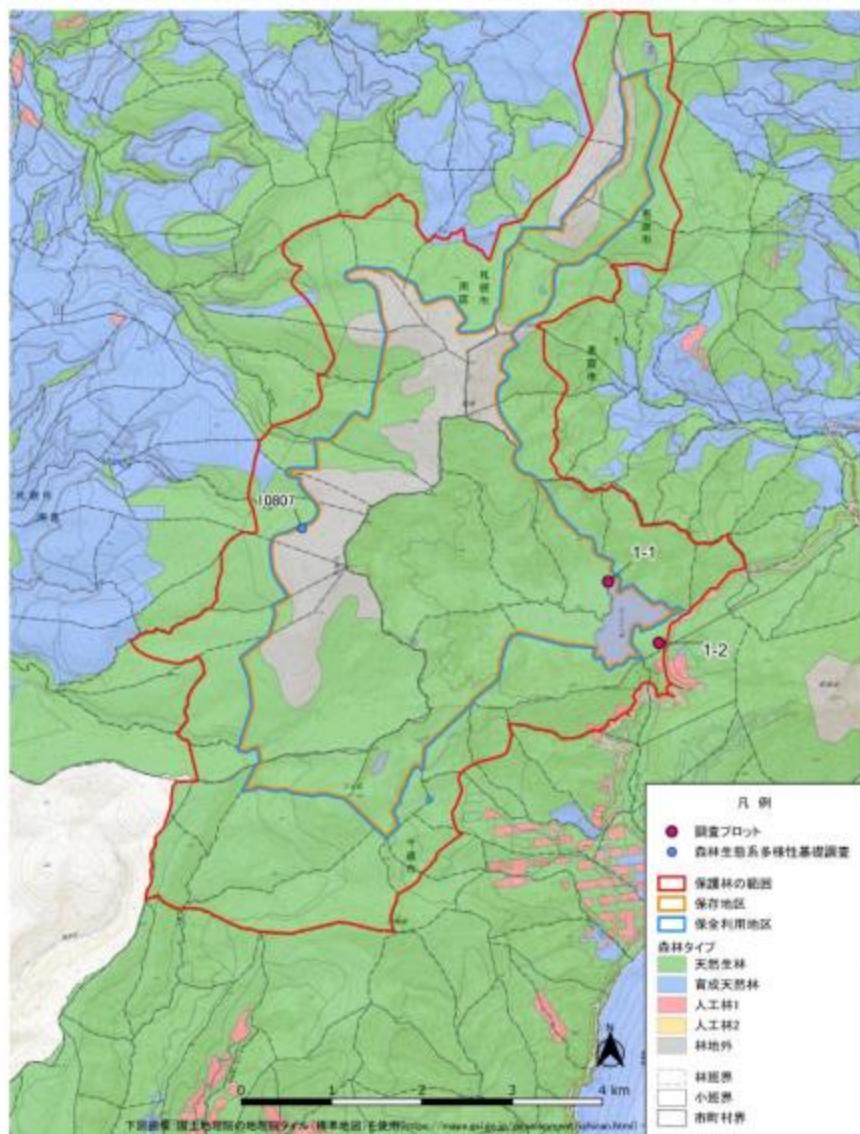
保護林名(面積)	10005 漁岳周辺森林生態系保護地域 (3,266.60ha 保存地区:1,511.55ha/保全利用地区:1,755.05ha)
保護対象	北海道中央部のエゾマツ・トドマツ林から北海道南部（渡島半島）のブナ林への移行地域に位置し、北方性の常緑針葉樹と落葉広葉樹からなる多様な森林群落が原生的な状態で成立している。
前回保護林調査	R1
今回の調査方法等	<ul style="list-style-type: none"><li>・資料調査</li><li>・保護林森林概況調査（2箇所）</li><li>・森林生態系多様性基礎調査（1箇所）</li></ul>
調査林分の状況等	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロットNo.1-1では、ダケカンバの大径木を多く含む林分であり、一部では枯損木が確認された。</li><li>・プロットNo.1-2では、林相に大きな変化はないが、林床にシカの食痕が多く確認された。</li><li>・林相に大きな変化はなく、大きな森林被害も確認されなかった。</li></ul>
調査周期	10年ごと 森林生態系多様性基礎調査（林野庁）による現地調査が実施されていることから、それらの情報を活用する。
評価・課題・対応(案)	<p><b>確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シカの影響が確認されたため、調査間隔を5年に変更し、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。</li><li>・次回のモニタリングの際には、大径木の枯損が局所的なものかどうかを把握するため、上空からのドローン撮影による立木の状況調査も検討する。</li></ul>

# 1 漁岳周辺森林生態系保護地域

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

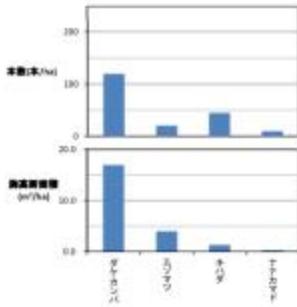
北方性の常緑針葉樹と落葉広葉樹からなる多様で原生的な森林群落



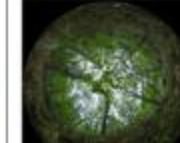
# 1 漁岳周辺森林生態系保護地域

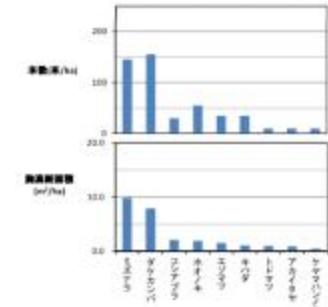
プロットNo.1-1

	R1	R6	比較結果等
北東方向			大きな変化はない。
	写真なし		枯損木が確認された。
			大きな変化はない。
北西方向	写真なし		-
			大きな変化はない。
天頂			-



プロットNo.1-2

	R1	R6	比較結果等
北東方向			大きな変化はない。
	写真なし		-
			大きな変化はない。
北西方向	写真なし		-
			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。



実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

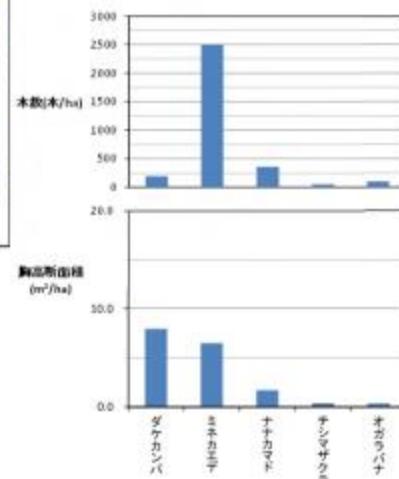
保護林名	漁岳周辺森林生態系保護地域			
	1-1	1-2	10005-1	2024/6/5
プロットNo.				
旧No.	10005-2			
調査日	2019/10/11	2024/6/5	2019/10/11	2024/6/5
標高	669m	618m		
プロット情報	斜面方位、傾斜(平坦)	3°	NE 13°	
局所地形		平坦地	平坦尾根	
【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ミズナラ	ミズナラ
【高】樹高	10~20m	12~25m	10~20m	12~20m
【高】樹被率	-	70%	-	90%
【高】DBH	20~30cm	18~66cm	30cm以上	17~70cm
【低】主要構成樹種	トドマツ	キハダ	ケヤマハンノキ	ダケカンバ
【低】樹高	5~10m	7~14m	5~10m	8~15m
【低】樹被率	-	20%	-	20%
【低】DBH	10cm未満	20~24cm	10~20cm	12~25cm
【低】主要構成樹種	-	トドマツ	トドマツ	トドマツ
【低】樹高	-	2~5m	1~5m	2~5m
【低】樹被率	-	1%	-	1%
【低】DBH	-	7cm	5cm未満	2~8cm
最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	トドマツ	トドマツ
樹高	18m	25.4m	22m	19.7m
最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	トドマツ	ダケカンバ
直径	25cm	66.0cm	60cm	69.8cm
気象害	-	-	風害(中)	-
病虫害	-	-	-	-
気象、疾虫害のコメント	-	-	トドマツ大径木の倒伏あり	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡	シカ道、足跡、糞、角研 ヒグマ	シカ道、糞痕 ヒグマ	シカ道、糞、その他の ヒグマ
痕跡の程度	中	小	-	小
痕跡のコメント	-	-	エゾシカ個体1頭目視	エゾシカの休息跡あり
林床植生	優占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ
	植被率	密生	密生	80%
	植生高	-	-	-
	天然更新状況	普通	普通	多い
保護林の状況		プロット手前でヒグマに遭遇したため、代替地点として設定した。	ダケカンバの大径木が多い。枯損木は數本確認された。林床にはシカの糞跡が多く、エゾシカの影響がやや懸念されるが、天然更新は普通に見られる。林分は概ね健全である。	トドマツ、ダケカンバ、ミズナラ等が優占する。シカの痕跡がやや多いが、天然更新も多數見られ、林分は健全な状態である。エゾシカの痕跡が多い。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・該当等確認された影響	ア:野生鳥獣、イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温帯化 オ:自然復旧 カ:その他のなし	確認された影響[-]	確認された影響[アオ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行うが、留意が必要である	確認された影響[-]
			確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行うが、留意が必要である	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行うが、留意が必要である
林況写真				

# 1 漁岳周辺森林生態系保護地域

## 実施した現地調査

## 保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)

### 森林生態系多様性基礎調査(ID10807)



倒木更新の様子  
(プロット No.1-1)



堆積した砂礫地に生育するヒメグサ  
(プロット No.1-1)



林内の様子(プロット No.1-2)



倒木の様子(プロット No.1-2)

### 確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]

- ・林床にシカの食痕が多く確認されているため、調査間隔を5年に変更し、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。
- ・大径木の枯損が局所的なものかどうかを把握するため、上空からのドローン撮影による立木の状況調査も検討する。

ID	優占種	発達段階	高木層		垂高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
10807	ダケカンバ、ミネカエデ	天然更新 成熟	12 ~ 15	40%	8 ~ 12	10%	なし	なし

### 3. モニタリング調査結果報告

3-2.生物群集保護林（5箇所）

### 3-2.生物群集保護林（5箇所）

No	保護林ID	保護林名(面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
2	20002	夕張岳 生物群集保護林 (1,448.87ha)	夕張岳周辺の蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩帯に見られる地域固有の生物群集を有する森林	H24 R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査</li> <li>・植生方形区調査(5箇所)</li> <li>・保護林森林概況調査(2箇所)</li> <li>・森林生態系多様性基礎調査(2箇所)</li> </ul>	<p><b>【高山帯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地点とも、エゾウサギギク等、北海道の高山に特徴的な種が確認された。</li> <li>・前回調査時と比較して、被度の低い種の入れ替わりはあるものの、本来の植生が保たれており大きな変化はないと考えられる。</li> <li>・プロットNo.2-方1及びNo.2-方3では、優占種が置き換わり、どちらの方形区もイネ科草本の生育数が減少したが、植被率に大きな変化ではなく、遷移の一過程と考えられる。</li> <li>・全地点について、食害や気象害は確認されなかった。</li> </ul> <p><b>【樹林帯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の状況に大きな変化は確認されなかった。おおむね健全な林分である。</li> </ul>	高山植生 5年 森林 10年	<b>確認された影響[特になし]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本保護林は健全な状態が確認された。おおむね良好に保護・管理されているといえる。</li> <li>・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。</li> </ul>
3	20003	知駒 生物群集保護林 (1,233.43ha)	蛇紋岩地帯の知駒地域に成育したアカエゾマツ純林や針広混交林に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査</li> <li>・保護林森林概況調査(3箇所)</li> <li>・森林生態系多様性基礎調査(3箇所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立木の生育状況は健全であった。</li> <li>・林床はチシマザサが密生する箇所が多いが部分的に天然更新もみられ、林分として良好な状態を維持していた。</li> </ul>	10年	<b>確認された影響[特になし]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。</li> </ul>
4	20004	稚咲内 生物群集保護林 (2,017.52ha)	サロベツ地域の海岸砂丘林に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査</li> <li>・保護林森林概況調査(4箇所)</li> <li>・森林生態系多様性基礎調査(2箇所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立木の生育状況は健全であり、天然更新は各地で多くみられ、林分として非常に良好な状態を維持していた。</li> </ul>	10年	<b>確認された影響[特になし]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きモニタリングにより経過を観察していく。</li> </ul>

### 3-2.生物群集保護林（5箇所）

No	保護林ID	保護林名(面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
5	20005	クッチャロ湖 生物群集保護林 (383.84ha)	ラムサール条約にも登録されているクッチャロ湖に隣接し、特有の湿地環境に見られる地域固有の生物群集を有する森林	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査</li> <li>・保護林森林詳細調査(2箇所)</li> <li>・森林生態系多様性基礎調査(2箇所)</li> <li>・鳥類調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロット1では、林相について大きな変化は確認されなかった。風倒木が数本確認されたが、立木は健全な状態であった。</li> <li>・プロット2では、林床にシカの食痕が多く確認された。立木については、健全な状態であった。</li> </ul>	10年	<b>確認された影響[野生鳥獣]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エゾマツ林では大きな変化はなく、森林被害も確認されず、おおむね良好な状態であった。</li> <li>・渓畔林では、林床にシカの食痕が多く確認されたが、立木は健全な状態であった。</li> <li>・本保護林はおおむね良好に保護・管理されているが、シカの影響や気象害について留意が必要なため、調査間隔を5年に変更し、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。</li> </ul>
6	20007	礼文島 生物群集保護林 (2,391.30ha)	礼文島に見られる地域固有の生物群集を有する森林	H26 R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料調査</li> <li>・保護林森林詳細調査(5箇所)</li> <li>・森林生態系多様性基礎調査(5箇所)</li> </ul>	<p>【レブンアツモリソウ群生地】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロット内では、前回調査で確認された■■■■■が確認されず、一部では盗掘跡の可能性のある古い痕跡が確認された。</li> </ul> <p>【西海岸の植物群落】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダケカンバ低木林では、状況は変化しておらず、胸高断面積の増加がみられた。</li> <li>・草地群落では、出現種はやや減少したが、ガンコウランが優占する状況に変化はなく、林床は過年度調査時と比較して大きな変化はないと考えられる。</li> </ul> <p>【ハイマツ帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイマツとチシマザサが密生する状況に、大きな変化はないと考えられる。</li> </ul>	1年 ないし 5年	<b>確認された影響[その他]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林部、草原部ともに大きな変化や森林被害もなく、到達経路上においても、高山植物も多く確認され、自然環境としてはおおむね良好な状態を保っているといえる。</li> <li>・痕跡は古いが、■■■■■の盗掘跡と見られる痕跡が確認されたことから、引き続き関係機関と連携しながら巡視を実施していく。気象害についても注視していく。</li> </ul>

2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

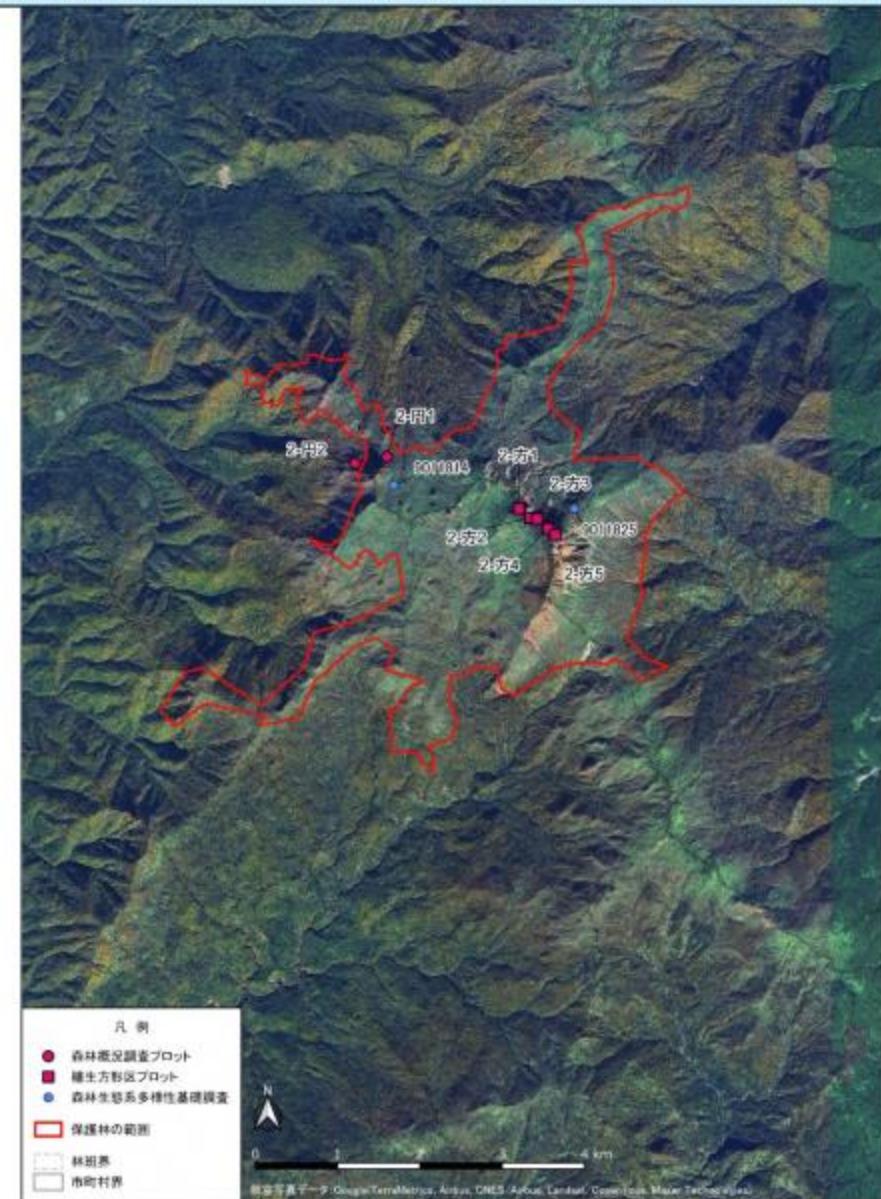
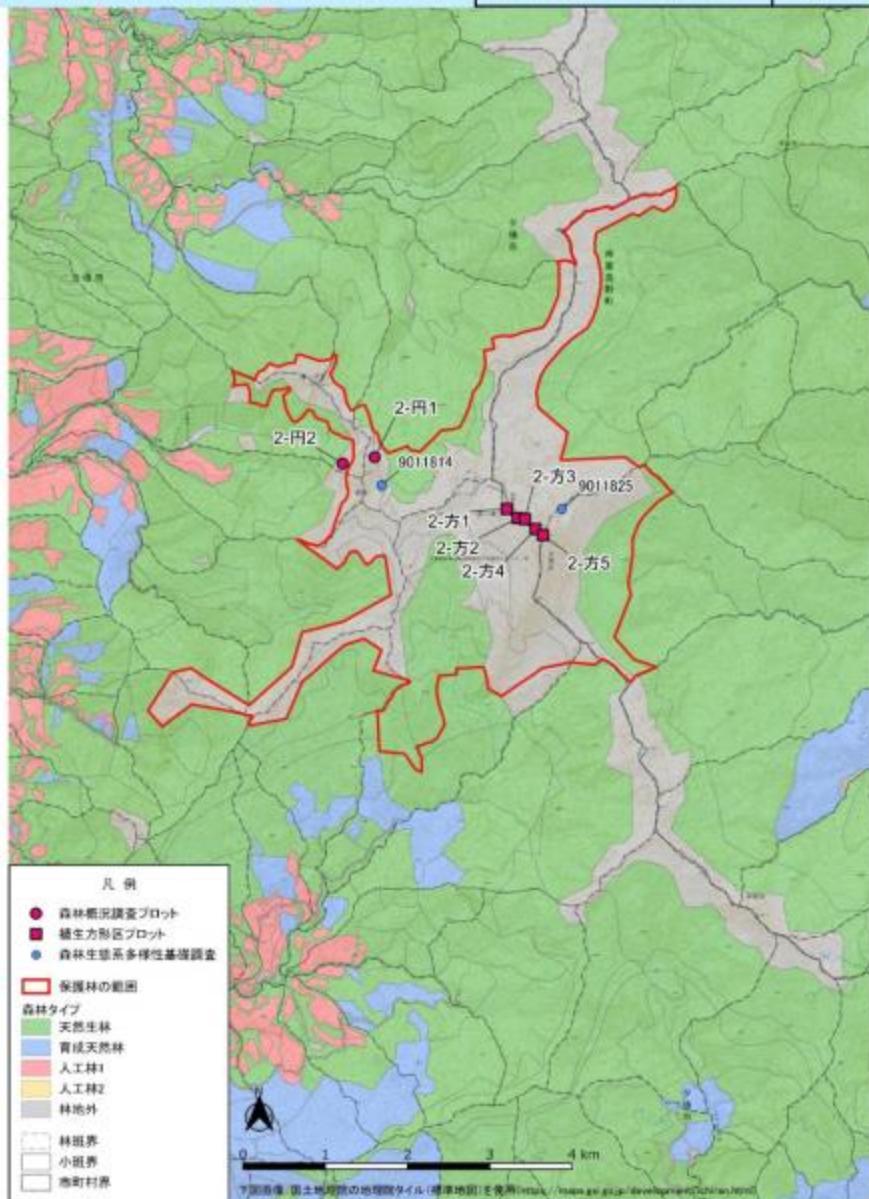
夕張岳周辺の蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩帯に見られる地域固有の生物群集を有する森林



## 2 夕張岳生物群集保護林

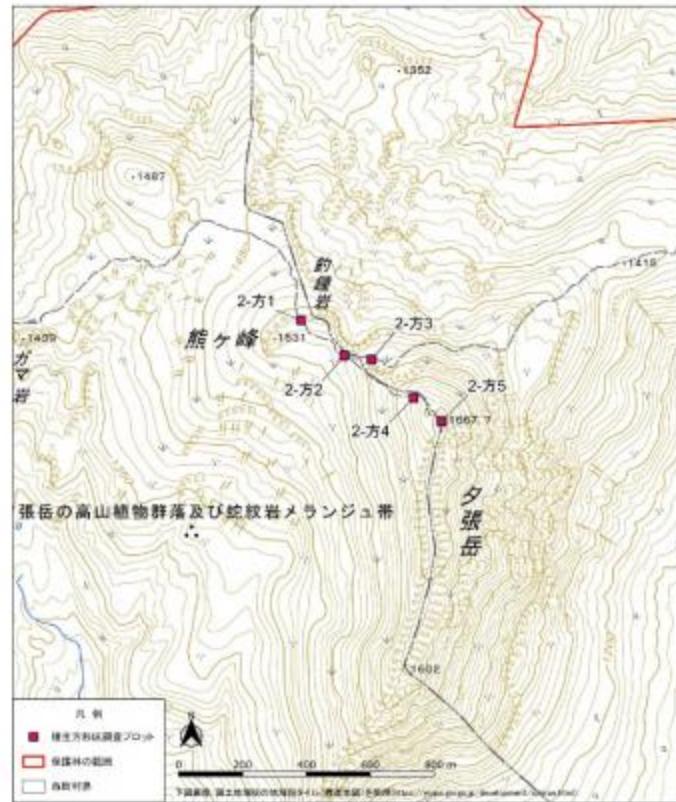
実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)



## 2 夕張岳生物群集保護林

## 調査地点位置図

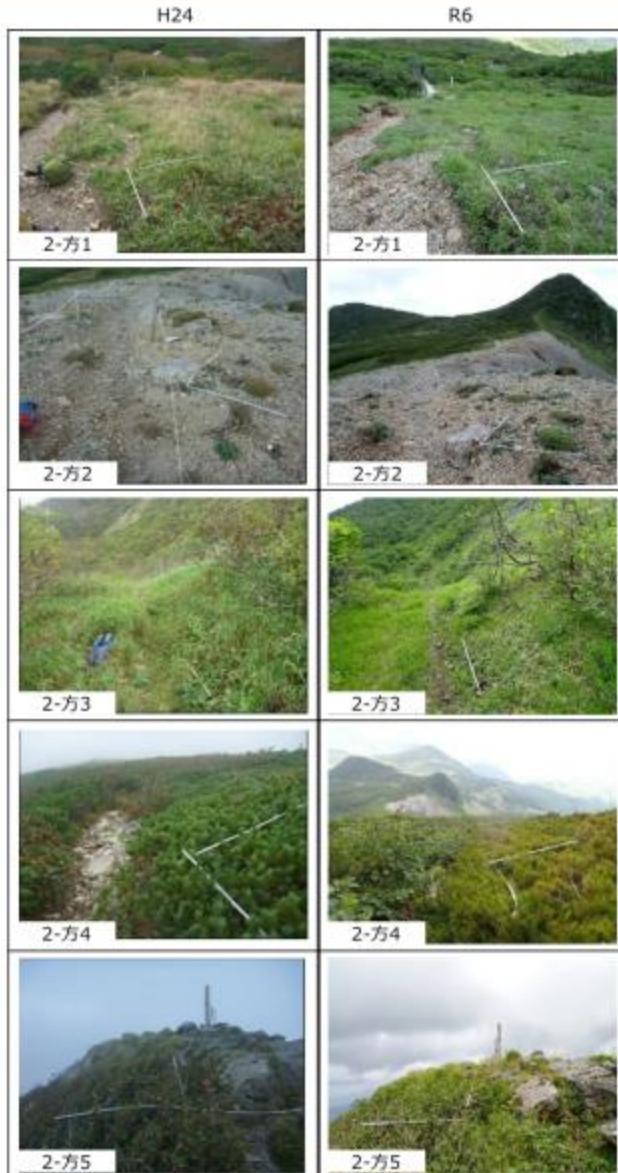


- ・全地点とも前回調査時から大きな変化はないと考えられる。

#### 実施した現地調査

### 植生方形区調査(5箇所)

植生群落組成表



## 2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区調査(5箇所)

### 植生方形区プロット調査 総括

保護林名	夕張岳生物群集保護林									
	2-方1		2-方2		2-方3		2-方4		2-方5	
プロットNo.	K22-153-7		K22-153-2		K22-153-1		K22-153-5		K22-153-6	
旧No.										
調査日	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11	2012/9/20	2024/7/11
標高	1509m		1520m		1531m		1625m		1668m	
プロット情報 斜面方位、傾斜(平均)	NW、22°		SW、8°		NE、26°		NW、25°		NW、37°	
局所地形	やせ尾根		やせ尾根		山腹平衡斜面		やせ尾根		やせ尾根	
【低・草】優占種	エゾウサギギク	エゾウサギギク	ユキバヒゴタイ	ユキバヒゴタイ	ナガバキタアザミ	エゾオヤマリンドウ	ハイマツ	ハイマツ	ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ
【低・草】高さ	0.5m	0.1m	0.9m	0.2m	0.8m	0.3m	0.6m	0.8m	0.8m	0.8m
【低・草】植被率	80%	70%	40%	40%	90%	80%	100%	100%	90%	70%
攪乱状況	なし									
病虫害	なし									
獣類痕跡【C1】	なし									
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント	特になし									
林分等の状況	大きな変化は認められない									
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]									
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然擾乱 カ:その他 ー:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う									
林況写真										

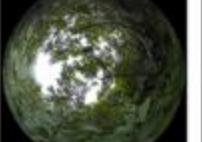
- ・各地点とも、エゾウサギギク、エゾタカネツメクサ、ユキバヒゴタイ等、北海道の高山に特徴的な種が確認された。
- ・前回調査時と比較して、被度の低い種の入れ替わりはあるものの、本来の植生が保たれており大きな変化はなかった。
- ・プロットNo.2-方1及びNo.2-方3では、優占種が置き換わりどちらの方形区もイネ科草本の生育数が減少したが、植被率に大きな変化はなく、遷移の一過程と考えられる。
- ・全地点について、食害や気象害は確認されなかった。

## 2 夕張岳生物群集保護林

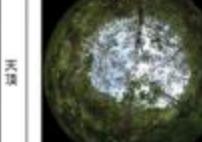
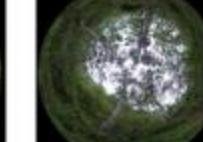
### 実施した現地調査

### 保護林森林概況調査(2箇所)

プロットNo.2-円1

項目	RT	RB	比較結果等
西北方向			大きな変化はない。
東北方向	写真なし		-
西南方向			大きな変化はない。
東南方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.2-円2

項目	RT	RB	比較結果等
西北方向			大きな変化はない。
東北方向	写真なし		-
西南方向			大きな変化はない。
東南方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

### 保護林森林概況調査 総括

保育林名	夕張岳生物群集保護林			
	プロットNo.	2-1	2-2	2-2
旧No.	20002-1	20002-2	20002-2	20002-2
調査日	2019/9/6	2024/7/11	2019/9/6	2024/7/11
標高	1310m		1255m	
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	NE 33°	E 12°	
局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面		
【高】主要構成樹種	-	-	ダケカンバ	ダケカンバ
【高】樹高	-	-	12~18m	12~18m
【高】植被率	-	-	70%	
【高】DBH	-	22~56cm	20~60cm	
【低】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	-	-
【低】樹高	6~8m	8~9m	-	-
【低】植被率	-	10%	-	-
【低】DBH	15~44cm	35~45cm	-	-
【低】主要構成樹種	ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ	ナナカマド、ミネカエデ	ミネカエデ
【低】樹高	2~5m	2~5m	2~4m	2~5m
【低】植被率	-	90%	-	30%
【低】DBH	2~10cm	3~15cm	2~5cm	2~5cm
最大樹高樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ
樹高	8.5m	8.7m	18.6m	20.9m
最大直径樹種	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ	ダケカンバ
直径	44.9cm	44.7cm	56.5cm	60.0cm
保護対象種の本数割合	-	-	-	-
気象害	-	-	-	-
病虫害	-	-	-	-
気象、病虫害のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他の痕跡 痕跡の程度	食痕 - 小	シカ道、食痕 - 微	シカ道、食痕 - 微
痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	優占する植物種 植被率 植生高	サカゲイノデ 80% 0.1~2.4m	チシマザサ 90% 0.1~2.4m	ヒメガリヤス 80% 0.1~1.5m
天然更新状況	天然更新状況	普通	普通	普通
保育林の状況	残生ダケカンバ、ミヤマハンノキが生じ、低木層にミネカエデ、ミヤマナナカマド、ウコンウツギ等が見られる。	ダケカンバ、ミヤマハンノキは基本的に板曲がりしている。天然更新は林業で行われており、林分は健全な状態である。	高木層はダケカンバ優占、並高木層は少なく、低木層にミネカエデ、ナナカマド、ミヤマハンノキ等が見られる。	ダケカンバが優占する。更新木も普通に見られ、林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外來種 エ:退化化 オ:自然復旧 カ:その他 -特になし	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
評価・課題等確認された影響	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外來種 エ:退化化 オ:自然復旧 カ:その他 -特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真	  			

・森林の状況に大きな変化は確認されなかった。  
・おおむね健全な林分であった。

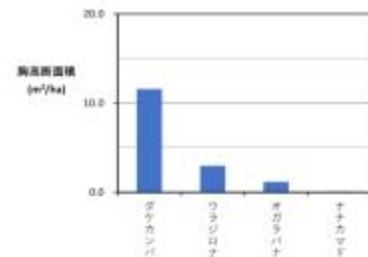
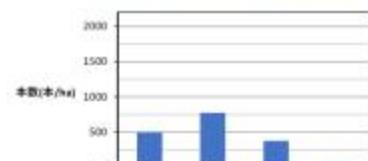
## 2 夕張岳生物群集保護林

実施した現地調査

植生方形区プロット調査(5箇所)、保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011814



ID	優占種	発達段階		高木層		亜高木層		施業 形跡	被害情報等
				高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011814	ダケカンバ	天然更新	成熟	10 ~ 13	60%	4 ~ 7	40%	なし	なし
9011825	ダケカンバ(低木)	天然更新	成熟	-	0%	-	0%	なし	なし



高山帯の状況(高層湿原)



高山帯の状況(蛇紋岩箇所)



ユウバリコザクラ



シソバキスミレ

### 確認された影響[特になし]

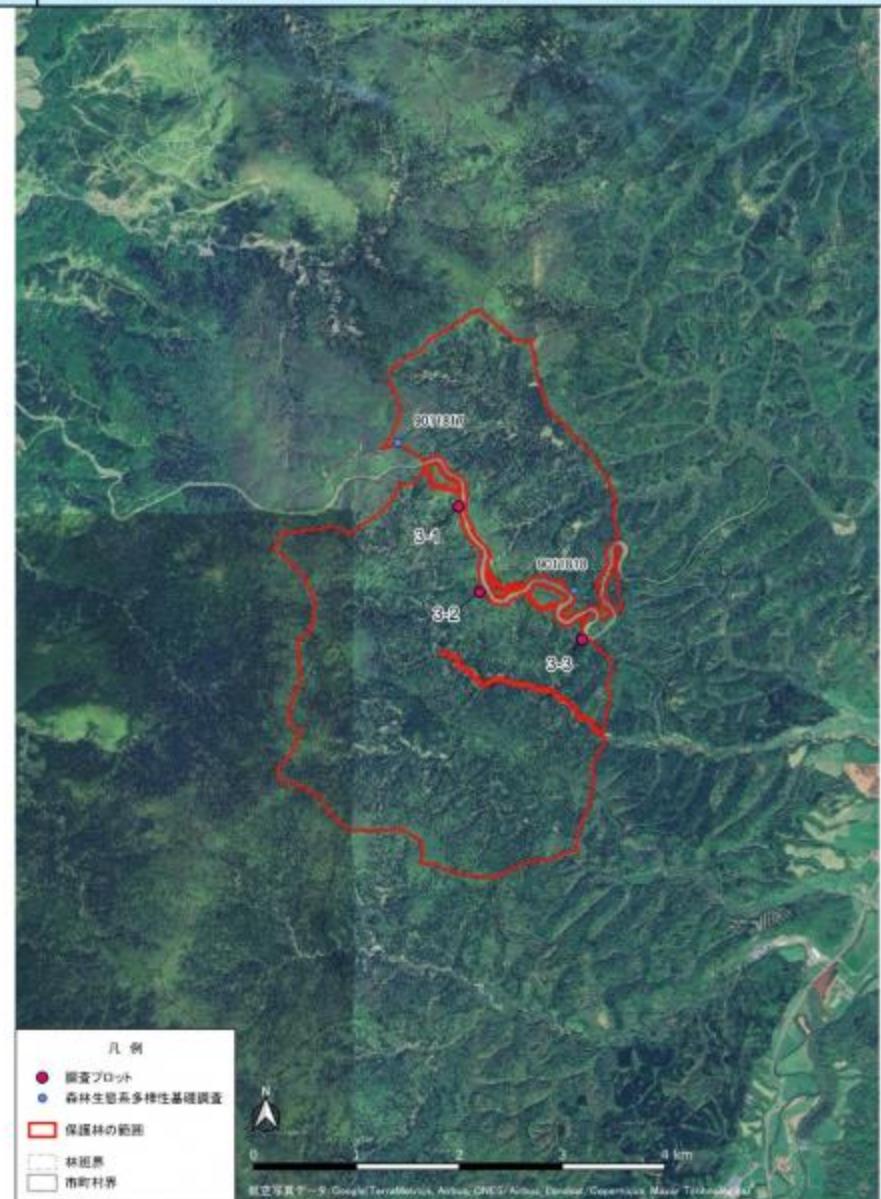
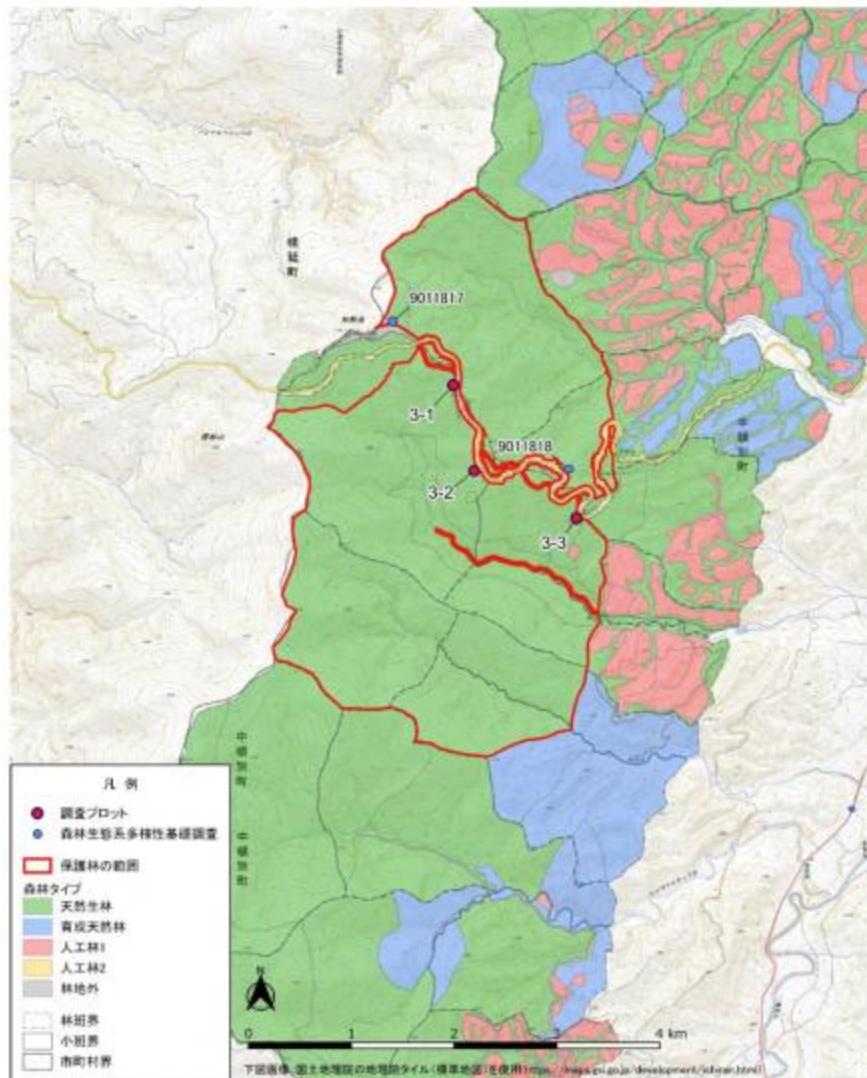
- ・高山帯の各調査地点で植生の大きな変化はみられず、良好な状態が確認された。
- ・樹林帯においては、確認される生立木はおおむね健全な状態であった。また、林床ではササが密生しているが、ほとんどの調査箇所で天然更新が確認された。
- ・本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

### 3 知駒生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

蛇紋岩地帯の知駒地域に成育したアカエゾマツ純林や針広混交林に見られる地域固有の生物群集を有する森林

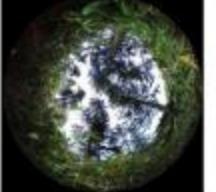


### 3 知駒生物群集保護林

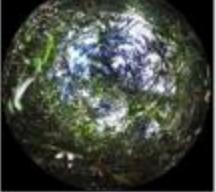
実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)

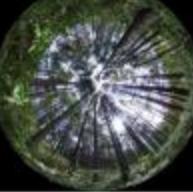
プロットNo.3-1

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.3-2

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.3-3

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

### 3 知駒生物群集保護林

#### 実施した現地調査

#### 保護林森林概況調査(3箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

##### 保護林森林概況調査 総括

保護林名	知駒生物群集保護林					
	3-1	3-2	3-3			
IDNo.	20003-1	20003-2	20003-3			
調査日	2019/7/30	2024/9/27	2019/8/27			
標高	387m	390m	288m			
斜面方位、傾斜(度)	NW 28°	NW 18°	W 20°			
局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面			
【高】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ			
【高】樹高	17~22m	18~21m	16~18m			
【高】植被率	-	-	20%			
【高】DBH	36~51cm	32~52cm	40~96cm			
【次】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	トドマツ、ダケカンバ			
【次】樹高	6~8m	15~16m	13~14m			
【次】植被率	-	5%	10%			
【次】DBH	15~36cm	20~28cm	23~37cm			
【第3】主要構成樹種	コシアブラ、オオカメノキ	コシアブラ、ミズナラ	-			
【第3】樹高	4~5m	4~6m	4~6m			
【第3】植被率	-	5%	5%			
【第3】DBH	2~7cm	4~8cm	4~8cm			
最大樹高樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ミズナラ			
樹高	21.9m	21.0m	17.5m			
最大直径樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	ミズナラ			
直径	51.0cm	44.7cm	36.0cm			
気象害	-	-	-			
病虫害	-	-	-			
乳木場、疾患等のコメント	-	-	-			
鳥獣類痕跡	-	シカ道	-			
その他の痕跡	-	-	-			
痕跡の頻度	-	無	-			
痕跡のコント	-	-	-			
侵占する植物種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ			
植被率	100%	100%	100%			
植生高	-	1.5~2.3m	1.0~2.5m			
天然更新状況	普通	普通	少ない			
林床植生	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ			
侵佔率	100%	100%	100%			
植生高	-	-	-			
天然更新状況	普通	少ない	少ない			
保護林の状況	-	林床はチシマザサが密生するが、アカエゾマツ、ミズナラの天然更新がみられる。林分は健全な状態である。	-	林床はチシマザサが密生するが、アカエゾマツ、ミズナラの天然更新がみられる。林分は健全な状態である。	-	林床はチシマザサが密生して、天然更新は少ないが、根太数が少しみられる。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題非確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア 野生鳥類 イ 出走者 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然復旧 カ その他 - 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真						



アカエゾマツの高木

##### 森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011817

ID9011818



ID	侵占種	発達段階	高木層		重蓋木層		施業	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011817	ダケカンバ	天然更新 成熟	19 ~ 21	30%	6 ~ 13	10%	なし	なし
9011818	ダケカンバ、トドマツ	天然更新 老齢	16 ~ 17	10%	7 ~ 12	20%	なし	なし

##### 確認された影響[特になし]

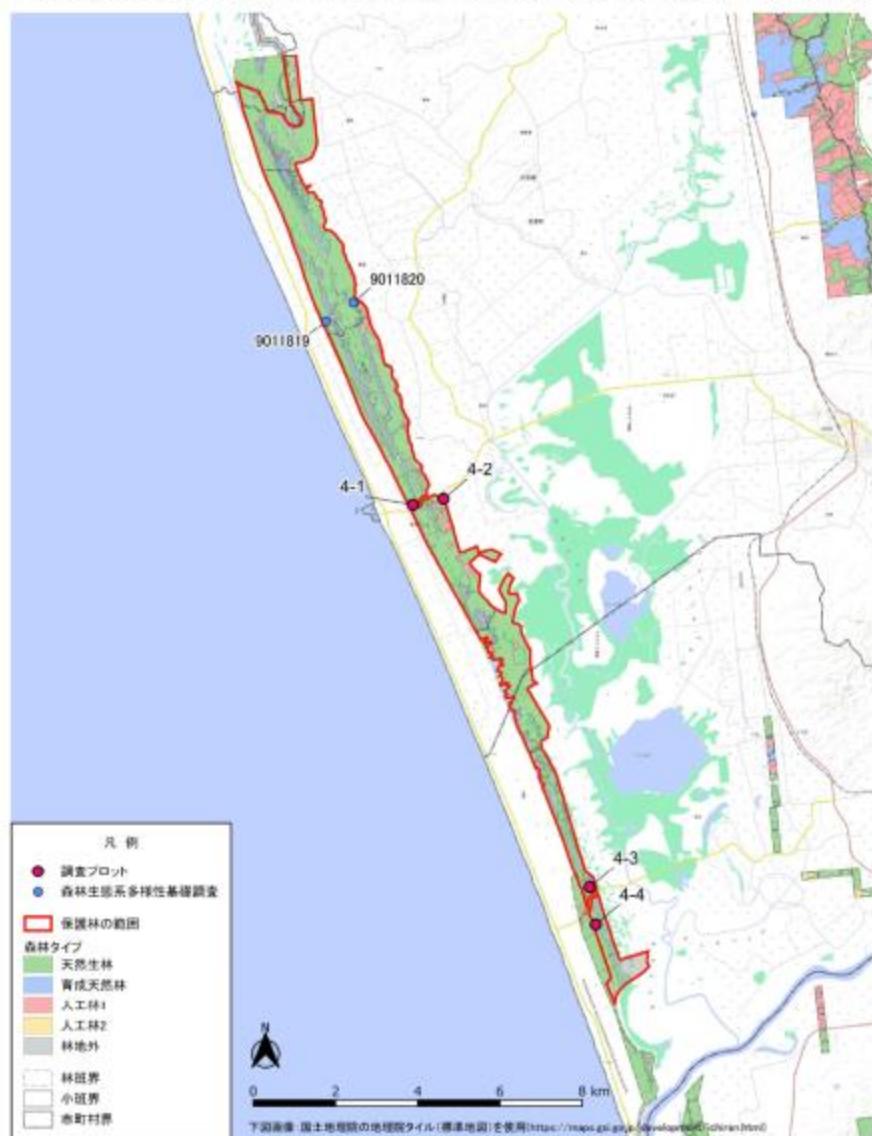
- 立木の生育状況は健全であり、林床はチシマザサが密生する箇所が多いが部分的に天然更新もみられ、林分として良好な状態を維持していた。
- 本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
- 引き続き、巡回・モニタリング等により経過を観察していく。

#### 4 稚咲内(わかさかない)生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

サロベツ地域の海岸砂丘林に見られる地域固有の生物群集を有する森林

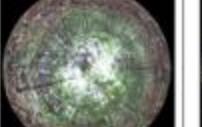
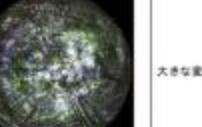


## 4 稚咲内生物群集保護林

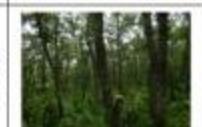
実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

プロットNo.4-1

RI	RG	比較結果等
		大きな変化はない。
写真なし		-
写真なし		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。

プロットNo.4-2

RI	RG	比較結果等
		大きな変化はない。
写真なし		大きな変化はない。
写真なし		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。

プロットNo.4-3

RI	RG	比較結果等
		大きな変化はない。
写真なし		-
写真なし		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。

プロットNo.4-4

RI	RG	比較結果等
		大きな変化はない。
写真なし		-
写真なし		大きな変化はない。
写真なし		-
		大きな変化はない。

## 4 稚咲内生物群集保護林

### 実施した現地調査

### 保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

#### 保護林森林概況調査 総括

保護林名		稚咲内生物群集保護林			
プロットNo.	4-1	4-2			
旧No.	20004-1	20004-2			
調査日	2019/8/29	2024/9/24	2019/8/2	2024/9/24	
プロット情報	標高 斜面方位、傾斜(平均) 局所地形	13m SW 18° 平坦地	3m 0° 平坦地		
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	ハンノキ	ハンノキ
	【高】樹高	10~14m	10~13m	11~14m	15~17m
	【高】植被率	-	70%	-	70%
	【高】DBH	13~20cm	18~28cm	14~27cm	16~30cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、エゾイタヤ	-	-
	【低】樹高	6~9m	7~9m	-	-
	【低】植被率	-	40%	-	-
	【低】DBH	12~15cm	12~18cm	-	-
	【既】主要構成樹種	トドマツ、コシアブラ	トドマツ	ハンノキ、エゾニワコ	エゾニワコ
	【既】樹高	3~5m	2~5m	2~3m	3~4m
鳥獣類痕跡	【既】植被率	-	20%	-	5%
	【既】DBH	2~5cm	2~5cm	5~10cm	5~10cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	ハンノキ	ハンノキ
	樹高	14.5m	13.1m	14.2m	16.3m
	最大直径樹種	ミズナラ	トドマツ	ハンノキ	ハンノキ
	直径	21.8cm	29.0cm	27.0cm	30.1cm
	気象害	風害(微)	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	飢害者、病虫害のコメント	-	-	-	-
	鳥獣類痕跡	食痕	-	-	-
鳥獣類痕跡	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	小	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	優占する植物種	チマキザサ	チマキザサ	ミゾソバ	ミゾソバ
	植被率	50%	60%	100%	80%
	植生高	-	0.1~1.1m	-	0.2~1.0m
	天然更新状況	普通	普通	多い	
保護林の状況	トドマツの天然更新が進んでおり、ミズナラは萌芽のみ。		-	ハンノキは萌芽で天然更新している。林床ではミズバショウ、ミゾソバなどが優占し、林分は健全な状態である。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然擾乱 カ:その他 シ:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

保護林名		稚咲内生物群集保護林			
プロットNo.	4-3	4-4			
旧No.	20004-3	20004-4			
調査日	2019/8/1	2024/9/24	2019/8/1	2024/9/24	
プロット情報	標高 斜面方位、傾斜(平均) 局所地形	4m W 3° 平坦地	5m W 3° 平坦地		
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ、シラカシバ	トドマツ、ミズナラ、シラカシバ	トドマツ	トドマツ、エゾイタヤ
	【高】樹高	9~13m	9~13m	16m	12~15m
	【高】植被率	-	80%	-	70%
	【高】DBH	13~29cm	16~31cm	14~26cm	16~26cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	6~8m	7~8m	8~10m	9~11m
	【低】植被率	-	10%	-	20%
	【低】DBH	9~12cm	10~13cm	10~14cm	10~15cm
	【既】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	ホオノキ、トドマツ
	【既】樹高	2~3m	2~3m	2~4m	2~4m
鳥獣類痕跡	【既】植被率	5%	5%	5%	5%
	【既】DBH	2~3cm	2~3cm	1~5cm	1~5cm
	最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	樹高	12.9m	12.8m	16.2m	15.0m
鳥獣類痕跡	最大直径樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ
	直径	29.3cm	30.5cm	24.6cm	26.2cm
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
林床植生	飢害者、病虫害のコメント	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	-	シカ道、糞、角研、食痕	シカ道、糞、角研、食痕	シカ道、糞、角研、食痕
	その他痕跡	-	小	小	小
鳥獣類痕跡	痕跡の程度	-	ササの頂芽にシカ食痕あり	シダ類にシカ食痕あり	ササの頂芽にシカ食痕あり
	痕跡のコメント	-	ササの頂芽にシカ食痕あり	シダ類にシカ食痕あり	ササの頂芽にシカ食痕あり
	鳥獣類痕跡	-	-	-	-
保護林の状況	優占する植物種	チマキザサ	クマイザサ	チマキザサ	ツタウルシ
	植被率	100%	80%	100%	70%
	植生高	-	0.3~1.0m	-	0.1~1.1m
林床植生	天然更新状況	普通	普通	多い	多い
	保護林の状況	-	-	ミズナラが優占し、茎里が多くみられる。天然更新もあり、林分は健全な状態である。	トドマツの実生多い
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
林況写真					

## 4 稚咲内生物群集保護林

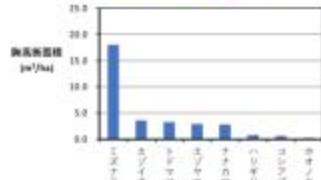
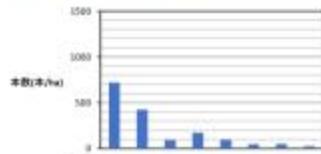
実施した現地調査

保護林森林概況調査(4箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011819

ID9011820



ID	優占種	発達段階		高木層		垂高木層		施業 形跡	被害情報等
		高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率				
9011819	ミズナラ	天然更新	成熟	7 ~ 10	90%	4 ~ 6	10%	なし	なし
9011820	エゾマツ、トドマツ	天然更新	成熟	17 ~ 24	70%	12 ~ 16	20%	なし	なし



垂高木層の状況(プロット No.1)



林床植生(プロット No.4)



保護林の外観(プロット No.2)



保護林の外観(プロット No.3)

### 確認された影響[特になし]

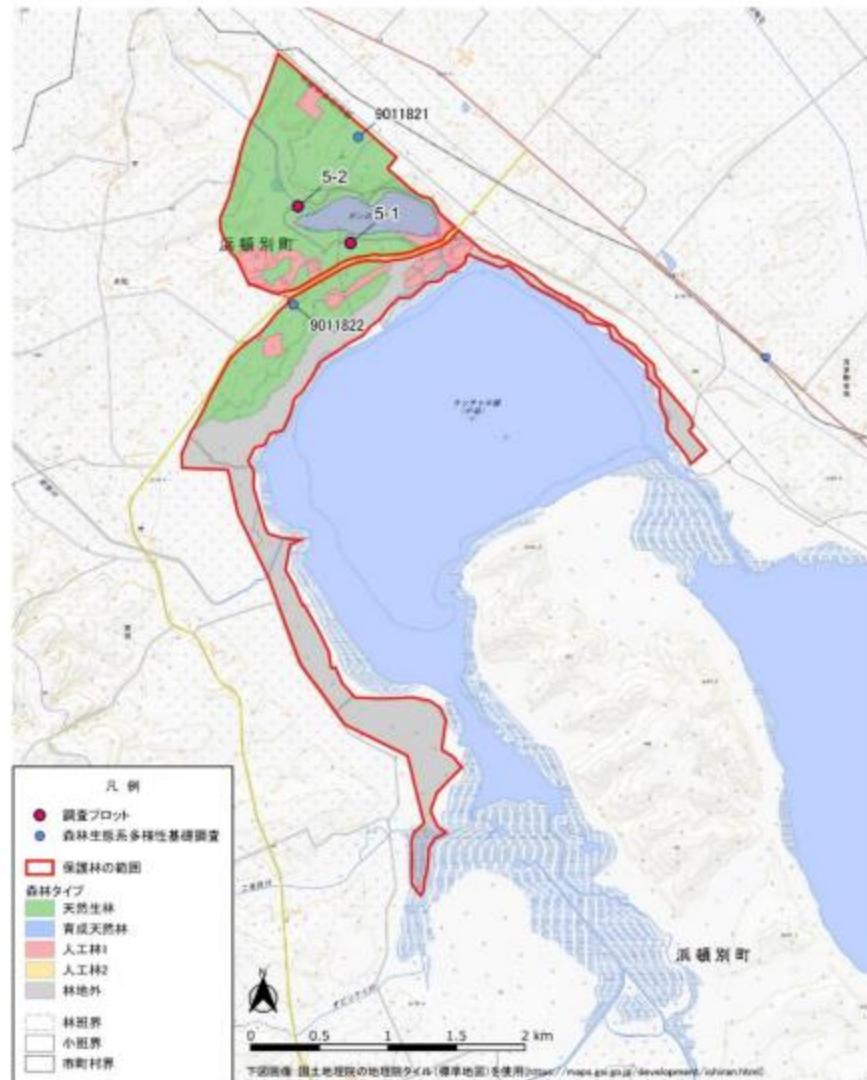
- 立木の生育状況は健全であり、天然更新は各地で多くみられ、林分として非常に良好な状態を維持していた。
- 本地域はおおむね良好に保護・管理されている。
- 引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

## 5 クッチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)、鳥類調査

ラムサール条約にも登録されているクッチャロ湖に隣接し、特有の湿地環境に見られる地域固有の生物群集を有する森林



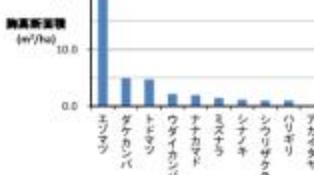
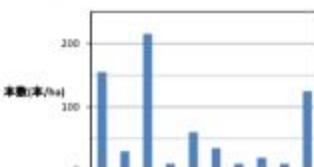
## 5 クッチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

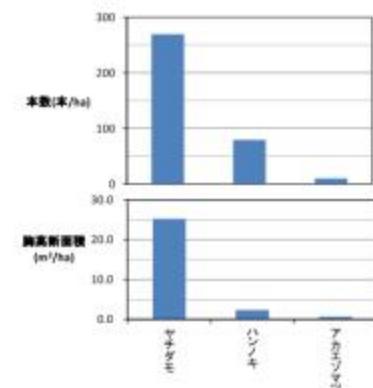
プロットNo.5-1

	R1	R6	比較結果等
北北西方向			大きな変化はない。
西北東方向	写真なし		-
西南東方向			立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
西南西方向	写真なし		立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
西方向			立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
元気			古い倒木が確認された。
			大きな変化はない。



プロットNo.5-2

	R1	R6	比較結果等
北北西方向			立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
北東方向	写真なし		立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
南東方向			立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
南西方向	写真なし		立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
西方向			立木に大きな変化はないが、ミズバショウが少し食べられている。
天頂			大きな変化はない。(今年度調査時は落葉が進んでいる。)



実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

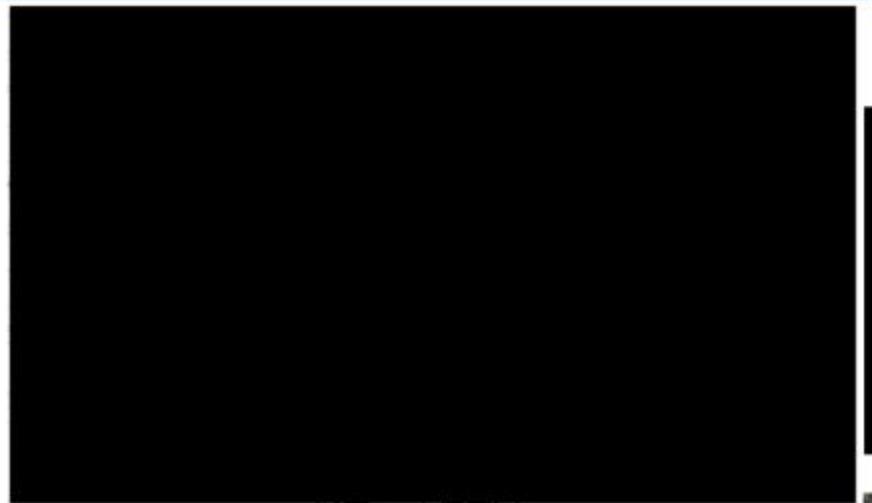
総括表

保育林名	クッチャロ湖生物群集保護林		
	5-1	5-2	
プロットNo.	20005-1	20005-2	
旧No.			
調査日	2019/7/31	2024/10/15	2019/7/31
標高	17m	2m	
プロット情報			
経度方位・傾斜(平均)	N	0°	
局所地形	平坦	湿地	
林分試況			
【高】主要構成樹種	エゾマツ、ダケカンバ	エゾマツ	ヤチダモ
【高】樹高	20m以上	23~35m	19~24m
【高】植被率	記録なし	70%	60%
【高】DBH	30cm以上	18~86cm	20~87cm
【低】主要構成樹種	トドマツ	エゾマツ	ハンノキ
【低】樹高	5~10m	8~18m	5~10m
【低】植被率	-	20%	10%
【低】DBH	10~20cm	10~18cm	8~12cm
【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	ハンノキ
【低】樹高	1~5m	2~5m	2~4m
【低】植被率	-	20%	10%
【低】DBH	5~10cm	2~5cm	4~8cm
最大樹高樹種	エゾマツ	ダケカンバ	ヤチダモ
樹高	25m以上	35m	20m以上
最大直径樹種	エゾマツ	ヤチダモ	ヤチダモ
直徑	50cm以上	86.5cm	67.2cm
気象寄 害虫寄	風寒軽微	-	-
	-	-	-
気象害等のコメント	風倒木はあるが古い。	古い風倒木があるが被害というほどではない。	-
鳥類類痕跡	エゾシカ痕跡 その他の痕跡 痕跡の程度 痕跡のコメント	あり - - -	あり - - -
森林構造			
主要構成種 (生体は80%以上)	各種混生	各種混生	草本類主体
優占する植物種	シラネウラビ等	クマイザサ	ミズバショウ
植被率	密生	30~60%	10% 夏季は40~60%
植生高	0.5m	0.1~2.1m	0.5~1.5m 0.1~0.8m
天然更生状況	普通	少ない	普通
保護林の状況	エゾマツが優占する。古い風倒木があるが、比較的健全な木分である。	エゾマツが優占する。古い風倒木があるが、比較的健全な木分である。	ヤチダモの混生林。立木は健全であった。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	シカは生息痕跡は多いが、立木への影響は今のところなし
評価・課題等確認された影響	ア:野生鳥類 イ:病害寄 ウ:外來種 エ:温帯林 オ:自然復旧 カ:その他 ー:特になし	確認された影響[オ]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真			

## 5 クッチャロ湖生物群集保護林

### 実施した現地調査

### 鳥類調査



- 確認種数は計31種であり、繁殖期ではオオバト、センダイムシクイ、キビタキ等の夏鳥を中心に計24種、越冬期ではツグミ、アトリ、[REDACTED]等の冬鳥を中心に計12種が確認された。

- 重要種として越冬期に[REDACTED]ヒオウゲカラガラスとオオアカゲラが確認された。

- 本保護林が希少な鳥類の越冬場所として利用されていることが窺えた。

- クッチャロ湖は日本とロシアを渡る水鳥の重要な中継地として、ラムサール条約登録湿地に登録されており、コハクチョウ、オオハクチョウ、ガン、カモ類の飛来、利用が確認されている。

- 過年度に設定されている調査箇所では調査位置に湖面を視認できる箇所がないため、これらの水鳥の確認はわずかであった。今後はその生息状況を把握するため、調査位置を再設定あるいは追加することを検討する。

### 確認された鳥類（繁殖期+越冬期）

No.	目名	科名	和名	学名	繁殖期	越冬期	重要種選定基準			
							1	2	3	4
1	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○					
2	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○					
3			オオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○					
4	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○					
5	ベリカン	サギ	オサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○					
6	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○					
7			[REDACTED]	[REDACTED]						
8	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Yungipicus kizuki</i>	○					
9			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○				
10			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	○					Dd
11	スズメ	カラス	ハシボソカラス	<i>Corvus corone</i>	○					
12			ハシブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○				
13		シジュウカラ	ヒガラ	<i>Periparus atter</i>	○	○				
14			ヤマガラ	<i>Sittiparus varius</i>	○					
15			ハシブトカラ	<i>Poecile palustris</i>	○					
16		シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus cineraceus</i>	○	○				
17			ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○				
18			ウグイス	<i>Horornis diphona</i>	○					
19			エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○					
20		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○					
21		センニユウ	エゾセンニユウ	<i>Locustella amnicola</i>	○					
22		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○					
23		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>						○
24		ツグミ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○					
25			アカバラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○					
26			ツグミ	<i>Turdus eunomus</i>						○
27		ヒタキ	コマドリ	<i>Larvivora akhalige</i>	○					
28			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○					
29		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>						○
30			カフラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○					
31			マヒワ	<i>Spinus spinus</i>						○
計	7目	18科			31種		24種	12種	1種	1種 2種

注1)種名及び学名は日本鳥類目録改訂第8版(日本鳥学会 2024)に準拠した。

注2)重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

1「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)、「北海道文化財保護条例」(昭和30年 北海道条例第83号)

特天:特別天然記念物(国指定), 国天:天然記念物(国指定), 道天:天然記念物(道指定)

2「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)

国内:国内希少野生動植物種, 緊急:緊急指定種

3「環境省レッドリスト2020」(令和2年環境省)

EX:絶滅, EW:野生絶滅, CR:絶滅危惧ⅠA類, EN:絶滅危惧ⅠB類, VU:絶滅危惧Ⅱ類,

NT:準絶滅危惧, LP:絶滅のおそれのある地域個体群, DD:情報不足

4「北海道レッドリスト【鳥類編】2017」(平成29年 北海道)

Ex:絶滅, EW:野生絶滅種, Or:絶滅危惧ⅠA類, En:絶滅危惧ⅠB類, Vu:絶滅危惧Ⅱ類,

Nr:準絶滅危惧, N:留意, Lp:絶滅のおそれのある地域個体群, Dd:情報不足

## 5 クッチャロ湖生物群集保護林

実施した現地調査

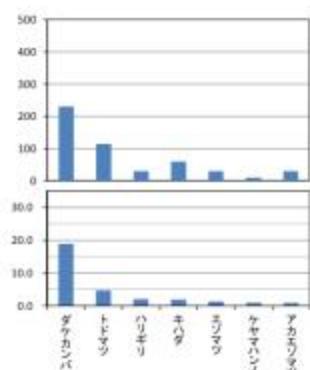
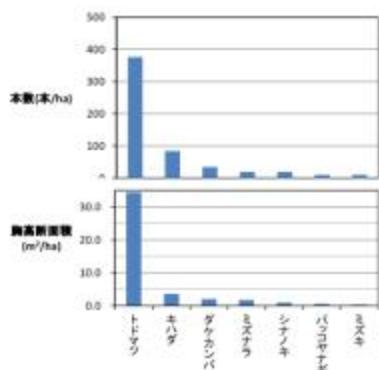
保護林森林詳細調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(2箇所)、鳥類調査

森林生態系多様性基礎調査(2箇所)

ID9011821



ID9011822



保護林の外観



ポン沼



エゾマツ、トドマツ生立木(プロット1)



ハンノキの萌芽(プロット2)

- ・湖を囲むように成立している北方系森林の針葉樹林は、おおむね健全な状況であった。
- ・水際の渓畔林については、立木についてはおおむね健全であったが、林床にシカの食痕が多く確認された。

ID	優占種	発達段階	高木層		至高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011821	トドマツ	天然更新 成熟	20 ~ 25	90%	10 ~ 15	20%	なし	なし
9011822	ダケカンバ	天然更新 成熟	20 ~ 24	80%	10 ~ 16	30%	なし	なし

## 6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

礼文島に見られる地域固有の生物群集を有する森林



礼文島全景 2024.6.21

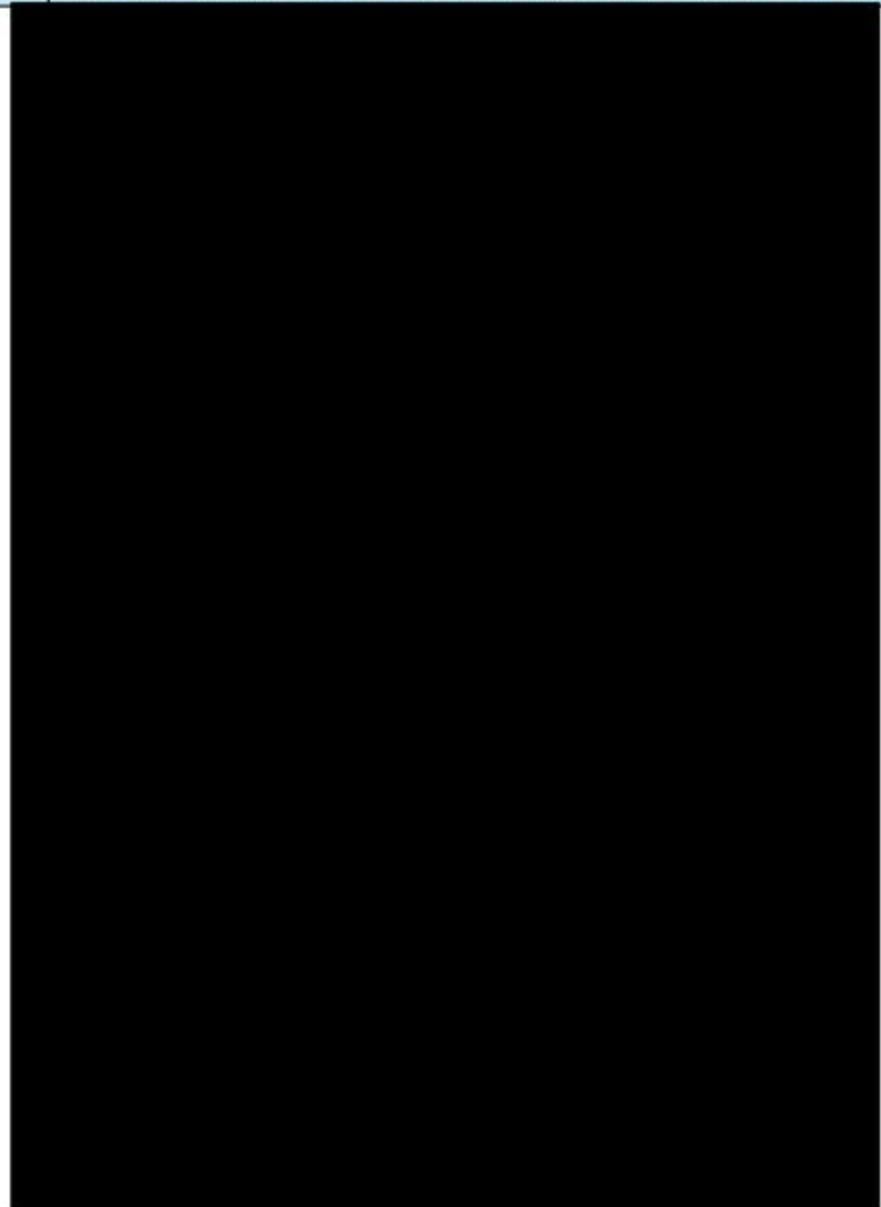
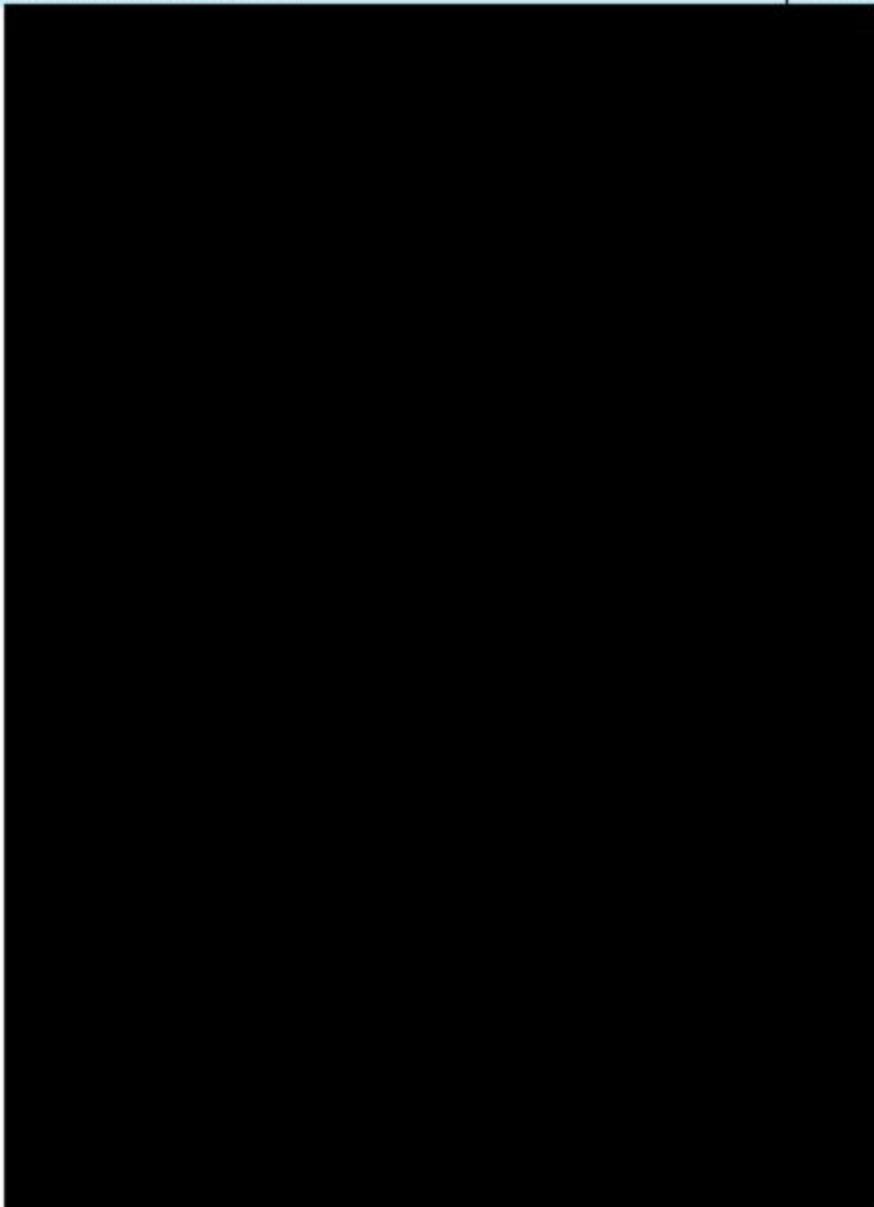


西海岸の草原 2024.6.19

## 6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

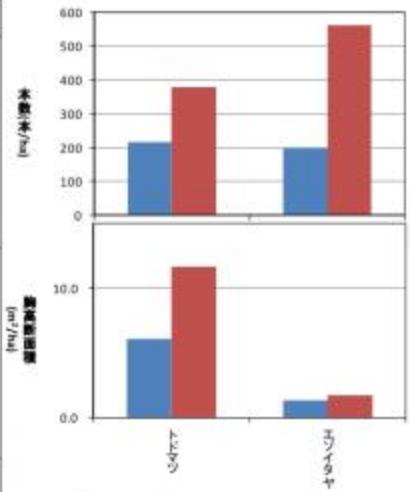
保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)



## 6 礼文島生物群集保護林

### レブンアツモリソウ群生地 樹林部（プロットNo.6-1）

	H26	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。



・プロット1では過年度調査で42株確認されたが、今回調査では一株も確認されず、古い盗掘跡のようなものが確認された。プロット周辺を踏査したところ、1地点1株が確認された。



調査区番号	6-1		
区分	小円	N区	S区
調査年月	H26.9月	R6.6月	
方位	E		25
傾斜(°)		半径6.23mの円	4m×6.23m
調査面積		山腹平衡斜面	
低木層の植被率(%)	20	20	30
低木層の優占種	トドマツ	トドマツ	ヤマグワ
草本層の植被率(%)	100	100	100
草本層の優占種	スキ	スキ	オニシモツケマイヅルソウ

出現種数	31	31	23	20
低木層				
トドマツ	2	2	○	○
エゾイタヤ	1	1	○	○
ヤマグワ	2	1	○	○
ツルウメモドキ	+	+		
草本層				
スキ	4	4	○	○
オオヨモギ	2	2	○	○
アキタブキ	1	2	○	○
ヤマブドウ	2	1	○	○
イワヨモギ	1	1	○	○
エゾイタヤ	1	1	○	○
スゲ属の一種①	1	1	○	○
スゲ属の一種②	1	1	○	○
ツルウメモドキ	1	1	○	○
ハンゴンソウ	1	1	○	○
エゾグマナ	1	1	○	○
オオイタドリ	+	1	○	○
オオバセンキウ		1	○	○
オククルマムグラ	1		○	○
トクサ	1	+	○	○
ミヤママタタビ		1	○	○
チョウセンゴミシ	+	+	○	○
ツタウルシ	+	+	○	○
マイヅルソウ	+	+	○	○
アキカラマツ	+	+	○	○
エゾヒヨウタンボク	+	+	○	○
オニシモツケ	+	+	○	○
サイハイイン	+	+	○	○
サルナシ	+	+	○	○
ゼンティカ	+	+	○	○
アザミ属の一種		*	○	○
クサフジ	+	*	○	○
クルマバナウ	+	*	○	○
ツリガネニンジン	+	*	○	○
トドマツ				
ルイヨウショウマ	+	*		
アマニュウ	+	*		
ウシノケグサ	+	*		
ギョウジャニンニク				
セリ科の一種				
チシマザサ				
ツクバネソウ				
ツルシキミ				
トガスグリ				
ナニワズ			○	○
ハリギリ		*	○	○
ヤマグワ	+			

## 6 礼文島生物群集保護林

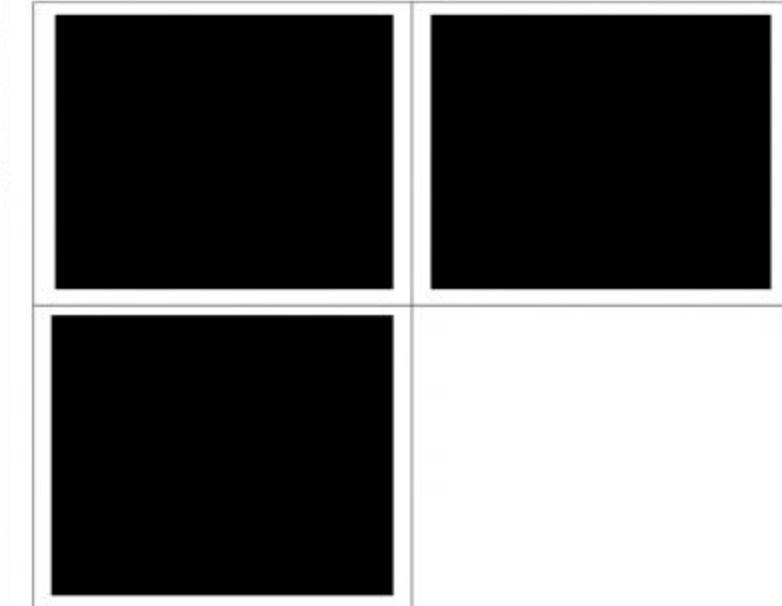
実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)

### レブンアツモリソウ群生地 草地部 (プロットNo.6-2)

	H26	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

調査区番号	6-2			
区分	小円	N区	S区	
調査年月	H26 9月	R6 6月		
方位	S			
面積(㎡)	18			
調査面積	半径6.23mの円	4m × 6.23m		
地形	山腹平衡斜面			
草本層の被覆率(%)	90	80	90	
草本層の種占種	イブキジャコウソウ	イブキジャコウソウ	チシマザサ	
	ハイネズ			
出現種数	37	32	22	
草本層				
イブキジャコウソウ	3	2	○	
ウシノケグサ	2	2	○	
ハイネズ	2	2	○	
スゲ属の一種	2	2	○	
オトコヨモギ	2	1	○	
ツリガネニンジン	2	1	○	
テンキグサ	1	2	○	
エゾカワラナデシコ	1	1	○	
ヤマブドウ	1	1	○	
トクサ	1	1	○	
ヒメイズイ	1	1	○	
トウゲブキ	2	+		
エゾノカワラマツバ	+	1	○	
コウゾリナ	1	+	○	
スギナ	+	1	○	
ネムロシオガマ	1	+	○	
ハマエンドウ	+	1	○	
イワヨモギ	1	+	○	
ハマナス	+	1	○	
ホタルサイコ	1	+	○	
オオハナウド	1	1	○	
レブンイワレンゲ	1	+		
カラフトニンジン	1			
キタノコギリソウ	1			
ススキ	1			
ヒロハウラジロヨモギ	+	+	○	
スズメノヤリ		+	○	
ハナイカリ	+	+		
ハマボウフウ	+	+		
ヒロハクサフジ	+	+		
ミヤマアキノキリンソウ	+	+	○	
ヤマハギ	+	+	○	
リシリビャクシン	+			
エゾコゴメグサ	+			
オオカサモチ	+			
キジムシロ	+			
コウボウシバ	+			
コマユミ				
チシマザサ				
チシマフウロ				
キク科の一種				
ニッコウシダ	+			
ノコギリソウ属の一種				
ハクサンチドリ				
ハチジョウナ	+	+		
ハママタザオ	+	+		
マイヅルソウ				
マルバトウキ	+			
ミヤマビャクシン	+			



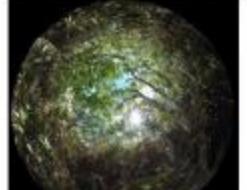
- ・出現種はやや減少したが、草地環境は過年度調査時と比較して大きな変化はみられなかった。
- ・プロット2では、過年度調査時に大円部で24個体確認された[REDACTED]は、プロット内では確認されなかつたが、周辺で2箇所26個体が確認された。

## 6 礼文島生物群集保護林

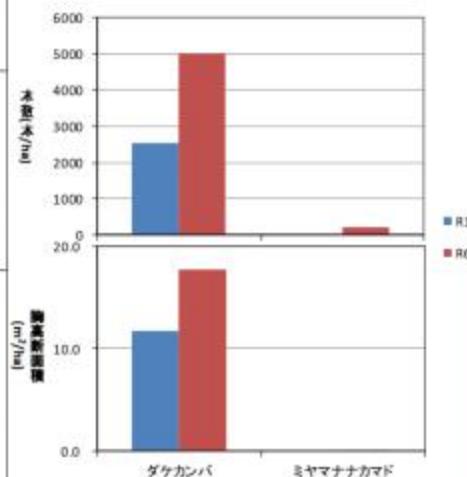
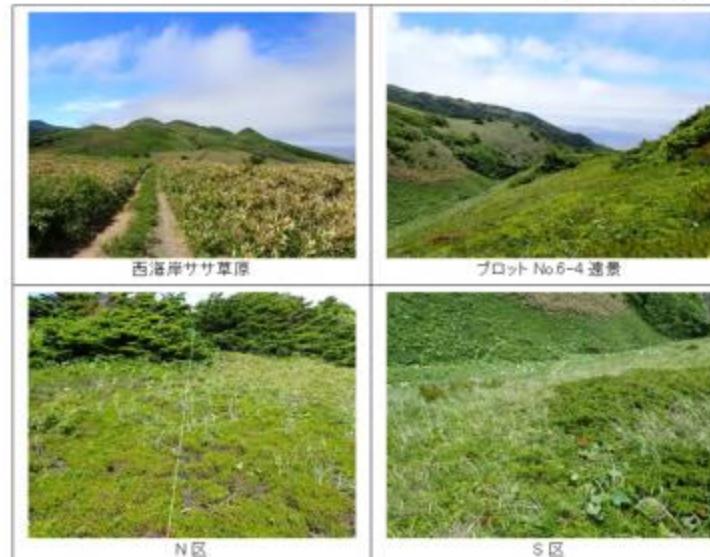
実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)

### 西海岸の植物群落 ダケカンバ低木林（プロットNo.6-3）

	R1	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

### 草地（プロットNo.6-4）



調査区番号	6-4		
	小円	N区	S区
調査年月	R16月	R6.6月	
方位	SE		
傾斜 (°)	22		
調査面積	半径6.23mの円	4m × 6.23m	
地形	山腹地積面		
低木層の植株率(%)	10	30	0
低木層の優占種	トドマツ	トドマツ	-
草本層の植株率(%)	100	90	90
草本層の優占種	ガンコウラン	ガンコウラン	イワガリヤス

出現種数	25	18	9	14
低木層				
トドマツ	2	2		
ダケカンバ	1	1		
草本層				
ガンコウラン	3	3	○	○
ハイイヌツヅ	2	2	○○	○
イワガリヤス	1	2	○○	○
トドマツ	2		○○	○
コケモモ	1	+	○○	○
スゲ属の一種	1		○○	○
スキ	1		○○	○
ダケカンバ	1	+	○○	○
チシマフレモコウ	+	1	○○	○
ツリガネニンジン	1	+	○○	○
トウゲブキ	+	1	○○	○
ハイマツ	1	+	○○	○
ミヤマビャクシン	1		○○	○
リシリビャクシン	1		○○	○
アスピカズラ	+		○○	○
エゾヨロイグサ	+		○○	○
オオイタドリ	+		○○	○
オオタカネイバラ	+		○○	○
オオバセンキュウ	+		○○	○
スゲ属の一種①			○○	○
スゲ属の一種②			○○	○
チシマフウロ	+	+	○○	○
ハイネズ			○○	○
ヒロハシラホニンジン	+		○○	○
ミヤマアキノキリンソウ	+	+	○○	○
ミヤマナナカマド	+	+	○○	○
ミヤママタタビ	+	+	○○	○
ヤマハハコ	+		○○	○

- ・ダケカンバ低木林では、状況は変化しておらず、胸高断面積の増加がみられた。
- ・草地群落では、出現種はやや減少したが、ガンコウランが優占する状況に変化はなく、林床は過年度調査時と比較して大きな変化はみられなかった。

## 6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

### ハイマツ帯 (プロットNo.6-5)

	R1	R6	比較結果等
稚北方向			大きな変化はない。
稚東方向	写真なし		-
稚南方向			大きな変化はない。
稚西方向	写真なし		-
天頂			大きな変化はない。

調査区番号	6-5		
区分	小円	N区	S区
調査年月		R6.6月	
方位		NW	
傾斜(°)		28	
調査面積	半径6.23mの円	4m×6.23m	
地形	山腹平衡斜面		
草本層の植被率(%)	100	100	100
草本層の優占種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ

出現種数	11	6	5
草本層			
ハイマツ	4	○	○
チシマザサ	4	○	○
トドマツ	1	○	○
オオバヌノキ	1	○	○
ツルツゲ	1	○	○
イチヤクシウ属の一種	+		
ザゼンソウ	+		
ダケカンバ	+	○	
ツツジ科の一種	+	○	
ホソバトウゲシバ	+	○	○

・ハイマツ帯では大きな変化はみられなかった。

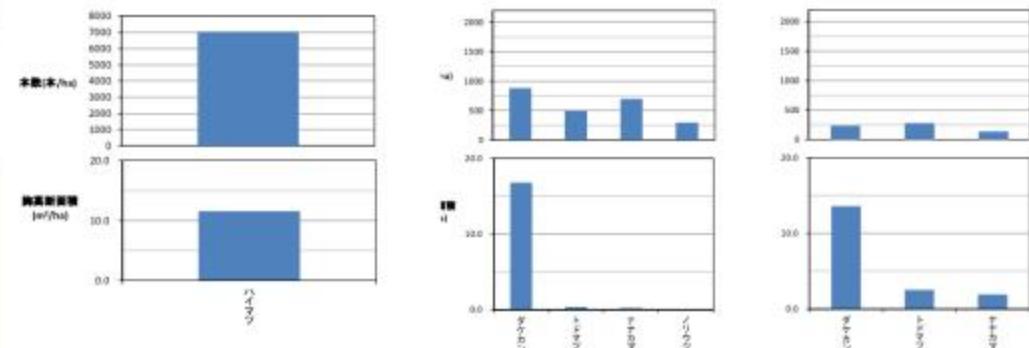
・森林生態系調査の1地点はハイマツ低木林、2地点はダケカンバの優占する落葉広葉樹林である。比較的健全な林分であり、大きな変化はみられなかった。

### 森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

ID9011830

ID9011831

ID9011832



ID	優占種	発達段階		高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
		天然更新	成熟	高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
9011830	ハイマツ(低木)	天然更新	成熟	-	0%	-	0%	なし	なし
9011830	ダケカンバ	天然更新	成熟	8 ~ 13	60%	2 ~ 4	10%	なし	なし
9011830	ダケカンバ	天然更新	老齢	8 ~ 14	30%	4 ~ 8	20%	なし	なし

## 6 礼文島生物群集保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(5箇所)、森林生態系多様性基礎調査(3箇所)

### 保護林調査 結果一覧

保護林名	礼文島生物群集保護林				
	8-1	8-2	8-3	8-4	8-5
IDNo.	70-1	70-2	20007-4(79-3)	20007-3(73-2)	20007-3(74-1)
調査日	2019/6/4	2024/6/18	2019/6/4	2024/6/21	2019/6/27
標高	50m	80m	190m	180m	290m
経度緯度 経度方位、標高(平均)	E 25° 北緯 41° 50' 00"	S 18° 北緯 41° 50' 00"	NW 20° 北緯 41° 50' 00"	SW 22° 北緯 41° 50' 00"	NW 28° 北緯 41° 50' 00"
最寄地名	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面
【登】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	ダケカンバ	トドマツ	ハイマツ、トドマツ
【登】樹高	5~8m	6~10m	2~6m	2~6m	1~1.5m
【登】樹被率	30%	30%	80%	10%	50%
【登】DBH	15~28cm	12~33cm	-	-	-
【底】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	ダケカンバ	トドマツ、トドマツ	ハイマツ、トドマツ
【底】樹高	2~5m	2~5m	2~6m	2.5m	1~1.5m
【底】樹被率	20%	20%	80%	10%	50%
【底】DBH	1~5cm	1~4cm	3~14cm	2~18cm	4~10cm
最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	ダケカンバ	トドマツ	トドマツ
胸高	80m	10.4m	8.0m	8.2m	3.0m
最大生存樹種	トドマツ	トドマツ	ダケカンバ	トドマツ	トドマツ
直径	29.6cm	32.9cm	14.6cm	17.8cm	9.0cm
気象書	-	-	-	-	-
病虫害	-	-	-	-	-
風景、気象等のコメント	-	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	-	-	-	-	-
その他の跡	-	-	-	-	-
盗伐の程度	-	-	-	-	-
盗伐のコメント	-	-	-	-	-
侵入する植物種	ススキ、オオヨモギ	ススキ、マイヅルソウ	イブキヨウソウ、トツノク	記載なし	チシマザサ
植生率	100%	90%	80%	100%	100%
新生高	0.1~20m	0.1~5m	-	0.1~2.5m	0.1~0.3m
天然更新状況	普通	普通	普通	普通	普通
保護林の状況	-	-	-	-	-
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア：野生鳥獣、イ：農畜害、ウ：外来種 エ：道場化、オ：自然復旧、カ：その他 △：なし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					



### 確認された影響[その他]

- 樹林部、草原部とともに大きな変化や森林被害もなく、到達経路上においても高山植物が多く確認され、自然環境としてはおおむね良好な状態を保っているといえる。
- 痕跡は古いが、██████████の盗掘跡と見られる痕跡が確認されたことから、引き続き関係機関と連携しながら巡視を実施していく。気象害についても注視していく。

### 3. モニタリング調査結果報告

3-3. 希少個体群保護林（31箇所）

### 3-3. 希少個体群保護林（1/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
7	30111	天狗岳高山植物希少個体群保護林 (177.45ha)	定山渓天狗岳に自生する高山植物	R2	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。 ・立木および高山植物の生育状態は健全であり、林分として良好な状態を保っていた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	30112	漁入ハイデ風穴植生希少個体群保護林 (13.71ha)	定山渓の風穴植生地に自生するハイマツやイソツツジなど	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はなく、健全な林分であった。 ・カラフトイソツツジ、リンネソウ等の生育が確認され、風穴周辺に特徴的な植生状況もおおむね良好であった。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	30201	岐山高山植物希少個体群保護林 (164.93ha)	岐山の石灰岩礫地に自生する地域固有の希少な高山植物	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・プロット1では天然更新も確認され、比較的健全な林分であった。林床ではクマイザサの一斉枯死がみられた。 ・プロット2では立木は健全であったが、天然更新はやや少ない。 ・本調査において確認された高山植物は健全な状態であった。	5年	確認された影響[特になし] ・今後も入山制限を続けることにより盗掘等を防ぎ、巡回等によりエゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより高山植物等の生育状況を注視していく。
10	30202	月形スギ希少個体群保護林 (2.12ha)	明治23(1890)年に植栽されたスギ	R1	・森林詳細調査 (2箇所)	・スギの天然更新はないが、立木は比較的健全な林分であった。 ・ネズミの食害も確認されたが、ネット等により保護されている。	10年	確認された影響[野生鳥獣] 数個体について、ネズミの食害による枯死があるが、根本にネットを巻き付ける対策が取られていた。 ・隣地で、スギの遺伝資源を絶やさないための植林がなされている。
11	30203	三笠チョウセンカラマツ希少個体群保護林 (0.81ha)	大正5(1916)年に植栽されたチョウセンカラマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。	10年	確認された影響[特になし] ・チョウセンカラマツの天然更新はみられず、主にアカイタヤの天然更新がみられ、今後は落葉広葉樹林に遷移していくことが考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
12	30204	ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林 (1.00ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。	10年	確認された影響[野生鳥獣] ・プロットおよびその周辺にミズナラは少なく、天然更新もみられなかった。また、エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。

## 7 天狗岳高山植物希少個體群保護林

## 実施した現地調査

### 保護林森林概況調查(2箇所)

保護林森林概況調查 總括

### 確認された影響[特になし]

- ・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
  - ・立木および高山植物の生育状態は健全であり、林分として良好な状態を保っていた。
  - ・更新状況を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

プロットNo.7-1



A close-up photograph of a flowering plant, likely a Geranium species. The plant features large, deeply lobed green leaves and clusters of small, pinkish-purple flowers at the leaf axils.

[View all posts by \*\*John\*\*](#) [View all posts in \*\*Uncategorized\*\*](#)

Digitized by srujanika@gmail.com

1

## 8 漁入(いざりいり)ハイデ風穴植生希少個体群保護林



プロットNo.8-1		
南北	東西	比較結果等
南北	東西	大きな変化はない。
南北	東西	写真なし
南北	東西	大きな変化はない。
南北	東西	写真なし
南北	東西	大きな変化はない。
南北	東西	大きな変化はない。

プロットNo.8-2		
南北	東西	比較結果等
南北	東西	立木に大きな変化はないが、ササが一箇に枯れています。
南北	東西	ササが一箇に枯れていない。
南北	東西	立木に大きな変化はないが、ササが一箇に枯れています。
南北	東西	ササが一箇に枯れていない。
南北	東西	立木に大きな変化はないが、ササが一箇に枯れています。
南北	東西	ササが一箇に枯れていない。
南北	東西	立木に大きな変化はないが、ササが一箇に枯れています。

### 実施した現地調査

### 保護林森林詳細調査(2箇所)

#### 保護林森林詳細調査 総括

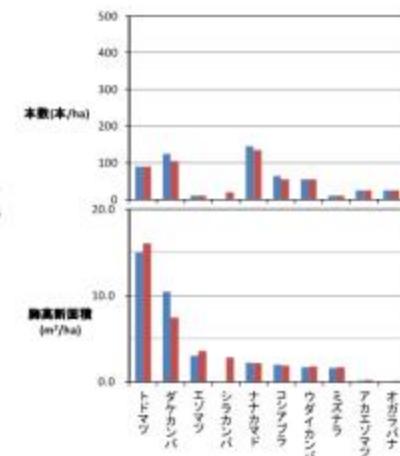
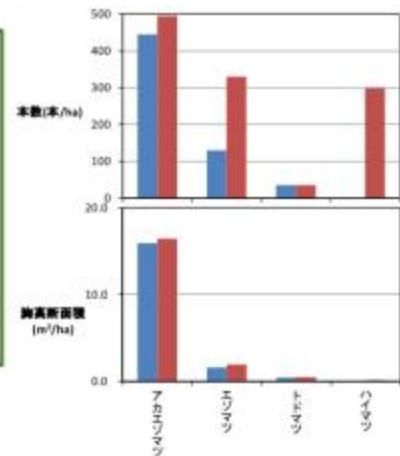
漁入ハイデ風穴植生希少個体群保護林

保護林名	保護対象種	B-1	B-2
プロットNo.	3012-1	3012-2	
調査日	2023/10/10	2024/5/7	2023/10/10
標高	705m	757m	
プロット情報	面積(ヘクタール/平均)	面積15	NE107
	所在地地名	山野千瀬田	平坂屋根
【高】主張構成樹種	アカエノマツ	トドマツ	トドマツ
【高】樹高	13~27m	17~26m	18~26m
【高】種被率	-	20%	90%
【高】DBH	25~55cm	23~57cm	25~64cm
【低】主張構成樹種	アカエノマツ	ナナカマド	ナナカマド
【低】樹高	7~12m	7~13m	8~14m
【低】種被率	-	10%	20%
【低】DBH	9~18cm	9~20cm	10~24cm
【低】主張構成樹種	アカエノマツ	アカエノマツ	アカエノマツ
【低】樹高	15~25m	15~25m	4~8m
【低】種被率	-	40%	9%
【低】DBH	1~6cm	1~7cm	6~10cm
最大相馬高樹種	アカエノマツ	アカエノマツ	ダケカンバ
底高	26.5m	26.9m	26.6m
最大底径樹種	アカエノマツ	トドマツ	トドマツ
直径	56.1cm	57.3cm	64.0cm
気象害	-	-	-
病虫害	-	-	-
氣象、雨季害のコシクト	-	-	-
鳥類類似度	-	シカラ、黄、角研	黄、東原
底筋のコシクト	-	-	-
侵占する植物種	カラフトイソツツジ	カラフトイソツツジ	チシマザサ
被植率	60%	60%	100%
植生高	-	-	-
天然更新状況	-	多い	-
保護林の状況	-	-	立木の生長状況は良好、林床のマウイナガが枯死しているため、今後の更新伐採とともに、林床植被の更なる改善が必要である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	立木に大きな変化はないが、林床ではササが一箇に枯れていた
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[+]
アカエノマツ、イ、楠、油茶、ウツバキ等 エラスモニア、オ、自然灌木、カ、その他 -特になし	引き抜きモニタリングによる経過観察を行う	引き抜きモニタリングによる経過観察を行う	引き抜きモニタリングによる経過観察を行う



#### 確認された影響[特になし]

- 林相に大きな変化ではなく、健全な林分であった。
- カラフトイソツツジ、リンネソウ等の生育が確認され、風穴周辺に特徴的な植生状況もおおむね良好であった。
- ササの一箇枯死がみられた。



## 9 峰山(きりぎしやま)高山植物希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

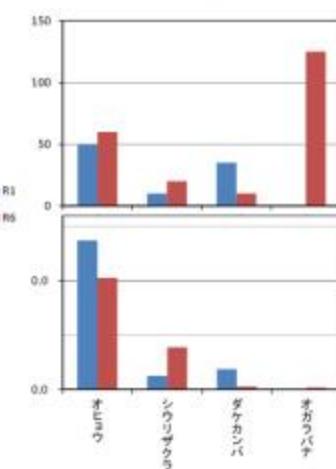
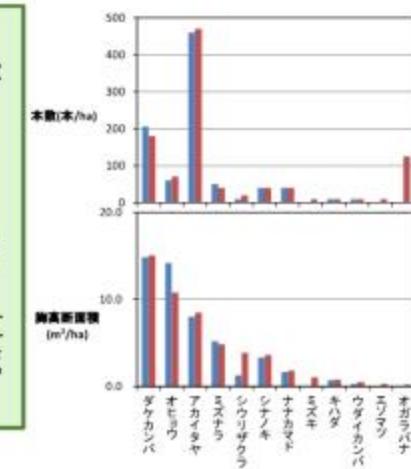


保護林名	峰山高山植物希少個体群保護林			
	9-1	2024/4/1	9-2	2024/4/25
面積	800m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>
調査日	2024/9/11	2024/6/26	2024/9/11	2024/6/25
標高	19~38m	30m	25~30m	25~30m
プロット情報	W9°	NW30°	山腹平衡面図	
樹種				
【高】玉翠草成田櫻	タケガシバ	ボヒロツ	ボヒロツ	ボヒロツ
【高】樹高	16~23m	16~37m	19~38m	19~38m
【高】種類率	-	80%	30%	30%
【高】DBH	25~47cm	20~56cm	25~56cm	25~60cm
【高】主要構成樹種	アカイグサ	ナナカマド	タケガシバ	タケガシバ
【高】樹高	8~14m	8~14m	7~10m	7~10m
【高】種類率	-	30%	-	10%
【高】DBH	10~18cm	10~18cm	10~16cm	8~18cm
【高】主要構成樹種	アカイグサ	タケガシバ	ボヒロツ	ボヒロツ
【高】樹高	-	2~5m	-	4m
【高】種類率	-	10%	-	5%
【高】DBH	-	2~4cm	-	7cm
最大樹高密度	タケガシバ	タケガシバ	ボヒロツ	ボヒロツ
樹高	23.0m	37.0m	28.5m	38.1m
最大直徑密度	タケガシバ	ミズナラ	ボヒロツ	ボヒロツ
直徑	50.0cm	50.0cm	50.0cm	50.0cm
気象害	-	-	-	-
病虫害	-	食害(樹)	-	-
天敵	-	ハムシ類による葉の食害	-	-
鳥類	-	-	-	-
鳥類観察跡	-	-	-	-
鳥類の程度	-	-	-	-
鳥類のコント	-	-	-	-
鳥占める植物種	クマイグサ	クマイグサ(枯れ)	クマイグサ、オシタ	クマイグサ、ムカゴイクラ
植生率	100%	100%枯れ茎	80%	80%
植生率	-	-	-	-
天然更新状況	-	普通	-	普通
保護林の状況	-	以前は健全なケガシバ林であった。更新も確認された。	-	樹林地の大木木林。立木は健全であったが、更新は少なかった。
林分等の状況	大きな変化は認められない	立木に大きな変化はないが、林底ではササが一箇に枯れています。	大きな変化は認められない	立木に大きな変化はないが、更新は少なかった。
評価: 調査終了確認された影響	△:野生魚類、□:肉食者、○:外来種、■:温帯林、◆:自然雑草、その他、▲:特づけ	確認された影響□	確認された影響○	確認された影響△
	引き抜きモニタリングによる経過観察を行なう	引き抜きモニタリングによる経過観察を行なう	引き抜きモニタリングによる経過観察を行なう	引き抜きモニタリングによる経過観察を行なう

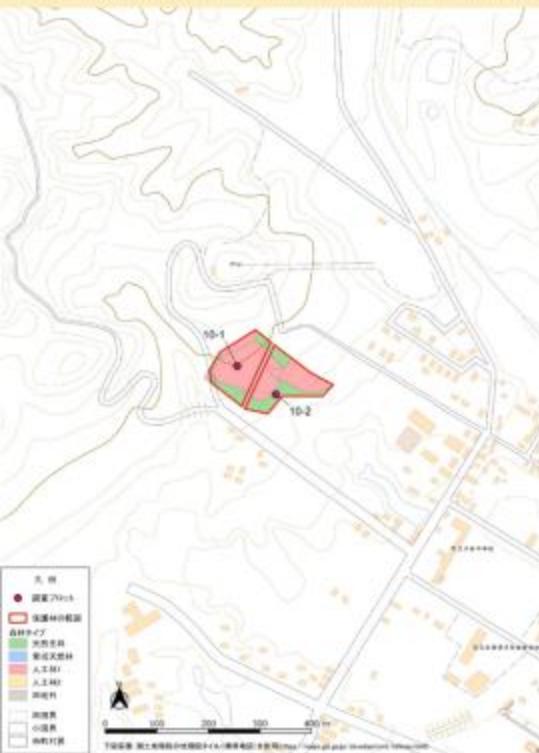


### 確認された影響[特になし]

- ・プロット1では、天然更新も確認され、比較的健全な林分であった。林床ではクマイグサの一箇枯死がみられた。
- ・プロット2では、立木は健全であったが、天然更新はやや少ない。
- ・本調査において確認された高山植物は健全な状態であった。
- ・今後も入山制限を続け盗掘等を防ぎ、モニタリングにより高山植物等の生育状況を注視していく。ササ枯死後の状況もモニタリングにより経過を観察していく。



## 10月形スギ希少個体群保護林

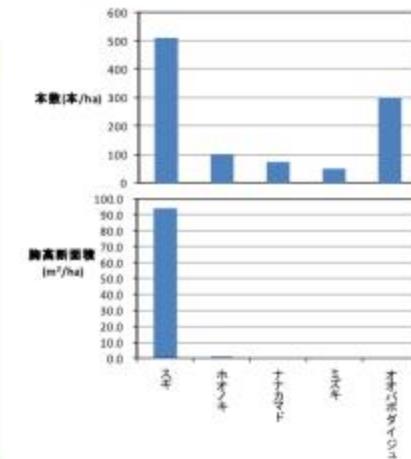


## 確認された影響[野生鳥獣]

- ・スギの天然更新はないが、立木は比較的健全な林分であった。
  - ・ネズミの食害も確認されたが、ネット等により保護されている。
  - ・数個体について、ネズミの食害による枯死があるが、根本にネットを巻き付ける対策が取られていた。
  - ・隣地で、スギの遺伝資源を絶やさないための植林がなされている。

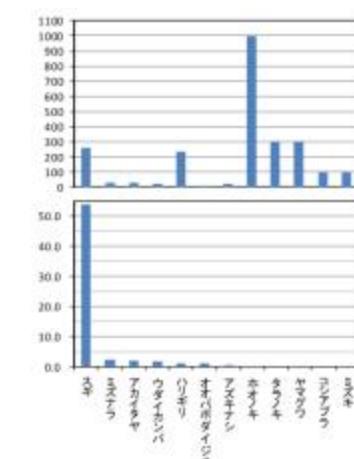
プロットNo.10-1

	樹木	森林	比較結果
南北方向			大きな変化はない。
東西方向			-
緯度方向			大きな変化はない。
経緯方向			-
高度			大きな変化はない。



プロットNo.10-2

北		東	南	西	比較的豊富
西北方向					大きな変化はない。
西南方向					大きな変化はない。
东南方向					大きな変化はない。
西南方向					大きな変化はない。
北					大きな変化はない。



#### 実施した現地調査

保護林森林詳細調查(2箇所)

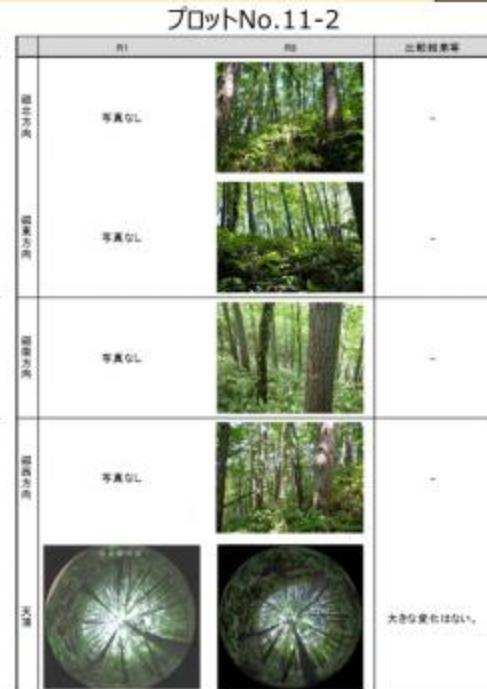
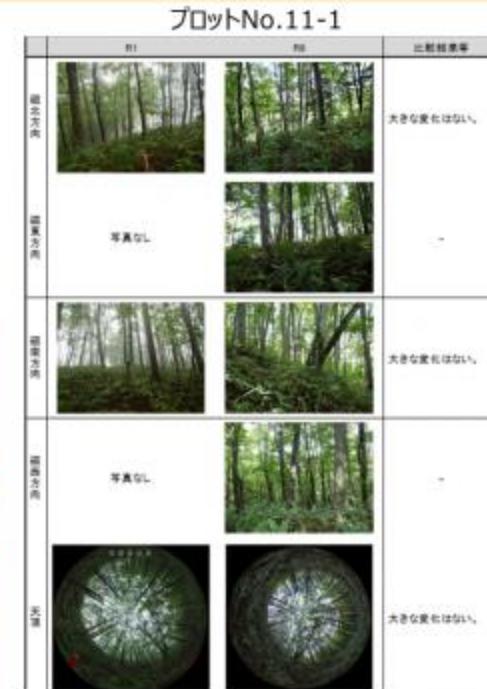
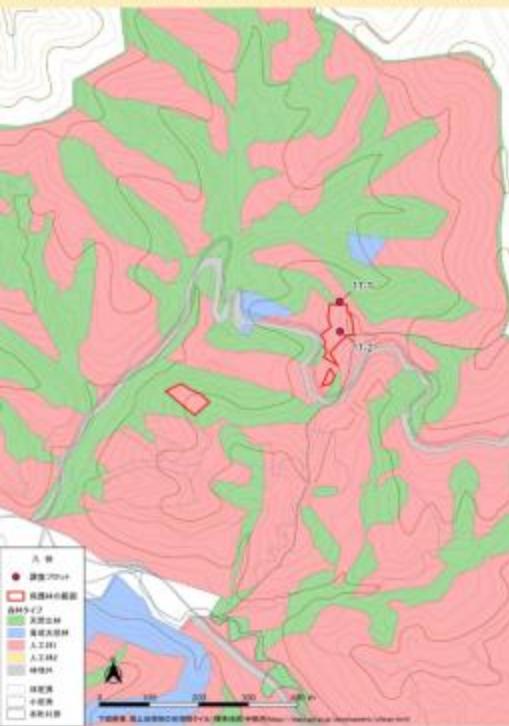
保護林森林詳細調査 総括		吉野スギ・鳥居松混生林			
保護林名	立地	年齢	年齢	年齢	年齢
佐渡廿日市	山中	10-1	10-2	10-3	10-4
プロトナツ	300m	300m-1	300m-2	300m-3	300m-4
調査日	2018.6.10	2018.6.10	2018.6.10	2018.6.10	2018.6.10
測定高	83m	83m	83m	83m	83m
プロト・伴生	無	無	無	無	無
樹種別名	植生区分	立地	年齢	年齢	年齢
以降は樹種別					
立地別樹種					
林床状況	[木立]元樹種成樹標	八斗	入斗	スギ、エゾイタチ	八斗
	[木立]倒木	10cm以上	25-34cm	10cm以上	25-31cm
	[木立]枯死率	-	40%	-	40%
	[木立]倒伏率	10cm以上	20-75%	10cm以上	20-55%
	[木立]倒伏率	5-10cm	7-15%	10cm以上	8-14%
	[木立]倒伏率	-	10%	-	10%
	[木立]倒伏率	10cm以上	4-12%	10cm以上	4-8%
	[木立]倒伏率	1-5cm	2-9%	1-5cm	2-9%
	[木立]倒伏率	-	0%	-	0%
	[木立]倒伏率	1-5cm	2-4cm	1cm未満	2-4cm
最大胸高直径	スギ	4.4	4.4	4.4	4.4
	スギ	3.8	3.8	3.8	3.8
	スギ	3.5	3.5	3.5	3.5
	スギ	3.0	3.0	3.0	3.0
	スギ	2.5	2.5	2.5	2.5
最大直径偏倚	スギ	4.4	4.4	4.4	4.4
	スギ	3.8	3.8	3.8	3.8
	スギ	3.5	3.5	3.5	3.5
	スギ	3.0	3.0	3.0	3.0
気象条件	最高(小)・雪害(度)	50-80	50-80	50-80	50-80
	最低(度)	-	-	-	-
	気温差(度)	-	-	-	-
鳥居松のコント	-	-	-	-	-
	ニシジカ郡	-	高、良興	-	-
	その他の鳥居	少、立木	シマリス、クマガラ	少、立木	少、立木
	道端の鳥居	少	少	少	少
鳥居の構造	鳥居の構造	木造	木造(板張り)	木造(板張り)	木造(板張り)
	鳥居の材質	木	木	木	木
	鳥居の高さ	1.5m	1.5m	1.5m	1.5m
林床植物	林床植物の分布率	100%以上	50-80%	50-80%	50-80%
	林床植物	高木(小)・雪害(度)	-	-	-
	林床植物	-	-	-	-
保護林の状況	保護林登録登録	未登録	未登録	未登録	未登録
	天然更新状況	天然更新良好	天然更新良好	天然更新良好	天然更新良好
	保護林登録登録	未登録	未登録	未登録	未登録
保護林の状況	大字佐渡市立地(地名)	大字佐渡市立地(地名)	大字佐渡市立地(地名)	大字佐渡市立地(地名)	大字佐渡市立地(地名)
	津波・高潮等被災された影響	津波・高潮等被災された影響	津波・高潮等被災された影響	津波・高潮等被災された影響	津波・高潮等被災された影響
アメニティ評価	鳥居松	良	良	良	良
	スギ	良	良	良	良



# 11 三笠チョウセンカラマツ希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		三笠チョウセンカラマツ希少個体群保護林		
保護林の管理		チョウセンカラマツ		
プロットNo.		11-1		11-2
日付		2023/8/20		2024/8/20
標高		188m		182m
経度		NW 24°		SW 26°
経度方位、緯度、高度		山腹平均面		山腹平均斜面
木種構成割合		チョウセンカラマツ 80%以上		80%以上
【高】樹高		20m以上		20m以上
【高】種被率		80%		80%
【高】DBH		30cm以上		30cm以上
【主】主要構成樹種		エゾイタヤ		エゾイタヤ
【主】樹高		3~10m		3~10m
【主】種被率		30%		30%
【主】DBH		10cm未満		10cm未満
【他】主要構成樹種		アカイタヤ		アカイタヤ
【他】樹高		3m		3~5m
【他】種被率		5%		10%
【他】DBH		2cm		4~5cm
最大樹高樹種		チョウセンカラマツ		チョウセンカラマツ
樹高		33m		33m
最大直径樹種		チョウセンカラマツ		チョウセンカラマツ
直径		43.8cm		45.2cm
保護对象種の生息割合		50%以上		60%以上
気象害		-		-
病虫害		-		-
鳥獣類		-		B
エゾシカ痕跡		足跡、糞、食痕		足跡、糞、食痕
その他痕跡		-		-
鳥獣類呼称		-		ネズミ類
猛跡のコントラクト		エゾシカのササ食痕わざ		エゾシカのササ食痕わざ
猛跡		かにあり		かにあり
侵食する植物種		シナマツ		シナマツ
寄生		70%		80%
植生率		50~60%		50~60%
天然更新状況		0.1~1.2m		0.1~1.4m
保育对象種一覧		保育对象種一なし		保育对象種一なし
保育对象種山外一覧		保育对象種山外一普通		保育对象種山外一小少
保育对象種山外一覧		保育对象種山外一小少		保育对象種山外一小少
保護林の状況		キタコブシ、エゾイタヤ、シナノキ、エゾマツなどの広葉樹の発生は認められる。		トドマツ、エゾイタヤ、シナノキなどの広葉樹は認められる。
林分等の状況		大きな変化は認められない		大きな変化は認められない
計画・課題等確認された影響		大きな変化は認められない		大きな変化は認められない
ア カ木鳥類 イ 病害害 ウ 外界環 工 造園化 オ 自然擾乱 カ その他 リ ニなし		計画された影響[-]		計画された影響[-]
引き続きモニタリングによる経過観察を行う		計画された影響[-]		計画された影響[-]
計画された影響[-]		計画された影響[-]		計画された影響[-]
計画された影響[-]		計画された影響[-]		計画された影響[-]

## 確認された影響[特になし]

- 前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
- チョウセンカラマツの天然更新はみられず、主にアカイタヤの天然更新がみられ、今後は落葉広葉樹林に遷移していくことが考えられる。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



チョウセンカラマツの球果

チョウセンカラマツの高木

## 12 ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林

### 実施した現地調査

### 保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.12-1			プロットNo.12-2		
南北方向	東西方向	比較結果等	南北方向	東西方向	比較結果等
写真なし	写真なし	大きな変化はない。	写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	東西方向	一	南北方向	東西方向	一
写真なし	写真なし	大きな変化はない。	南北方向	東西方向	大きな変化はない。
南北方向	東西方向	一	南北方向	東西方向	一
写真なし	写真なし	大きな変化はない。	写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	東西方向	一	南北方向	東西方向	一
天端	天端	大きな変化はない。	天端	天端	大きな変化はない。



保護林名 保護对象種 プロット番号 [日付] 調査日	実施した現地調査		保護林森林概況調査 総括	
	ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林	ミズナラ	ポンクルキ地区ミズナラ希少個体群保護林	ミズナラ
標高	12-1 3020m±1	12-2 3020m±1	標高	12-2 3020m±1
緯度	30°37'	30°37'	緯度	30°37'
経度	E139°41'	E139°41'	経度	E139°41'
標高地図	山野平衡地図	山野平衡地図	標高地図	山野平衡地図
【1】主要構成樹種	トマツ、ミズナラ	トマツ、ミズナラ	【1】主要構成樹種	トマツ
【2】樹高	20m以上	10~27m	【2】樹高	20m以上
【3】樹冠率	-	80%	【3】樹冠率	-
【4】DBH	30cm以上	30~65cm	【4】DBH	30cm以上
【5】主要構成樹種	トマツ、シナノキ	トマツ、シナノキ	【5】主要構成樹種	キタコブシ
【6】樹高	10m以上	9~18m	【6】樹高	7~14m
【7】樹冠率	-	30%	【7】樹冠率	-
【8】DBH	10~20cm	9~22cm	【8】DBH	5~12cm
【9】主要構成樹種	サワレバ	トマツ、サワレバ	【9】主要構成樹種	キタコブシ
【10】樹高	5m以上	2~7m	【10】樹高	2~6m
【11】DBH	1~10cm	1~4cm	【11】DBH	1~4cm
經大根溝樹種	トマツ	トマツ	經大根溝樹種	トマツ
樹高	25m	25m	樹高	25m
經大直徑樹種	ミズナラ	ミズナラ	經大直徑樹種	トマツ
直徑	54.6cm	54.6cm	直徑	48.4cm
保護林構成の主要割合	20~50%	10~50%	保護林構成の主要割合	0%
死木率	高率(約80%)、未熟	高率(約80%)、未熟	死木率	(大)、未熟
病害菌	-	-	病害菌	-
鳥類排糞跡	エゾシカ排糞跡	シカ道、糞、角研 糞跡の程度	鳥類排糞跡	食痕、足跡、糞、角研 糞跡の程度
鳥類排糞跡	-	-	鳥類排糞跡	-
鳥類排糞跡	エゾシカのササ葉、刺田による枯死木あり	食痕、足跡、糞、角研 糞跡の程度	鳥類排糞跡	食痕、角研 糞跡の程度
鳥類排糞跡	-	-	鳥類排糞跡	-
材木堆生	侵佔する植物種	クワイツツ	材木堆生	クワイツツ
材木堆生	被生り口数	80%	材木堆生	100%
材木堆生	被生り高	0.55m	材木堆生	0.1~1.2m
天然更新状況	天然更新	保育対象種一なし 保育対象種以外一なし	天然更新状況	保育対象種一なし 保育対象種以外一なし
保護林の状況	トマツが枯占し、葉焼落 ていて倒木が多い。	トマツが枯占し、葉焼落 ていて倒木が多い。	保護林の状況	トマツが枯占し、葉焼落 ていて倒木が多い。 倒木が多い。
林分等の状況	大きな変化は認められない	エゾシカの影響あり	林分等の状況	気象害等あり
評議・説明等確認された影響	エゾシカによる葉焼落	エゾシカによる葉焼落	評議・説明等確認された影響	気象害等あり
ア:野生鳥獣による葉焼落	クワイツツによる葉焼落	ア:野生鳥獣による葉焼落	ア:野生鳥獣による葉焼落	クワイツツによる葉焼落
エ:露根化	エ:露根化	エ:露根化	エ:露根化	エ:露根化
オ:自然倒木	オ:自然倒木	オ:自然倒木	オ:自然倒木	オ:自然倒木
カ:その他の	カ:その他の	カ:その他の	カ:その他の	カ:その他の

### 確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]

- 前回調査から林相に大きな変化はみられなかったが、プロット及びその周辺にミズナラは少なく、天然更新もみられなかった。
- エゾシカによる下層植生の食害や剥皮による低木の枯死、風倒木がやや多くみられた。

### 3-3.希少個体群保護林 (2/5)

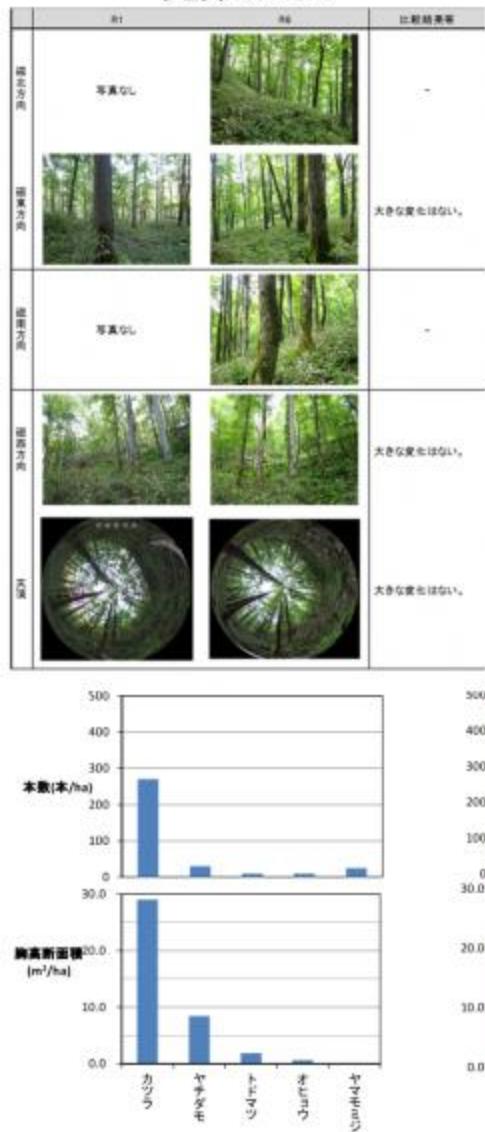
No	保護林ID	保護林名(面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
13	30205	紅葉山ケヤマハンノキ希少個体群保護林(14.57ha)	ケヤマハンノキ	R1	・森林詳細調査(2箇所)	・プロット1では、ケヤマハンノキは確認されなかつたが、立木は健全な林分であった。 ・プロット2では、ケヤマハンノキは数個体確認されたが、今後遷移が進み消失する可能性が高い。林分としては健全な状態であった。	10年	<b>確認された影響[その他]</b> ・遷移が進んでいるため、保護対象であるケヤマハンノキは消失する可能性が高い。 ・林分としてはおむね良好だが、今後保護対象が消失する可能性があるために、今後の取扱いを検討する必要がある。
14	30206	築穂ミズナラ希少個体群保護林(1.00ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・ミズナラは老齢木が多く立木は健全であったが、天然更新はみられなかった。 ・風倒木がやや確認された。	10年	<b>確認された影響[自然搅乱]</b> ・引き続きモニタリングによりミズナラの天然更新等の経過観察を行う。
15	30207	奥主夕張ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林(18.75ha)	ヤチダモ、キハダ、オニグルミ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・ヤチダモは大木が多く、天然更新も多くみられた。 ・キハダ、オニグルミの生育も健全であり、林分として非常に良好な状態を保っていた。	10年	<b>確認された影響[特なし]</b> ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
16	30208	南部エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(7.78ha)	エゾマツ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・エゾマツは大木が多く、立木の生育状態は健全であった。 ・天然更新はやや少數であった。 ・一部に、エゾシカによる下層植生の食害、風倒木がみられるものの、影響は少なく林分としては良好な状態を保っていた。	10年	<b>確認された影響[特なし]</b> ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
17	30209	紅葉山イチイ等遺伝資源希少個体群保護林(10.13ha)	イチイ、ホオノキ	R1	・資料調査 ・森林詳細調査(2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査(1箇所)	・プロット1では林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・プロット2では、保護対象種のイチイは確認されずホオノキは少なかった。立木は健全な状態であったが、風倒木がやや多かった。 ・林床にはシカの食痕が多く確認された。	10年	<b>確認された影響[野生鳥獣]</b> ・保護対象種が消失する可能性があるために、今後の取扱いを検討する必要がある。 ・風倒木が多く確認されたことから、巡視等により気象害等を注視しつつ、更新の経過観察を行う。

# 13 紅葉山ケヤマハンノキ希少個体群保護林

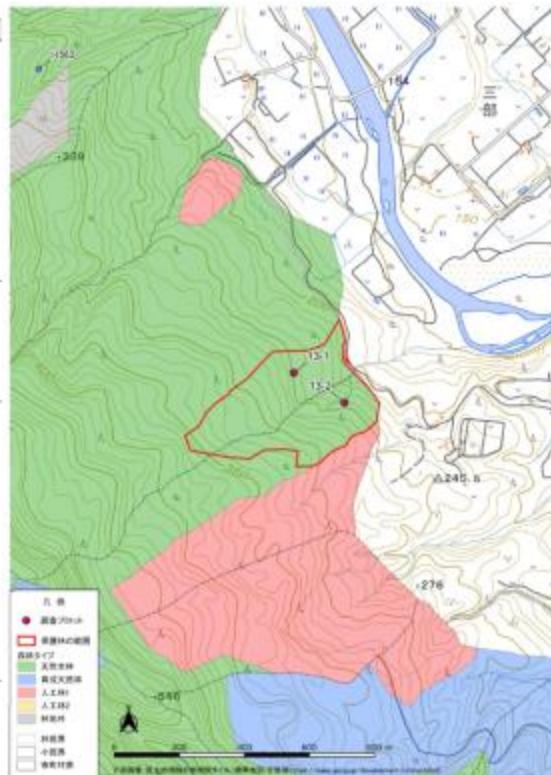
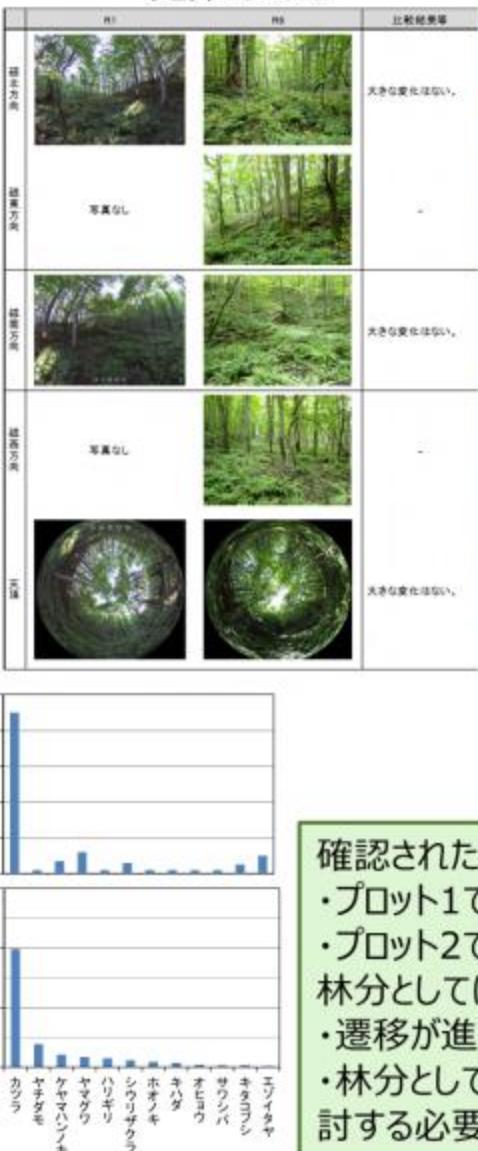
実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

プロットNo.13-1



プロットNo.13-2



## 保護林森林詳細調査 総括

保護林名		紅葉山ケヤマハンノキ希少個体群保護林	
保護対象種	ケヤマハンノキ	13-1	13-2
プロットNo.		13-1	13-2
日No.		30205-1	30205-2
調査日		2019/6/19	2024/6/11
標高	243m	232m	232m
プロット情報	南北方位：北緯(平成) NE 7°	NE 5°	NE 5°
周辺地勢	山腹丘陵	山腹丘陵	山腹丘陵
林分状況			
【13-1】主要構成樹種	ハルニレ	カツラ、ヤチダモ	カツラ
【高】樹高	20m以上	24~35m	25~40m
【高】樹木率	-	80%	70%
【基】樹高	30cm以上	39~73cm	30cm以上
【基】樹木率	-	-	30%
【基】樹高	5~10cm	8~13cm	10~15cm
【基】樹木率	-	20%	-
【基】樹高	10cm未満	4~10cm	10~20cm
【基】主要構成樹種	ケヤマハンノキ	-	アカイタヤ、ヤマグワ
【低】樹高	1m以下	-	3~8m
【低】樹木率	-	-	5%
【低】樹高	5cm未満	-	5cm未満
最大樹高樹種	ハルニレ	カツラ	カツラ
樹高	25m	25m	25m
最大直徑樹種	ハルニレ	カツラ	カツラ
直徑	55cm	72.4cm	70.2cm
床材計画の本割割合	20%以下	20%以下	20%以下
気象害	風害(少)	-	-
病虫害	風害(少)	-	-
気象害のコメント	新折れ木少数あり	-	-
鳥取餌痕跡			
エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	食痕	食痕
その他の痕跡	-	-	-
痕跡の程度	中	小	中
道路のコメント	オシダニニシカ食痕あり	シカの足跡多い	オシダニニシカ食痕あり
侵佔する植物種	チシマザサ	クマイザサ、オクラングス	コブスマツウ、シダ類
種被率	90%	-	80%
種生率	0.5~1.5m	0.5~1.5m	-
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
保護林の状況	況良好にカツラ、ハルニレ、ヤチダモ、ドノキが多い、土壌は砂質。	森林林業用にカツラ、ハルニレ、ヤチダモ、ドノキが多い。土壌は砂質。	森林林業用にカツラ、ハルニレ、ヤチダモ、ドノキが多い。土壌は砂質。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア.野生鳥類 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.過熟化 オ.自然擾乱 カ.その他	確認された影響[カ]	確認された影響[カ]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

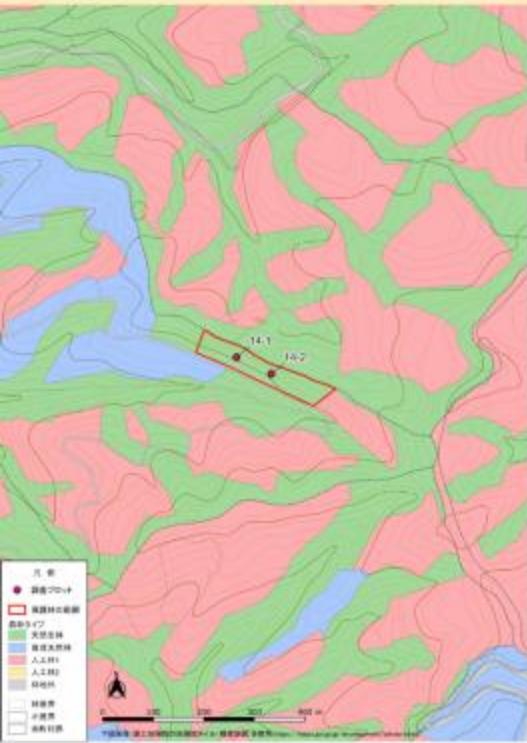
## 確認された影響[その他]

- プロット1では、ケヤマハンノキは確認されなかったが、立木は健全な林分であった。
- プロット2では、ケヤマハンノキは数個体確認されたが、今後遷移が進み消失する可能性が高い。林分としては健全な状態であった。
- 遷移が進んでいるため、ケヤマハンノキは消失する可能性が高い。
- 林分としては、おおむね良好だが、ケヤマハンノキの優占林ではないために、今後の取扱いを検討する必要がある。

# 14 築穂(ちくほ)ミズナラ希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.14-1			プロットNo.14-2		
面積	面積	比較結果等	面積	面積	比較結果等
面積未定	面積未定	大きな変化はない。 等真なし	面積未定	面積未定	大きな変化はない。
面積未定	面積未定	大きな変化はない。 等真なし	面積未定	面積未定	大きな変化はない。
面積未定	面積未定	大きな変化はない。 等真なし	面積未定	面積未定	大きな変化はない。
面積未定	面積未定	大きな変化はない。 等真なし	面積未定	面積未定	大きな変化はない。

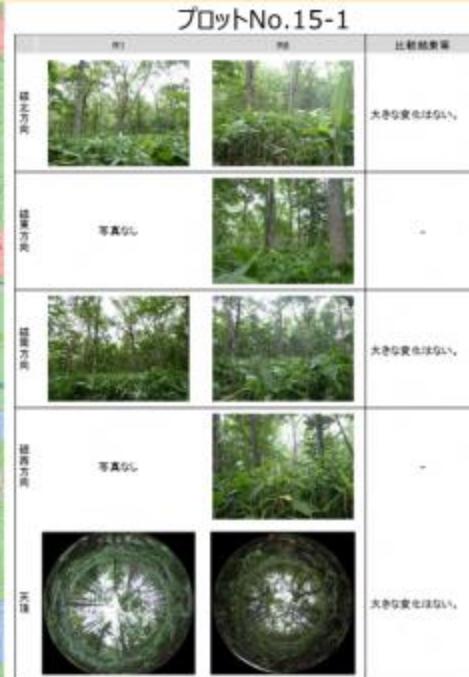


保護林森林概況調査 総括	
保護林名	築穂ミズナラ希少個体群保護林
保護対象種	ミズナラ
プロットNo.	14-1
日No.	30208-1
調査日	2018/6/21
標高	373m
プロット情報	面積方位、傾斜(平傾)
面積方位	SE 22°
標高	373m
風向	山腹平衡斜面
【高】主要構成樹種	ミズナラ
【高】樹高	20m以上
【高】植被率	60%
【基】DBH	30cm以上
【基】主要構成樹種	エゾイタヤ
【基】樹高	3~10m
【基】植被率	50%
【基】DBH	10~20cm
【他】主要構成樹種	トドマツ
【他】樹高	2~5m
【他】植被率	30%
【他】DBH	5~10cm
喬木樹高樹種	ミズナラ
樹高	20m
喬木樹高樹種	ミズナラ
樹高	20m
伴生樹種	ミズナラ
樹高	72.4cm
伴生樹種の本数割合	50%以上
気象害	風害(小)
病虫害	-
気象害、病虫害のセルト	尾根上に倒木あり
鳥類痕跡	風倒木やや多い
鳥類痕跡	風倒木わずかにあり
シカ道、足跡、糞	シカ道、糞、糞、角研
その他の痕跡	シマリス、クマガラ
痕跡の程度	小
痕跡のコメント	クマガラ食痕、傷目痕あり
優占する植物物理	クマガラ食痕あり
植被率	シママツ
植被率	オクヤママツ
植被率	70%
植被率	0.5~1.5m
天然更新状況	0.1~1.5m
天然更新状況	0.5~1.5m
保育林の状況	老齢木で倒り、風倒木がやや目立つ。ミズナラの天然更新はみられないが、立木の生育状態は良好である。
林分等の状況	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	大きな変化は認められない
ア:野生鳥類 イ:病虫害 ウ:外来種	大きな変化は認められない
エ:遺伝子 オ:自然復旧 カ:その他	大きな変化は認められない
一様に	大きな変化は認められない
確認された影響(オ)	確認された影響(オ)
引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
確認された影響(オ)	確認された影響(オ)
引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

## 確認された影響[自然攪乱]

- ミズナラは老齢木が多く立木は健全であったが、天然更新はみられなかった。
- 風倒木がやや確認された。
- 天然更新及び気象害について、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

# 15 奥主(おくしゅ)夕張ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林



## 実施した現地調査

## 保護林森林概況調査(2箇所)

### 保護林森林概況調査 総括

保護林名	奥主夕張ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	ヤチダモ	15-1
プロットNo.	15-1	15-1
日付	2019/8/20	2024/7/12
標高	400m	400m
利用方法	W 2'	W 1'
地形	平地	山腹・山腹
【基】主要構成樹種	ヤチダモ	ヤチダモ、キハダ、オニグルミ
【基】樹高	20m以上	20~37m
【基】種被率	80%	90%
【基】DBH	30cm以上	30cm以上
【基】主要構成樹種	ケヤマハンノキ	エゾイタヤ
【基】樹高	10m以上	10~20m
【基】種被率	20%	5%
【基】DBH	10~20cm	10~20cm
【次】主要構成樹種	バオノキ	-
【次】樹高	1~5m	-
【次】種被率	-	-
【次】DBH	5cm未満	-
最大胸高樹種	ヤチダモ	ヤチダモ
樹高	38.8m	25m
最大胸高樹種	ヤチダモ	ヤチダモ
樹高	60cm	60cm
保護対象種の本数割合	50%以上	50~80%
気象書	-	-
病虫害	-	-
乾燥度、地下水位	-	-
鳥獣類	シカ達、足跡、角研 その他の痕跡 鳥	足跡、糞便 微
痕跡のコメント	-	-
侵入する植物種	チシマザサ	チシマザサ
種被率	100%	100%
樹高	0.1~2.1m	0.1~1.0m
天然更新状況	保護対象種多い 保護対象種以外多い	保護対象種少ない 保護対象種以外多い
保護林の状況	ヤチダモが壊占し、ハバサク、オニグルミなどの混生する。被覆はササが被さるが、天然更新は少ない。	ヤチダモが多い。低木層はほとんどない。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア.野生鳥類 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.土壤化 オ.自然復旧 カ:その他 -特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



### 確認された影響[特になし]

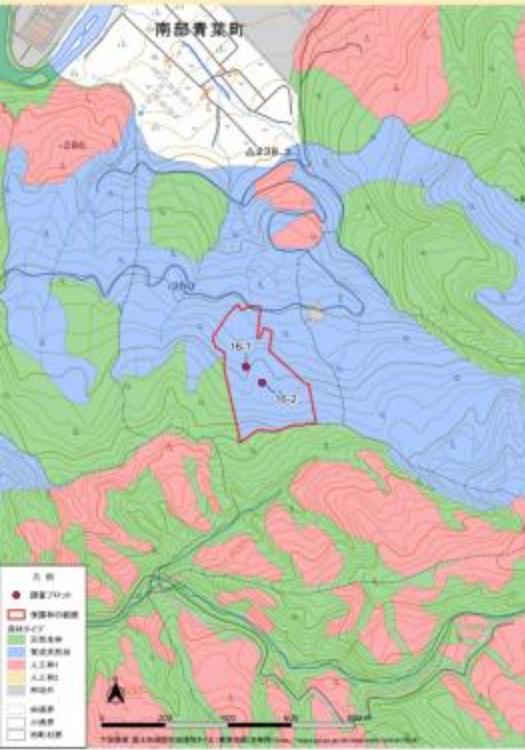
- 林相に大きな変化はみられなかった。
- ヤチダモは高木が多く、天然更新も多くみられた。
- キハダ、オニグルミの生育も健全であり、林分として非常に良好な状態を保っていた。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 16 南部エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

### 実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調查 總括

保護林名		南都エゾマツ希少樹種群保護林			
保護対象種		エゾマツ			
プロットNo	16-1	16-2			
ID No.	30209-1		30209-2		
調査日	2019/8/19	2024/9/7	2019/8/19	2024/9/7	
標高	403m		419m		
測定方位、測量点号	N 3°		NW 9°		
附近地名	山鹿古戸町		山鹿古戸町		
山鹿古戸町					
プロット情報	【登】上木構成樹種	トドマツ	トドマツ	エゾマツ	トドマツ、エゾマツ
	【高】樹高	20m以上	21~34m	20m以上	20~30m
	【高】樹被率	-	60%	-	60%
	【高】DBH	30cm以上	20~163cm	30cm以上	18~81cm
	【登】上木構成樹種	トドマツ、ホオノキ	トドマツ	ハリギリ、エゾイタヤ	アカイタヤ
	【登】樹高	5~10m	10~18m	10m以上	10~18m
	【登】樹被率	-	30%	-	30%
	【登】DBH	10~20cm	8~24cm	10~20cm	7~22cm
	【登】上木構成樹種	トドマツ	トドマツ	エゾイタヤ、ヤマウルシ	トドマツ
	【登】樹高	1~5m	3~6m	1m以下	2~6m
林分状況	【登】樹被率	-	10%	-	10%
	【登】DBH	5cm未満	2~7cm	5cm未満	1~4cm
	最大樹高樹種	トドマツ	カツラ	カツラ	トドマツ
	樹高	25m	34m	25m	30m
	最大直径樹種	エゾマツ	カツラ	エゾマツ	トドマツ
保護対象種の本種割合	度数	80cm	103cm	79cm	81.2cm
	度数	50~90%	20~50%	20~50%	20~50%
	気象等	風害(小)	風害(微)	風害(中)	風害(小)
	病害等	-	-	-	-
	異常等、汚染等のほか	風崩、斜折れ木少数あり	風倒木わずかにあり	風崩、斜折れ木あり	風倒木少数あり
鳥獣類痕跡	ニンジンカ医跡	食痕、糞跡	シカ道、足跡、糞、角研	足跡、糞、食痕、角研	角研
	その他の痕跡	クマガラ	中	中	微
	痕跡の程度	-	-	-	-
疾部のメント	疾部のメント	角研が跡は古い	エゾシカ個体の糞便	エゾシカのシラクリザラ糞	-
	クマガラ	クマガラ根茎確認あり	度数の食害やや多い	度数あり	-
	ツバメ	ツバメ	ツバメ	ツバメ	-
林床生長	遺占する植物種	カキソウ、シダ類	カキソウ、シダ類、フジツブ	カキソウ	カキソウ
	枯枝率	構造または散在	80%	構造または散在	80%
	構造率	0.5m未満	0.1~13m	0.5m未満	0.1~18m
	保護対象種へあり	保護対象種へなし	-	保護対象種へあり	保護対象種へなし
	保護対象種以外へあり	保護対象種以外へなし	-	保護対象種以外へあり	保護対象種以外へなし
保護林の状況	度数	トドマツの少なズレツツガ	少いめだマツ、エゾマツの植通り、斜折れがみられ	トドマツに少なエゾマツの	トドマツに少なエゾマツの
	度数	度数	度数	度数	度数
保育林の状況	度数	度数	度数	度数	度数
	度数	度数	度数	度数	度数
林分等の状況	度数	度数	度数	度数	度数
	度数	度数	度数	度数	度数
評価・課題等複数記された影響	度数	度数	度数	度数	度数
	度数	度数	度数	度数	度数
ア 野生鳥獣 イ 森病害 ウ 外来種	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ニ 地温変化 オ 自然燃焼 カ その他 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



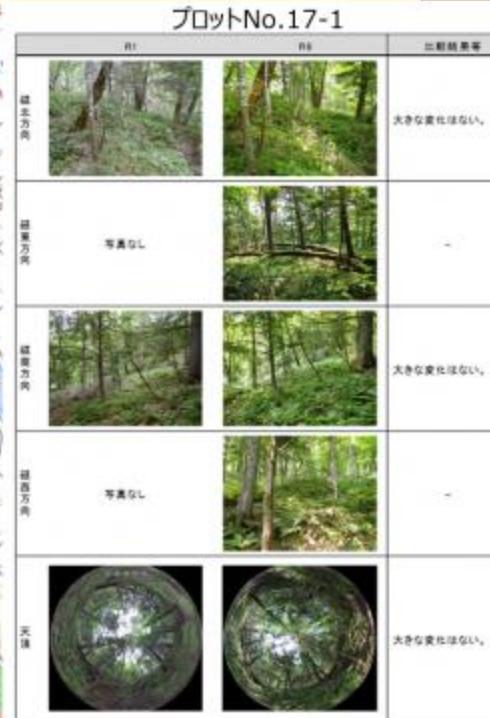
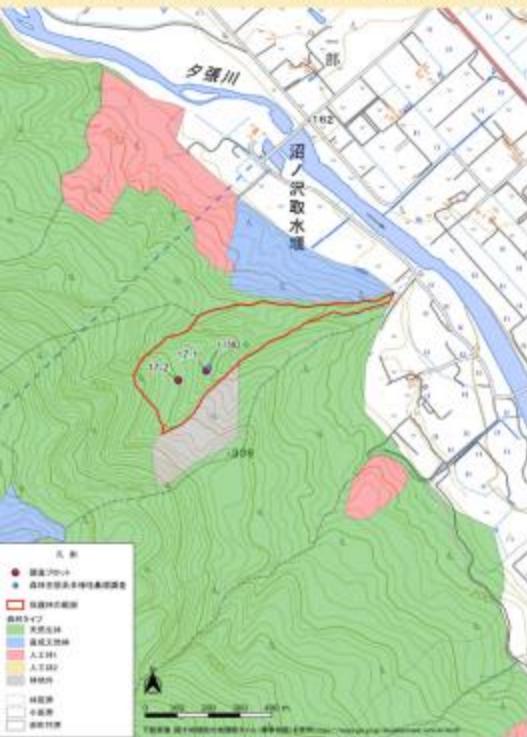
- ・エゾマツは高木が多く、立木の生育状態は健全であった。
- ・天然更新はやや少数であった。
- ・一部に、エゾシカによる下層植生の食害、風倒木がみられるものの、影響は少なく林分としては良好な状態を保っていた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 低木層の状況

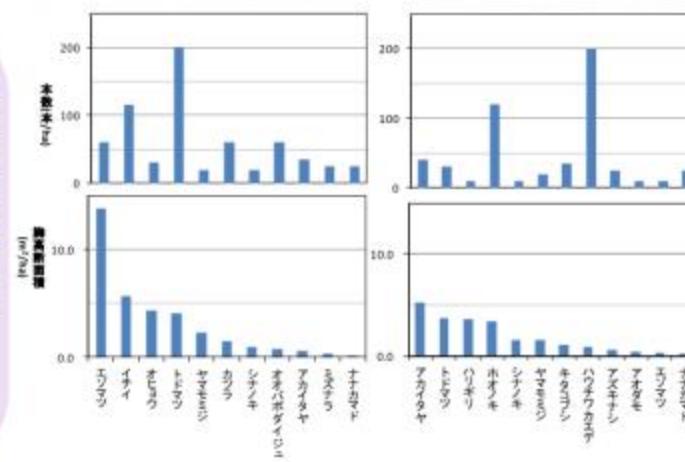
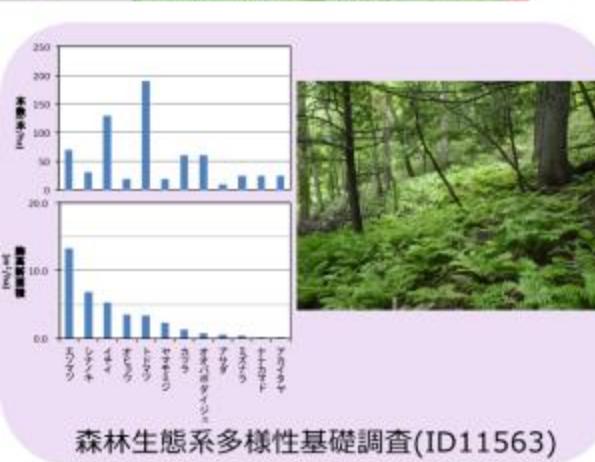
# 17 紅葉山イチイ等遺伝資源希少個体群保護林

## 実施した現地調査

## 保護林森林詳細調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)



保護林森林概況調査 総括		
保護林名	紅葉山イチイ等遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	イチイ、ホオノキ	
プロットNo.	17-1 30209-1	17-2 30209-2
調査日	2019/6/21 2024/6/13	2019/6/21 2024/6/13
標高	281m 291m	
絶対方位、緯度/経度	E 139° 5' 37.8" N 35° 48' 45.2"	
山腹/斜面	山腹	
山腹平坦度	5%	
地形地勢		
【樹】主要構成樹種	エゾマツ 25m以上 100% 【樹】1種被率	エゾマツ、シナノキ 20m以上 60%
【樹】BH	30m以上	15~75cm 30cm以上
【木】主要構成樹種	イチイ、エゾマツ、エリカ	イチイ、トドマツ 40m、ハクチウカエデ
【木】被率	10m以上	8~20m 40%
【木】種別率	-	8~16m 20%
【木】BH	15~20m	8~35cm 10cm未満
【灌】主要構成樹種	ホドマツ	ホオノキ 1m以下
【灌】被率	-	1~5m 10%
【灌】BH	5cm以下	5cm未満 1~7cm
喬木樹種	エゾマツ 25m	ホオノキ 32.4m 22m
喬木被率	エゾマツ 60cm	ホオノキ 78.5cm 50cm
喬木BH	60cm	10~30cm 20~50%
中大樹被率	25%以下	20~50%
異葉樹	無	無(中)
喬木被率	-	-
鳥類	シノノキ葉倒木がエゾマツ 枝葉込込	無し ほとんど確認している
シカの食痕	シカ道、足跡、糞、角研	シカ道、足跡、糞、食痕
シカの食痕	シカ道 中	シカ道、足跡、糞 中
鹿の食痕	エゾシカのシダや食痕	エゾシカのシダ食痕や糞 中
鹿の食痕	エゾシカの糞	エゾシカの糞
後脚のコメント	エゾシカの糞	エゾシカの糞
構造・植物	クマノミ、コモリソウ、ツバキマツ、ツバキマツ	ツバキマツ、クマノミ
構造	構造は整った林立	構造は整った林立
構造	60%	60%
構造	60%未満	60%未満
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし
保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
保護林の状況	ホオノキ、シナノキ、エリカ 少しの風倒木があり、シカの利用が多い。	イチイが葉落木層以上に みられる。林分として健全な状態であるが、シカの糞 食害がやや多くみられる。
林床等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 野牛集散 イ 黄麻子 尖、外來種 エ 道端化 オ 亂用漁獲 カ その他 ヘ モルヒネ	確認された影響(ア) 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
評価・課題等確認された影響	確認された影響(ア) 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響(オ) 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



### 確認された影響[野生鳥獣、自然攪乱]

- ・プロット1では、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
- ・プロット2では、保護対象種のイチイは確認されずホオノキは少なかった。立木は健全な状態であったが風倒木がやや多かった。
- ・林床にはシカの食痕が多く確認された。
- ・保護対象種が消失する可能性があるために、今後の取扱いを検討する必要がある。
- ・風倒木が多く確認されたことから、巡回等により気象害等を注視しつつ更新の経過観察を行う。

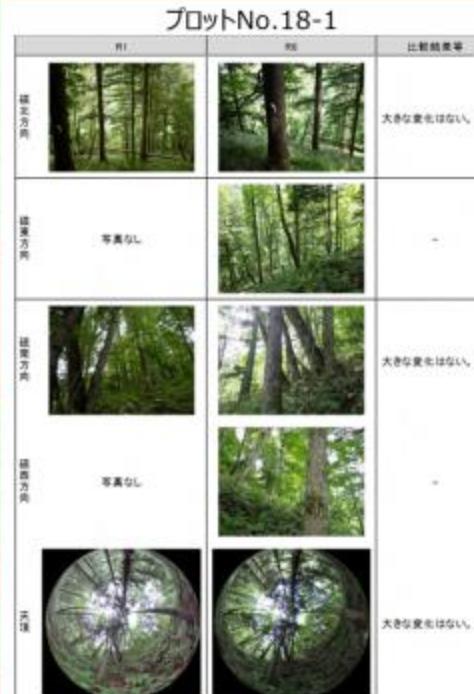
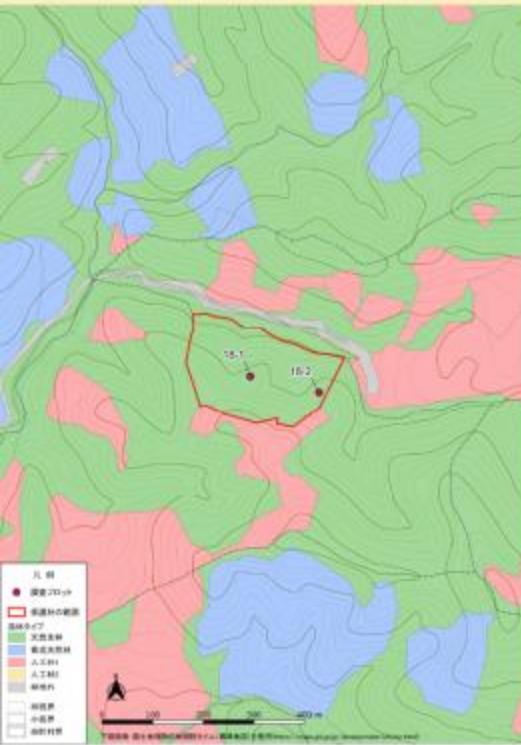
### 3-3.希少個体群保護林（3/5）

No	保護林ID	保護林名(面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
18	30210	紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(4.79ha)	シロエゾマツ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。 ・シロエゾマツは主に倒木上に天然更新がみられ立木の生育状態も健全であった。 ・エゾシカの痕跡がややみられ、軽微な風倒は確認されたが、影響は少ないと考えられた。	10年	確認された影響[特になし] ・気象害等を注視つつ、引き続きモニタリング等により経過を観察していく。
19	30211	落辺アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林(17.78ha)	アカエゾマツ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	30212	落辺トドマツ遺伝資源希少個体群保護林(15.11ha)	トドマツ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
21	30213	落辺シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林(4.35ha)	シラカンバ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・先駆樹種であるシラカンバの天然更新は少ないがギャップにわずかに低木がみられた。 ・そのほかの広葉樹の生育状況は健全であり、林分としては良好な状態を保っていた。 ・プロット2では、遷移が進みシラカンバは減少していくと考えられる。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	30214	頬城ヤチハンノキ遺伝資源希少個体群保護林(4.96ha)	ヤチハンノキ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。 ・ハムシによる食害が一部の葉で確認されたが軽微なものであった。	10年	確認された影響[病虫害] ・病虫害等に留意し、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
23	30215	咲別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林(11.79ha)	オオバボダイジュ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
24	30216	惣芦別ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林(11.74ha)	ミズナラ、シナノキ、オヒヨウ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・ミズナラ、シナノキ、オヒヨウの立木の生育状態は健全であった。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 18 紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		紅葉山シロエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林	
保護林番号	18-1	18-2	
日付	2021/6/1	2024/6/12	2019/6/21 2024/6/12
標高	290m	300m	
プロット情報			
緯度	N 33°	N 40°	
経度	E 139°	E 139°	山麓平野部
【地】主要構成樹種	エゾマツ、トドマツ	エゾマツ、トドマツ	エゾマツ、トドマツ
【高】樹高	20m以上	18~28m	17~24m
【基】樹齢率	-	80%	80%
【高】DBH	30cm以上	20~45cm	20~45cm
【基】主要構成樹種	ホオノキ、トドマツ	アカイタヤ、ホオノキ	エゾマツ、ホオノキ
【高】樹高	10m以上	8~18m	8~17m
【基】樹齢率	-	40%	30%
【高】DBH	10~20cm	6~16cm	10~20cm
【地】主要構成樹種	トドマツ	ヤマモシジ、トドマツ	トドマツ
【高】樹高	1~5m	2~8m	2~8m
【基】樹齢率	-	20%	20%
【高】DBH	5cm未満	1~5cm	1~5cm
最大樹高樹種	シナノキ	シナノキ	エゾマツ
直樹	25m	26m	24m
最大直径樹種	シナノキ	シナノキ	エゾマツ
直樹	50cm	46.2cm	44.3cm
保護対象の木の本数割合	50~100%	20~50%	20~50%
気象害	風害(強)	風害(強)	風害(弱)
病虫害	-	-	-
光合成葉のコバトキ	葉樹はトドマツが多い	-	-
鳥類	黄、斑頭、	シカ道、足跡、裏、角崎	シカ道、足跡、裏、斑頭
鳥類活動跡	その他後脚	-	-
鳥類の種数	中	小	中
疾患のコメント	エゾシカのシダ食害多い	エゾシカ個体1頭目視	-
侵食する種	クマヅサ、フッキソウ	クマヅサ、ハバシソウ	クマヅサ、オシダ
種被率	疎生または散在	60%	60%
種生率	0.1~0.8m	0.1~0.8m	0.1~0.8m
天然更新状況	保護対象種一少ない	保護対象種一少ない	保護対象種一少ない
	保護ノン対象種山ガーネ少ない	保護ノン対象種山ガーネ少ない	保護ノン対象種山ガーネ少ない
保護林の状況	シカエゾマツと思われる植体は星根土に多い。	トドマツの光合成葉が盛んで、シカエゾマツのものも少しあらわれる。シカの痕跡は多いが、林分への影響は弱めであり、健全な状態。	トドマツが多く、エゾシカのものも少しあらわれる。シカの痕跡は多いが、林分への影響は弱めであり、健全な状態。
林分帶の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 残生鳥類、イ 病虫害 ウ 外来種 エ 地盤沈下 オ 自然環境 カ その他の - 特記なし	確認された影響[+] イ 引き続きモニタリングによる経過観察を行う ウ 引き続きモニタリングによる経過観察を行う カ その他の - 特記なし	確認された影響[+] イ 引き続きモニタリングによる経過観察を行う ウ 引き続きモニタリングによる経過観察を行う カ その他の - 特記なし

### 確認された影響[特になし]

- 前回調査から林相に大きな変化はみられなかった。
- シロエゾマツは主に倒木上に天然更新がみられ、立木の生育状態も健全であった。
- エゾシカの痕跡がややみられ、軽微な風倒は確認されたが、影響は少ないと考えられた。
- 気象害等を注視つつ、引き続き巡回・モニタリング等により経過を観察していく。



シロエゾマツの実生

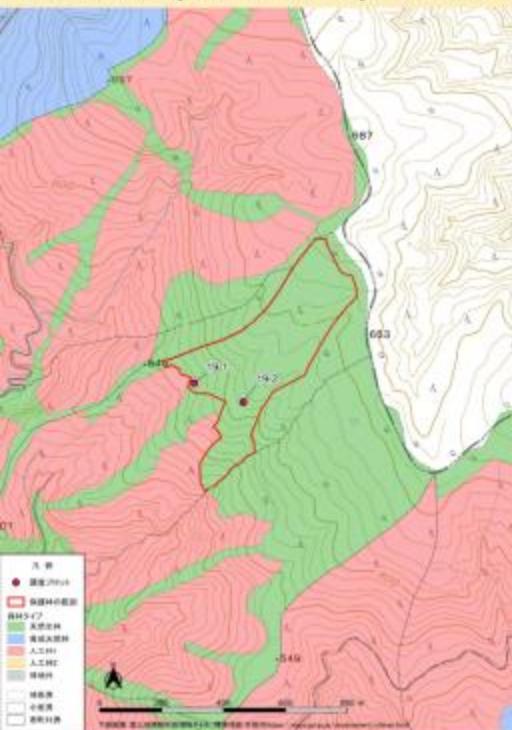


シロエゾマツの高木

# 19 落辺(おちのんべ)アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.19-1			
	W1	W6	比較結果
樹種方向			大きな変化はない。
樹種方向			写真なし
樹種方向			大きな変化はない。
樹種方向			写真なし
樹種方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.19-2			
	W1	W6	比較結果
樹種方向			大きな変化はない。
樹種方向			写真なし
樹種方向			大きな変化はない。
樹種方向			写真なし
樹種方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括																																																																																																																																	
落辺アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林		アカエゾマツ																																																																																																																															
保護林名																																																																																																																																	
保護对象種	W1-1	W1-2																																																																																																																															
プロットNo.	30211-1	30211-2																																																																																																																															
日No.																																																																																																																																	
調査日	2019/9/3	2024/8/26																																																																																																																															
標高	574m	827m																																																																																																																															
プロット情報	面積(方位、緯度(平均))	W 15°																																																																																																																															
	山腹平衡面図	山腹凸斜面																																																																																																																															
林分状況	<table border="1"> <tr><td>【高】主茎構成樹種</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td></tr> <tr><td>【高】樹高</td><td>20m以上</td><td>24~27m</td><td>20m以上</td><td>20~23m</td></tr> <tr><td>【高】樹冠率</td><td>~</td><td>60%</td><td>~</td><td>60%</td></tr> <tr><td>【高】DBH</td><td>30cm以上</td><td>42~61cm</td><td>30cm以上</td><td>56cm</td></tr> <tr><td>【主】主茎構成樹種</td><td>アカエゾマツ</td><td>キタコブシ</td><td>ナナカマド・シラカンバ</td></tr> <tr><td>【倍】樹高</td><td>10m以上</td><td>10~12m</td><td>10m以上</td><td>8~10m</td></tr> <tr><td>【倍】樹冠率</td><td>~</td><td>10%</td><td>~</td><td>30%</td></tr> <tr><td>【倍】DBH</td><td>10~20cm</td><td>15~24cm</td><td>10~20cm</td><td>8~22cm</td></tr> <tr><td>【次】主茎構成樹種</td><td>キタコブシ</td><td>ハウチワカエデ</td><td>ナナカマド</td><td>アカエゾスイグ</td></tr> <tr><td>【次】樹高</td><td>1~3m</td><td>2~7m</td><td>5m以上</td><td>2.5~4m</td></tr> <tr><td>【次】樹冠率</td><td>~</td><td>20%</td><td>~</td><td>10%</td></tr> <tr><td>【次】DBH</td><td>5~10cm</td><td>1~10cm</td><td>5~10cm</td><td>3~4cm</td></tr> <tr><td>最大胸高根種</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td></tr> <tr><td>樹高</td><td>28m</td><td>27.3m</td><td>23.2m</td></tr> <tr><td>最大直径根種</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td><td>アカエゾマツ</td></tr> <tr><td>直径</td><td>61.8cm</td><td>49.0cm</td><td>56.0cm</td></tr> <tr><td>気象条件</td><td>50~80%</td><td>50~80%</td><td>50~80%</td></tr> <tr><td>気温</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr><td>降水量</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr><td>鳥類確認跡</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr><td>その他の跡</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr><td>痕跡の程度</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr><td>痕跡のコンパクト</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr> <td>保護する物理量</td><td>クマイヂサ</td><td>クマイヂサ</td><td>クマイヂサ</td></tr> <tr> <td>植栽率</td><td>野生</td><td>野生</td><td>野生</td></tr> <tr> <td>植生高</td><td>0.5~1.5m</td><td>0.1~1.3m</td><td>0.1~1.5m</td></tr> <tr> <td>保護対象種一覧</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr> <td>保護対象種以外</td><td>~</td><td>~</td><td>~</td></tr> <tr> <td>天然更新状況</td><td>天然更新</td><td>天然更新</td><td>天然更新</td></tr> </table>	【高】主茎構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	【高】樹高	20m以上	24~27m	20m以上	20~23m	【高】樹冠率	~	60%	~	60%	【高】DBH	30cm以上	42~61cm	30cm以上	56cm	【主】主茎構成樹種	アカエゾマツ	キタコブシ	ナナカマド・シラカンバ	【倍】樹高	10m以上	10~12m	10m以上	8~10m	【倍】樹冠率	~	10%	~	30%	【倍】DBH	10~20cm	15~24cm	10~20cm	8~22cm	【次】主茎構成樹種	キタコブシ	ハウチワカエデ	ナナカマド	アカエゾスイグ	【次】樹高	1~3m	2~7m	5m以上	2.5~4m	【次】樹冠率	~	20%	~	10%	【次】DBH	5~10cm	1~10cm	5~10cm	3~4cm	最大胸高根種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	樹高	28m	27.3m	23.2m	最大直径根種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	直径	61.8cm	49.0cm	56.0cm	気象条件	50~80%	50~80%	50~80%	気温	~	~	~	降水量	~	~	~	鳥類確認跡	~	~	~	その他の跡	~	~	~	痕跡の程度	~	~	~	痕跡のコンパクト	~	~	~	保護する物理量	クマイヂサ	クマイヂサ	クマイヂサ	植栽率	野生	野生	野生	植生高	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.1~1.5m	保護対象種一覧	~	~	~	保護対象種以外	~	~	~	天然更新状況	天然更新	天然更新	天然更新		
【高】主茎構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ																																																																																																																														
【高】樹高	20m以上	24~27m	20m以上	20~23m																																																																																																																													
【高】樹冠率	~	60%	~	60%																																																																																																																													
【高】DBH	30cm以上	42~61cm	30cm以上	56cm																																																																																																																													
【主】主茎構成樹種	アカエゾマツ	キタコブシ	ナナカマド・シラカンバ																																																																																																																														
【倍】樹高	10m以上	10~12m	10m以上	8~10m																																																																																																																													
【倍】樹冠率	~	10%	~	30%																																																																																																																													
【倍】DBH	10~20cm	15~24cm	10~20cm	8~22cm																																																																																																																													
【次】主茎構成樹種	キタコブシ	ハウチワカエデ	ナナカマド	アカエゾスイグ																																																																																																																													
【次】樹高	1~3m	2~7m	5m以上	2.5~4m																																																																																																																													
【次】樹冠率	~	20%	~	10%																																																																																																																													
【次】DBH	5~10cm	1~10cm	5~10cm	3~4cm																																																																																																																													
最大胸高根種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ																																																																																																																														
樹高	28m	27.3m	23.2m																																																																																																																														
最大直径根種	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ																																																																																																																														
直径	61.8cm	49.0cm	56.0cm																																																																																																																														
気象条件	50~80%	50~80%	50~80%																																																																																																																														
気温	~	~	~																																																																																																																														
降水量	~	~	~																																																																																																																														
鳥類確認跡	~	~	~																																																																																																																														
その他の跡	~	~	~																																																																																																																														
痕跡の程度	~	~	~																																																																																																																														
痕跡のコンパクト	~	~	~																																																																																																																														
保護する物理量	クマイヂサ	クマイヂサ	クマイヂサ																																																																																																																														
植栽率	野生	野生	野生																																																																																																																														
植生高	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.1~1.5m																																																																																																																														
保護対象種一覧	~	~	~																																																																																																																														
保護対象種以外	~	~	~																																																																																																																														
天然更新状況	天然更新	天然更新	天然更新																																																																																																																														
保護林の状況	電離線造成が発達し、アカエゾマツの生育は良い。	電離線造成が発達し、アカエゾマツの生育は良い。	シカ道、裏、食痕																																																																																																																														
林分等の状況	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。	~																																																																																																																														
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥類、イ 鳥糞落 寸 外来種 キ 濃綠化 オ 自然復原 カ その他 ~ 特になし	確認された影響[~] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[~] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う																																																																																																																														
	確認された影響[~] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[~] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う																																																																																																																															

## 確認された影響[特になし]

- 林相に大きな変化はみられなかった。
- 天然更新もみられた。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



低木層の状況



アカエゾマツの稚樹



アカエゾマツの高木

## 20 落辺(おちのんべ)トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.20-1		プロットNo.20-2	
北	南	北	南
大きな変化はない。 写真なし	-	大きな変化はない。 写真なし	-
大きな変化はない。 写真なし	-	大きな変化はない。 写真なし	-
大きな変化はない。 写真なし	-	大きな変化はない。 写真なし	-
大きな変化はない。	-	大きな変化はない。	-

保護林名 保護対象種 プロットNo. 日No.	落辺トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 トドマツ			
	20-1 20-2	20-1 20-2	20-1 20-2	20-1 20-2
標高 経度/緯度 風向/風速	331m 323m	331m 323m	2019/9/3 2024/8/28	2019/9/3 2024/8/28
プロット情報 経度/緯度、傾斜/平均	SW 10° 5.6°	SW 10° 5.6°	-	-
林分状況	山地斜面 山腹斜面	山地斜面 山腹斜面	-	-
【高】主要構成樹種 【高】樹高 【高】傾斜率 【高】DBH	トドマツ 20m以上 40% 30cm以上	トドマツ 25~30m 40% 40~60cm	トドマツ 20m以上 70% 30cm以上	アカエゾマツ 18~26m 70% 24~80cm
【低】主要構成樹種 【低】樹高 【低】傾斜率 【低】DBH	トドマツ、ヒズナラ 10m以上 80% 10~20cm	トドマツ、ウダイカシバ 10m以上 80% 10~20cm	トドマツ、ウダイカシバ 10m以上 35% 10~20cm	アカエゾマツ 9~15m 35% 7~25cm
【低】主要構成樹種 【低】樹高 【低】傾斜率 【低】DBH	トドマツ 1~5m 20% 5~10cm	トドマツ 1~5m 20% 5~10cm	トドマツ 1~5m 20% 5~10cm	トドマツ 3~5m 10% 3~8cm
最大直径樹種 直径	トドマツ 30m	トドマツ 29.5m	トドマツ 28m	ミズナラ 28.7m
保護対象樹の本数割合	58cm 50~80%	66.1cm 80%以上	58cm 20~50%	66.1cm 20%以下
気象害 病虫害	-	-	-	-
気象害・病虫害のコメント	-	-	-	-
鳥取姫痕跡 その他の痕跡 痕跡の程度	エゾシカ痕跡 小	シカ痕、食痕 無	シカ道、食、食痕 中	シカ道、食、食痕 無
痕跡のコメント	トドマツ大径木の下にシカ が利用しているのが多い が、被害は無い。	シカ糞、ササ食痕が多い が、被害は無い。	シカ糞、ササ食痕が多い が、被害は無い。	-
優占する植物種 植生帯	クマイヅサ 植生帯 植生層	クマイヅサ 植生帯 植生層	クマイヅサ 植生帯 植生層	クマイヅサ 植生帯 植生層
林床地生 天然更新状況	野生木たちは散在 0.5~1.5m 天然更新状況 保護対象種以外 保護対象種以外	野生木たちは散在 0.1~1.3m 保護対象種多い 保護対象種以外多い	野生木たちは散在 0.1~1.3m 保護対象種多い 保護対象種以外多い	0.1~1.5m 保護対象種多い 保護対象種以外多い
保護林の状況	雁蕪構造が発達し、広葉 樹の多様性が高い。昔の 民家の跡がみられる。	トドマツおよびその他の樹 種の再生が雁蕪にみられ る。天然更新状況は良好 である。	雁蕪構造が発達し、広葉 樹の多様性が高い。昔の 民家の跡がみられる。	アカエゾマツの生育は良 好。天然更新状況は良好 である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア、野生鳥類、イ、病虫害、ウ、外来種 ニ、温帯化、オ、自然復興、カ、その他 一、他になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

### 確認された影響[特になし]

- 林相に大きな変化はみられなかった。
- 天然更新もみられた。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。



亞高木層の様子



トドマツの稚樹、実生

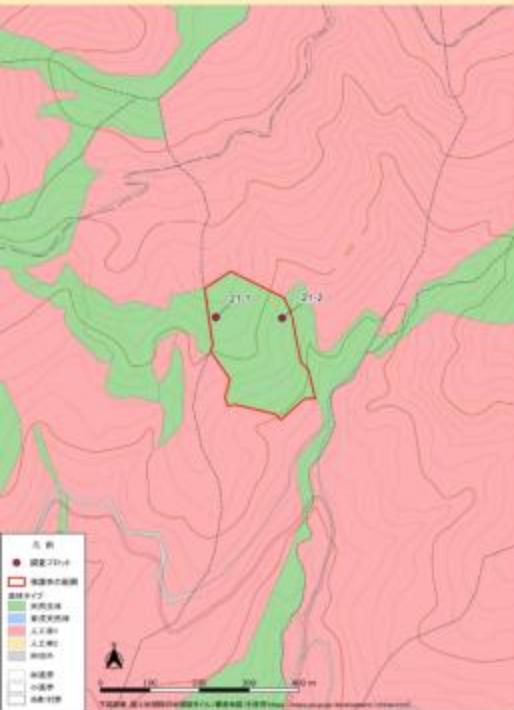


トドマツの高木

## 21 落辺(おちのんべ)シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.21-1		プロットNo.21-2	
南北方向	東西方向	南北方向	東西方向
写真なし	大きな変化はない。	写真なし	大きな変化はない。
—	—	—	—
写真なし	大きな変化はない。	写真なし	大きな変化はない。
—	—	—	—
写真なし	大きな変化はない。	写真なし	大きな変化はない。
—	—	—	—
石畳	大きな変化はない。	石畳	大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括		
保護林名	落辺シラカンバ遺伝資源希少個体群保護林	
保育計画種	シラカンバ	
プロットNo.	2-1	21-2
面積	3001.9-1	3001.9-2
調査日	2023/9/4	2024/9/20
標高	420m	360m
緯度	30°17'N	36°19'N
経度	137°45'E	137°45'E
プロット情報		
総面積	9.16	SE 10'
緯度	30°17'N	山脚平野部南側
経度	137°45'E	山脚平野部南側
【高】主要構成樹種	シラカンバ、ミズナラ	シラカンバ、シラカンバ
【高】樹高	20m以上	20m以上
【高】種類率	60%	70%
【高】DBH	30cm以上	30cm以上
【高】樹形	トドマツ、アカエノマツ	トドマツ
【高】樹高	10m以上	10m以上
【高】種類率	—	60%
【高】DBH	20cm以上	10~15cm
【高】樹形	ミズナラ	ミズナラ
【高】樹高	70cm	70cm
【高】種類率	—	45cm
保護林内種の割合	20~50%	20~50%
先駆者	—	—
既存者	—	—
新芽	—	—
新芽、根生葉のコロボ	—	—
鳥類類似群		
エゾシカ軽跡	算、食痕	算
その他の痕跡	—	キツツキ
痕跡の程度	小	ヒグマ
飼育のユビリ	エゾシカ軽跡あり、根茎葉のものなどあり	キツツキ食痕あり
後とする生物種	クマイヅワ	クマイヅワ
根茎葉	野生	出没
植生率	10%~15%	5%~15%
天然更新状況	0.5~1.4m	0.5~1.5m
保護対象種→なし	保護対象種→少し	保護対象種→少し
保護対象種以外→なし	保護対象種以外→普通	保護対象種以外→普通
保護林の状況	シラカンバの花芽や側木が見立つ。側木層はアカシタヤが多い。	シラカンバの花芽、側木はキタマツなどの外観特徴のこれらが見立つ。茎葉大層サラアカシタヤ、ミズナラ、ホオノキが優位に運用している。
林分等の状況	大きな変化は認められない。	大きな変化は認められない。
評価 調査再確認された影響	確認された影響[なし]	確認された影響[なし]
ア.野鳥害、イ.病害害、ウ.外来種ニ.温帯化、オ.自然擾乱、カ.その他	引掛けモニタリングによる経過観察を行う	引掛けモニタリングによる経過観察を行う
—	—	—

### 確認された影響[特になし]

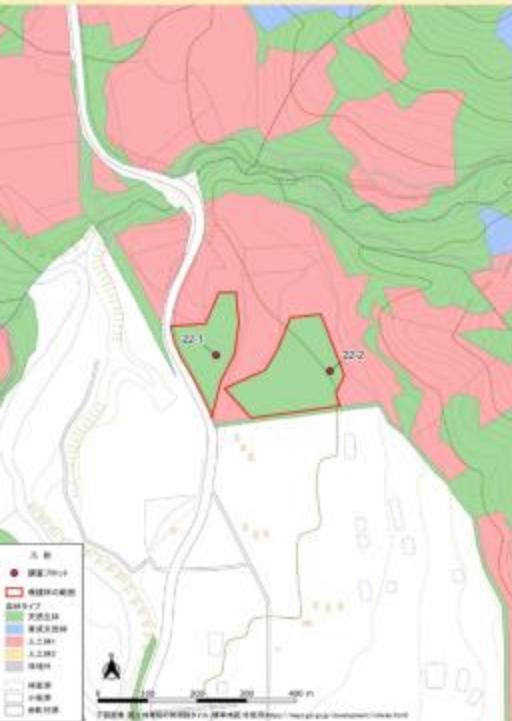
- 林相に大きな変化はみられなかった。
- 先駆樹種であるシラカンバの天然更新は少ないが、ギャップにわずかに低木がみられた。
- そのほかの広葉樹の生育状況は健全であり、林分としては良好な状態を保っていた。
- プロット2では、遷移が進みシラカンバは減少していくと考えられる。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 22 頼城(らいじょう)ヤチハンノキ遺伝資源希少個体群保護林

### 実施した現地調査 保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調查 總括

保護林名		木立を保有する方法			
保護対象地		地域、ヤマハハンノキ灌漑施設少額無体保護林			
プロットNo		22-1		22-2	
日付		2019/8/10	2024/8/27	2019/8/10	2024/8/27
調査日		30314-1		30314-2	
標高		205m		206m	
プロット情報	面積方位、傾斜(平均)	0°		0°	
	地形地勢	平地		平地	
林分状況	[高] 主要構成樹種	ハンノキ	ハンノキ、ヤマダモ	ハンノキ	ヤマダモ
	[高] 幹高	20m以上	26~32m	20m以上	29~32m
	[高] 横披率	=	70%	=	80%
	[高] DBH	30cm以上	34~47cm	30cm以上	33~76cm
	[径] 主要構成樹種	ハンノキ、ノリウツギ	ハンノキ	ハンノキ	カツラ
	[径] 幹高	5~10m	11~22m	5~10m	16~18.4m
	[径] 横披率	=	15%	=	20%
	[径] DBH	10cm未満	10~36cm	10cm未満	18~37cm
	[径] 主要構成樹種	-	エゾノワトコ	ノリクサギ	エゾノワトコ
	[径] 幹高	-	3~5m	1~5m	6~11m
病害虫	[径] 横披率	=	3%	=	15%
	[径] DBH	-	3~8cm	5cm未満	5~19cm
	最大樹幹樹種	ハンノキ	ヤマダモ	ハンノキ	ヤマダモ
	樹高	36m	32.4m	30m	32.1m
蟲害	最大徑樹種	ハンノキ	ヤマダモ	ハンノキ	ヤマダモ
	直徑	49cm	47.9cm	60cm	75.9cm
	保護対象地の本数割合	82%以上	20~50%	80%以上	20~50%
気象害	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	葉、新梢部(食害)	-	-
	病害菌、病虫害の発生	-	ハンノキハムシの食害あり	-	-
角歯類痕跡	エゾシカ痕跡	-	足跡	シカ道、走跡	シカ道
	その他の痕跡	-	=	クマゲラ	=
	痕跡の程度	-	強	強	強
	痕跡のコメント	-	-	クマゲラ痕跡目撃	-
	遺占する植物種	エゾバショウ、シヨロウソウ	ヨシ	クマザサ、スギ葉、シヨロウソウ	クマゲラ
林床種生	種被率	密生	80%	密生	80%
	種子生産	0.3~1.5m	0.1~3.0m	0.5~1.5m	0.1~2.0m
	天然更新状況	保護対象種なし 保護対象種以外少ない	保護対象種少ない 保護対象種以外少ない	保護対象種少ない 保護対象種以外少ない	保護対象種なし 保護対象種以外少ない
保護林の状況	保護林の状況	ハンノキの枯木がみられるが腐因は不明、林床はミズバショウが遺占する。	ハンノキの実生は根元の根際で多くみられる。部分は健やかな状態である。	保護林は水害と隣接している。シヨロウソウの花開がみられる。	ハンノキの実生はみられない。ヤマダモ、オニグルミなどのものは少數みられる。林分は健全な状態である。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[+]	確認された影響[+]	確認された影響[+]	確認された影響[+]	確認された影響[+]
	ア 病害虫急増 イ 病害害 実 ニ 未確実 ニ 温暖化 オ 自然擾乱 カ その他 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う



ハンノキの稚樹

ランはの高木

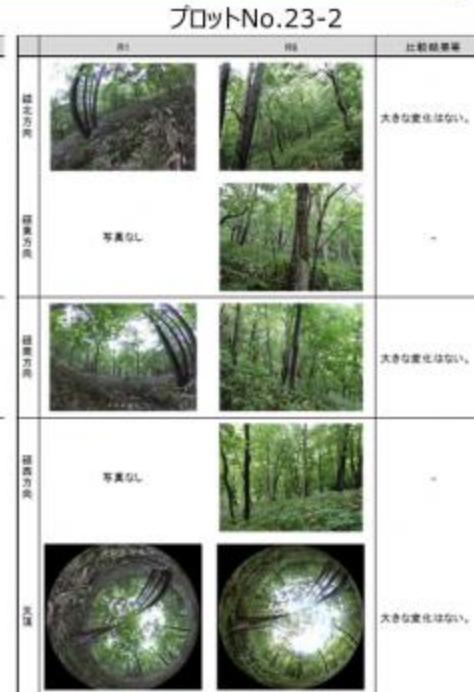
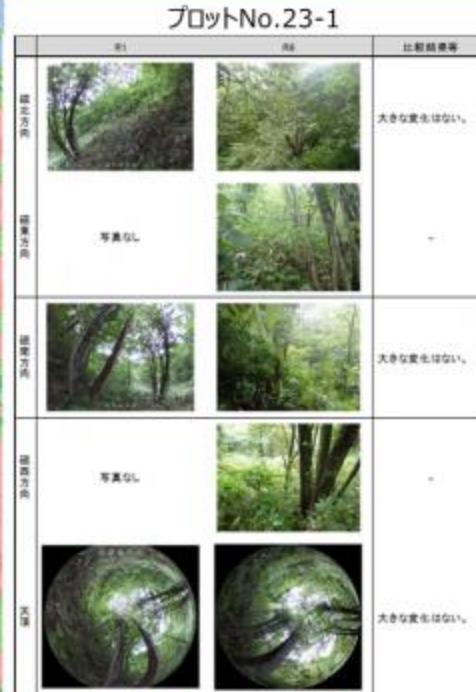
### 確認された影響[病虫害]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
  - ・天然更新もみられた。
  - ・ハムシによる食害が一部の葉で確認されたが、軽微なものであった。
  - ・引き続きモニタリングによる経過観察を行い、病虫害等に留意していく。

## 23 哲別(さきべつ)オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林森林概況調査 総括		特別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林	
保護林名	特別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
保護対象種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
プロットNo.	23-1	23-2	23-2
日付	2019/6/10	2024/8/27	2019/6/10
調査日	2019/6/10	2024/8/27	2019/6/10
標高	355m	324m	355m
プロット情報	斜面方位、傾斜(度)	W 37°	W 26°
周辺地形	山腹中斜面	山腹斜面	山腹斜面
【基】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
【基】樹高	20m以上	18~22m	20m以上
【基】樹被率	-	70%	-
【基】DBH	30cm以上	32~42cm	30cm以上
【基】樹種	エゾイタヤ、オオバボダイジュ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
【基】樹高	5~70m	7~15m	10m以上
【基】樹被率	-	40%	-
【基】DBH	10cm未満	7~13cm	10cm未満
林分状況	【基】主要構成樹種	ウリキ、オオバボダイジュ	ウリキ、シナノキ
	【基】樹高	1~5m	1~5m
	【基】DBH	2~3m	=
	最大樹高樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	樹高	22m	20m
	最大樹被樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
	樹被率	50cm	41.5cm
	年齢	60cm	67.7cm
	保護対象樹の本数割合	80%以上	80%以上
	気象害	-	-
	病虫害	-	-
	食害者	-	-
	鳥獣害	-	-
	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、食痕、角研	食痕
	その他の痕跡	-	-
	病害の程度	ネズミ踏	小
	病害のメント	エゾシカ痕跡2種目監	かにあり
	侵食する植物種	チシマザサ、オシダ、スゲ類	チシマザサ、ユキヤナギ、シダ類
	種被率	衛生	衛生
	種生長	0.5~1.5m	0.5~2.8m
	天然更新状況	保護対象樹一あり	保護対象樹一なし
	保護対象樹以外一なし	保護対象樹以外一なし	保護対象樹以外一なし
	保護対象樹以外一なし	保護対象樹以外一なし	保護対象樹以外一多い
保護林の状況	シカの痕跡が多いが被害は少ない。	オオバボダイジュの生育は良好であり、林分は健全な状態である。	シカの食痕に大きなものはない。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア. 野生鳥獣、イ. 病虫害、ウ. 外来種 エ. 温暖化、オ. 自然復旧、カ. その他 特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



オオバボダイジュの実生



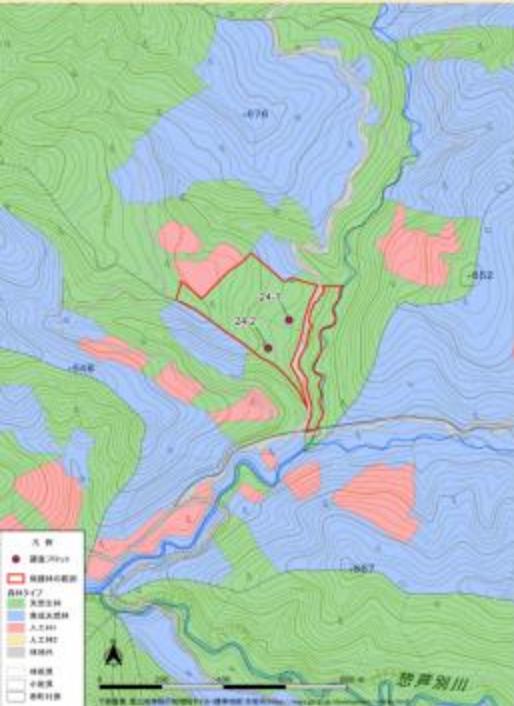
オオバボダイジュの高木

確認された影響[特になし]  
 -林相に大きな変化はみられなかった。  
 -天然更新もみられた。  
 -引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 24 惣芦別(そうあしべつ)ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林

### 実施した現地調査

### 保護林森林概況調查(2箇所)



シナノキの高木



オヒヨウの高木



ミズナラの高木

プロットNo.24-1			
	北	南	北緯緯度等
樹種方向			立木に大きな変化ない。林床ではクワサガが一葉枯死。
樹種方向	写真なし		林床ではクサイザヤー一葉枯死。
樹種方向			立木に大きな変化ない。林床ではクワサガが一葉枯死。
樹種方向	写真なし		林床ではクサイザヤー一葉枯死。
天候			立木に大きな変化ない。林床ではクワサガが一葉枯死。

プロットNo.24-2			
	北	南	西
西側方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
東側方向	写真なし		林床ではクマイザサが一齊枯死。
西南方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
西北方向	写真なし		林床ではクマイザサが一齊枯死。
北側			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。



### 確認された影響[特になし]

## クマイザサ一斉枯死の様子

保護林林木状況調査

心形古

保護林名 保護林面積		面積別記述等	
プロットNo		26-1	
日 %		30215-1	
調査日		2019/9/4	2024/6/24
標高		517m	540m
プロット情報	樹種別: 植被別:平地	坡度: 平	S.E. 8°
	所在地名	山腹斜面	山腹斜面
林分状況	[高]主導構成樹種	2ズナラ	2ズナラ、シナノキ
	[高]樹高	20m以上	20~25m
	[高]樹被率	=	80%
	[径]DBH	30cm以上	24~30cm
	[高]主導構成樹種	オヒヨウ	オヒヨウ
	[径]樹高	10~20m	10m以上
	[径]樹被率	=	20%
	[径]DBH	10~20cm	10~25cm
	[高]主導構成樹種	ハナツワカニキ	ダケカンバ
	[径]樹高	1~5m	3~7m
	[径]樹被率	=	5%
	[径]DBH	5~10cm	3cm
	最高木樹高	32m	36.8m
	樹高差	-	3.8m
	最大直径	2ズナラ	ハリギリ
保護計画の実施割合	直徑	73cm	74.6cm
	葉面割合	50~100%	50~80%
	花葉割合	=	=
	虫害割合	=	=
鳥獣類振跡	エジソサル跡	遺	シカ遺
	その他の痕跡	ヒツメ	=
	虎の程度	小	無
	痴跡のコメント	シグマがアリの葉を握り直した跡を至る	=
林床植生	構造占める植物種	クマイヅサ	クマイヅサ(枯れ)
	種被率	100%ササ枯れ含む	100%ササ枯れ含む
	密度	20%ササ枯れ含まない	20%ササ枯れ含まない
	種生高	15cm以上	1~10cm
	天然更新状況	保護地内難種一層通	保護地内難種一層通
保護林の状況	保護地内難種外一層通	保護地内難種外一層通	保護地内難種外一層通
	大径木あり、立木の余生	大径木もあり、立木の余生	大径木もあり、立木の余生
林分等の状況	大径木が多く、根元に倒していると見られる。落葉堆積物が発達している。	大径木があり、立木の余生	大径木もあり、立木の余生
	大径木多く良好である。立木の余生が多い。落葉堆積物が発達している。	大径木多く良好である。立木の余生が多い。落葉堆積物が発達している。	大径木多く良好である。立木の余生が多い。落葉堆積物が発達している。
評価・調査等確認された影響	確認された影響なし	確認された影響なし	確認された影響なし
	ア)野生鳥類 イ)病害 ウ)外光障 エ)土壤侵襲 オ)自然擾乱 カ)その他 ハ)その他なし	引き続きモニタリングによる経過観察を行なう	引き続きモニタリングによる経過観察を行なう

確認された影響[特になし]

- ・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかは、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・ミズナラ、シナノキ、オヒヨウの立木の生育状態は健全であった。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

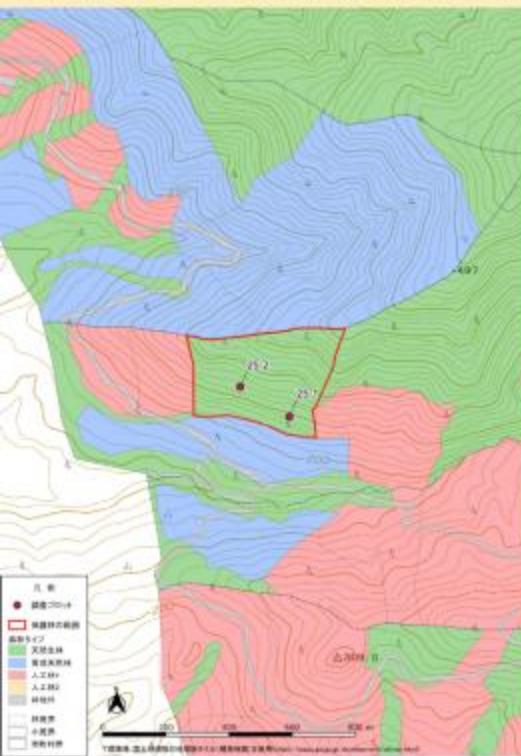
### 3-3.希少個体群保護林 (4/5)

No	保護林ID	保護林名(面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
25	30301	鷹泊ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林(13.06ha)	ベニイタヤ、シナノキ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くにみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
26	30302	鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林(9.86ha)	イタヤカエデ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新も多くにみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
27	30701	天塩カシワ遺伝資源希少個体群保護林(12.89ha)	カシワ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
28	30702	東遠別ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林(16.97ha)	ハリギリ、ベニイタヤ、ホオノキ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・ハリギリ、アカイタヤ、ホオノキの立木の生育状態は健全であった。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
29	30703	羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林(14.3ha)	キハダ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・キハダの生育は局所的であった。 ・いくつかの風倒木が確認された。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
30	30801	増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林(4.28ha)	グイマツ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新はみられない。	10年	確認された影響[特になし] ・立木の生育状態は健全であったが、天然更新はみられず、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
31	30802	西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林(8.69ha)	ミズナラ	R1	・森林概況調査(2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 25 鷹泊ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



アカイタヤの実生



シナノキの高木

プロットNo.25-1

	西	東	北側斜面
南側斜面			大きな変化はない。
南側斜面			-
底面			大きな変化はない。
底面			-

プロットNo.25-2

	西	東	北側斜面
南側斜面			大きな変化はない。
南側斜面			-
底面			大きな変化はない。
底面			-



アカイタヤの高木

実施した現地調査

保護林森林概況調査 総括

保護林名	東方ベニイタヤ等遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	ベニイタヤ、シナノキ	
プロットNo.	25-1	25-2
田No.	30301-1	30301-2
調査日	2019.8.22	2024.5.27
標高	259m	282m
プロット情報	SW 23°	SW 22°
局所地形	山腹平野和面	山腹平野谷面
【高】主樹成樹種	エズナラ、シナノキ	エズナラ、シナノキ
【高】樹高	20m以上	25m以上
【高】樹被率	60%	-
【高】DBH	30cm以上	30cm以上
【低】主樹成樹種	アカイタヤ	アカイタヤ
【低】樹高	10m以上	11~20m
【低】樹被率	-	5~10m
【低】DBH	10~20cm	10cm未満
【低】主樹成樹種	シナノキ、アカイタヤ	シナノキ、ホオノキ
【低】樹高	1~5m	3~5m
【低】樹被率	-	5%
最大樹高樹種	エズナラ	エズナラ
樹高	24m	20m
最大直径樹種	エズナラ	エズナラ
直徑	90cm	87.3cm
保護対象種の本数割合	20~50%	80%以上
気象害	-	-
病虫害	-	-
虫害、食害のリスク	-	-
エゾシの痕跡	-	食痕
その他の痕跡	-	見跡、糞、食痕
痕跡の程度	-	-
痕跡のコメント	-	-
遺占する植物種	オオカメノキ	ツタウルシ
植被率	隕生または瓶在	隕生または散在
植生層	0.2~1.5m	0.5~1.5m
天然更新状況	保護対象種→多い 保護対象種以外→多い	保護対象種→多い 保護対象種以外→多い
保護林の状況	林内はエゾイタヤ、エゾユズリハが多い。実生は多く、種数も豊富で林況は良い。 木立はジュウキンジンジダ、ツルヅラ、ツタウルシ等が多い。実生は多く、種数も豊富で林況は良い。	林内はジュウキンジンジダ、ツルヅラ、ツタウルシ等が多い。新木もみられるが天然更新は盛んであり、林内は豊かな状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア. 那生鳥類 イ. 病虫害 ウ. 外来種 エ. 地域化 オ. 自然構造 カ. その他 - 特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-]

確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新が多くみられた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 26 鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.26-1		
周1	周2	比較結果
緑北方向		大きな変化はない。
緑東方向		-
緑南方向		大きな変化はない。
緑西方向		-
天球		大きな変化はない。



プロットNo.26-2		
周1	周2	比較結果
緑北方向		大きな変化はない。
緑東方向		-
緑南方向		大きな変化はない。
緑西方向		-
天球		大きな変化はない。



保護林森林概況調査 総括	
保護林名	鷹泊イタヤカエデ遺伝資源希少個体群保護林
保護対象種	イタヤカエデ
プロットNo.	26-1
日付	2019/8/31
標高	429m
プロット情報	山腹半斜面南 山腹半斜面北
南北方位、傾斜(度)	SW 29° S 23°
地盤形状	山腹半斜面南 山腹半斜面北
【株】主導構成樹種	ダケカンバ、エゾイタヤ
【株】樹高	20m以上
【株】樹被率	=
【株】DBH	10~20cm
【株】主要構成樹種	エゾイタヤ
【株】樹高	5~10m
【株】樹被率	=
【株】DBH	10cm未満
【株】三葉構成樹種	オオカメノキ
【株】樹高	1~5m
【株】樹被率	=
【株】DBH	5cm未満
最大樹高樹種	トドマツ
樹高	20m
最大直径樹種	トドマツ
直徑	40cm
保護対象種の本数割合	20~50%
気象露	-
病虫害	-
気象、病虫害のコメント	-
エゾシカ傷跡	シカ道、足跡、食痕
鳥獣類活動	食痕
傷跡の程度	小
傷跡のコヒビ	-
優先する植物種	オオカメノキ
樹被率	疎生または散在
疎生高	0.5~1.5m
天然更新状況	保護対象種多い 保護対象種は多い
林床植生	保護対象種多い 保護対象種は多い
保護林の状況	トドマツ、エゾイタヤ、オオカメノキが生長している。天然更新も盛んである。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア 駒生鳥類、イ 病虫害、ウ 外来種 エ 暖温化 オ 采集標本、カ その他 - 特になし
	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う

### 確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新も多くみられた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 27 天塩カシワ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



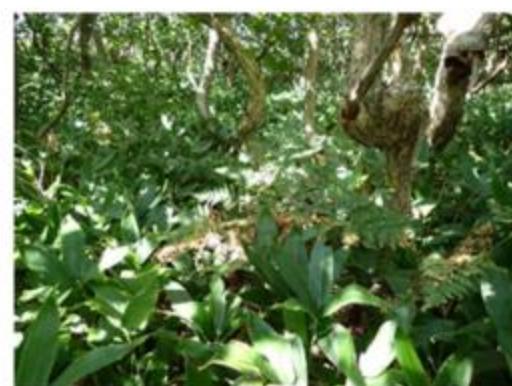
プロットNo.27-1		プロットNo.27-2	
北	南	北	南
大きな変化はない。 等真なし。	-	大きな変化はない。 等真なし。	-
大きな変化はない。 等真なし。	-	大きな変化はない。 等真なし。	-
大きな変化はない。 等真なし。	-	大きな変化はない。 等真なし。	-



カシワの萌芽



カシワの高木



林床植生

### 保護林森林概況調査 総括

保護林名	天塩カシワ遺伝資源希少個体群保護林 カシワ		
保護対象種	27-1	27-2	
プロットNo.	30701-1	30701-2	
経年日	2018/8/24	2024/9/12	2018/8/24
標高	7m	12m	
緯度経度	N 43°	E 142°	
斜面方位、傾斜度	SW 5°		
島嶼地形	洋縦堆積地	沖縄堆積地	
【主】主要構成樹種	カシワ	カシワ、エゾイタヤ	カシワ
【高】樹高	10m以下	8~10m	8~8m
【高】樹被率	80%	-	80%
【底】DBH	20~30cm	10~25cm	8~20cm
【主】主要構成樹種	-	-	-
【底】樹高	-	-	-
【底】樹被率	-	-	-
【底】DBH	-	-	-
【次】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
【底】樹高	1~5m	2~8m	3~5m
【底】樹被率	-	20%	20%
【底】DBH	5cm未満	2~5cm	2~4cm
最大樹高樹種	カシワ	ハリギリ	カシワ
樹高	8m	9.7m	8m
最大直径樹種	カシワ	ハリギリ	カシワ
直径	25cm	25.1cm	19.5cm
保護付帯の不整敷率	80%以上	50~80%	80%以上
気象害	-	-	-
虫害害	-	-	-
風暴害、倒木害の記録	-	-	-
エゾシカ痕跡	-	-	-
その他の痕跡	-	-	-
痕跡の程度	-	-	-
痕跡のコバトク	-	-	-
侵食する植物種	チマキデサ	チマキデサ	チマキデサ
樹被率	樹生 90%	樹生 90%	樹生 90%
樹高	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.5~1.5m
保護対象種・少ない	保護対象種・少ない	保護対象種・少ない	保護対象種・少ない
保護対象種以外・普通	保護対象種以外・普通	保護対象種以外・普通	保護対象種以外・普通
保護林の状況	低木層にエゾイタヤが多い。他にはコマユミ、カラス、シキミ、オオカミノキ、カンパク等がみられる。林分は樹齢偏重で、大シワが優占し、更新は下枝のみ少數、茎葉も少數みられる。林分は樹齢偏重で、大シワが優占し、更新は下枝のみ少數みられる。林分は樹齢偏重で、大シワが優占し、更新は下枝のみ少數みられる。林分は樹齢偏重で、大シワが優占し、更新は下枝のみ少數みられる。		
林分等の状況	大きな変化は認められない 大きな変化は認められない 大きな変化は認められない		
評価・課題等確認された影響	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。		

### 確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新もみられた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 28 東遠別ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林



クマイザサ一斉枯死の様子



ハリギリの高木

プロットNo.28-1

	北	南	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁東方向			林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁西方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁南方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
天頂			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。

プロットNo.28-2

	北	南	比較結果等
磁北方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁東方向			林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁西方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
磁南方向			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。
天頂			立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一斉枯死。

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

保護林名 保護林面積	東遠別ハリギリ等遺伝資源希少個体群保護林 ハリギリ、ベニイタヤ、ホオノキ		
	プロットNo.	28-1	28-2
[基] 調査日	2019/9/12	2024/9/12	2019/9/12
[基] 樹高	172m	183m	
プロット情報	南北方位、傾斜(平均)	SW 8°	5.5°
局地地形	山腹、半斜面	山腹、半斜面	山腹、半斜面
[基] 主要構成樹種	ハリギリ	ホオノキ、アカイタヤ	ハリギリ、シナノキ
[基] 枝高	20m以上	22~26m	20~23m
[基] 枝被率	-	30%	70%
[基] 基礎樹種	オビコウ	ナツカマツ	アカイタヤ
[基] 基本樹種	5~10m	15~20m	14~18m
[基] 枝被率	-	30%	20%
[基] DTH	10~20cm	20~24cm	9~16cm
林分状況	主導樹種成樹率 エゾイタヤ	ホオノキ	ホオノキ サマグワ
	1~5m	2m	1~5m
	5% ~	5%	5%
[低] DTH	5cm未満	2~3cm	5cm未満
最高樹木樹種	オビコウ	トドマツ	ハリギリ
樹高	24m	24m	23.0m
最大高樹木樹種	オビコウ	ヌズナラ	シナノキ
直径	40cm	39.5cm	50cm
保護対象樹の本数割合	20%以下	20~50%	50~80%
気象条件	-	-	-
病虫害	-	-	-
害蟲害虫	-	-	-
鳥類類似種	エゾシカ鹿跡 その他の痕跡	-	-
	過去の初度	-	-
	痕跡のコメント	-	-
林床維持	遺伝する植物種 シンマツサ	クマイザサ(枯れ)	クマイザサ(枯れ)
	枝被率 生木	80%(ササ枯れ含む)	80%(ササ枯れ含む)
	枝生長 1.5m以上	3% (ササ枯れ含まない)	10% (ササ枯れ含まない)
	保護対象種 一斉枯死	1.0m以上	0.1~2.2m
	保護対象種による普通	保護対象種による普通	保護対象種による普通
	保護対象種による外へ	保護対象種による外へ	保護対象種による外へ
保護林の状況	ヒズナラ、トドマツ、オビコウ、エゾイタヤ、ホオノキの大型木がみられる。クマイザサは一斉枯死している。各種広葉樹の新生木がみられる。林分は健全な状態である。	ホオノキ、アカイタヤが壊死し、倒木もみられる。クマイザサは一斉枯死している。各種広葉樹の新生木がみられる。林分は健全な状態である。	ホオノキ、シナノキが壊死し、倒木もみられる。クマイザサは一斉枯死しておらず、各種広葉樹の新生木がみられる。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	クマイザサ枯死あり	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 勝生鳥類 イ 病虫害 ウ 外来種 ミ 地域化 オ 自然環境 カ その他 - 特になし	確認された影響[なし]	確認された影響[なし]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

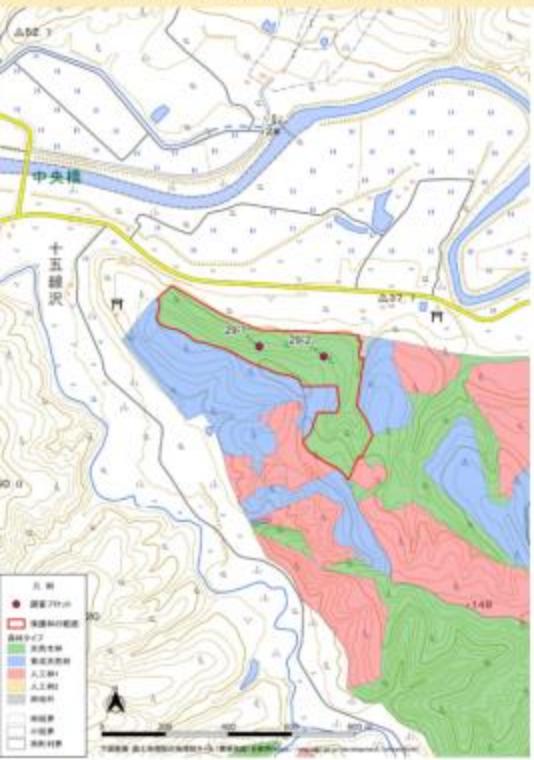
### 確認された影響[特になし]

- ・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかは、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・ハリギリ、アカイタヤ、ホオノキの立木の生育状態は健全であった。

## 29 羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.29-1		
南北	東西	比較結果
		立木に大きな変化はない。林床では、クマイザサが一斉枯死。
南北		林床ではクマイザサが一斉枯死。
南北		立木に大きな変化はない。林床では、クマイザサが一斉枯死。
南北		林床ではクマイザサが一斉枯死。
南北		立木に大きな変化はない。林床では、クマイザサが一斉枯死。
南北		林床ではクマイザサが一斉枯死。
南北		大きな変化はない。

プロットNo.29-2		
南北	東西	比較結果
		立木に大きな変化はない。林床では、クマイザサが一斉枯死。
南北		林床ではクマイザサが一斉枯死。
南北		立木に大きな変化はない。林床では、クマイザサが一斉枯死。
南北		大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括																																																																																																																																																																																
羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林		キハダ																																																																																																																																																																														
保護林名	羽幌キハダ遺伝資源希少個体群保護林	キハダ																																																																																																																																																																														
保護対象種	プロトニホ	29-1																																																																																																																																																																														
○△×	○	36793-2																																																																																																																																																																														
調査日	2019/8/30	2024/9/13																																																																																																																																																																														
標高	78m	75m																																																																																																																																																																														
プロット情報	位置方位、標高/平均	N 29° 48' E 140° 13'																																																																																																																																																																														
面積	山腹 平野部	山腹																																																																																																																																																																														
林分状況	<table border="1"> <tr><td>【高】主要構成樹種</td><td>キハダ</td><td>キハダ</td><td>シナノキ、トドマツ</td><td>シナノキ、トドマツ</td></tr> <tr><td>【高】樹高</td><td>20m以上</td><td>20-28m</td><td>20m以上</td><td>20-28m</td></tr> <tr><td>【高】樹幅率</td><td>-</td><td>50%</td><td>-</td><td>80%</td></tr> <tr><td>【高】樹冠</td><td>10cm以上</td><td>37-48cm</td><td>30cm以上</td><td>29-78cm</td></tr> <tr><td>【高】土壌構成割合</td><td>オニコウ</td><td>シワリヅクラ</td><td>トドマツ</td><td>トドマツ、シワリヅクラ</td></tr> <tr><td>【高】樹種</td><td>10m以上</td><td>12-18m</td><td>10m以上</td><td>10-15m</td></tr> <tr><td>【高】被覆率</td><td>-</td><td>50%</td><td>-</td><td>15%</td></tr> <tr><td>【高】樹冠</td><td>20cm以上</td><td>19-29cm</td><td>20cm以上</td><td>11-17cm</td></tr> <tr><td>【低】主要構成樹種</td><td>アカイタヤ</td><td>ハバチカエデ</td><td>アカイタヤ</td><td>ハバチカエデ、ホノキ</td></tr> <tr><td>【低】樹高</td><td>5m以上</td><td>3-8m</td><td>5m以上</td><td>1.8-7m</td></tr> <tr><td>【低】樹幅率</td><td>-</td><td>30%</td><td>-</td><td>18%</td></tr> <tr><td>【低】樹冠</td><td>10cm以上</td><td>1-8cm</td><td>15cm以上</td><td>1-8cm</td></tr> <tr><td>最高樹種</td><td>キハダ</td><td>ヤクダモ</td><td>トドマツ</td><td>トドマツ</td></tr> <tr><td>樹高</td><td>25m</td><td>28.8m</td><td>30m</td><td>28.8m</td></tr> <tr><td>無大直径樹種</td><td>キハダ</td><td>ヤクダモ</td><td>シナノキ</td><td>ハリギリ</td></tr> <tr><td>直徑</td><td>10cm</td><td>48.4cm</td><td>78cm</td><td>77.8cm</td></tr> <tr><td>保護対象の生長割合</td><td>20-30%</td><td>20%以下</td><td>20%以下</td><td>20%以下</td></tr> <tr><td>風倒木</td><td>風倒(中)</td><td>風倒(小)</td><td>風倒(小)</td><td>風倒(小)</td></tr> <tr><td>病虫害</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>異常、灾害等の記録</td><td>落葉木あり</td><td>-</td><td>落葉木あり</td><td>古木倒木によるギャップあり</td></tr> <tr><td>鳥類</td><td>エゾシカ振跡、その他振跡</td><td>シカ道、足跡、食痕</td><td>シカ道、足跡、食痕</td><td>鳥、夷研</td></tr> <tr><td>鳥類の種類</td><td>シカ道</td><td>シカ道</td><td>シカ道</td><td>シカ道</td></tr> <tr><td>鳥類の分布</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>鳥類のコロナイト</td><td>-</td><td>エゾシカの樹皮食痕少数あり</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>侵入する植物種</td><td>チシマツザ</td><td>クマイザサ、リュウゼンシダ</td><td>チシマツザ</td><td>チシマツ</td></tr> <tr><td>植生率</td><td>50%</td><td>50%</td><td>50%</td><td>40%</td></tr> <tr><td>植生層</td><td>1.5m以上</td><td>0.1-1.5m</td><td>1.5m以上</td><td>0.1-1.5m</td></tr> <tr><td>天然更新状況</td><td>保護対象層なし</td><td>保護対象層なし</td><td>保護対象層なし</td><td>保護対象層なし</td></tr> <tr><td></td><td>保護対象層以外なし</td><td>保護対象層以外なし</td><td>保護対象層以外なし</td><td>保護対象層以外なし</td></tr> <tr><td></td><td>保護対象層以外少しある</td><td>保護対象層以外少しある</td><td>保護対象層以外少しある</td><td>保護対象層以外少しある</td></tr> <tr><td>保護林の状況</td><td>キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサが増えていて、プロット内に作業道あり。</td><td>キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。</td><td>キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。</td><td>キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。</td></tr> <tr><td>林分等の状況</td><td>大きな変化は認められない</td><td>大きな変化は認められない</td><td>大きな変化は認められない</td><td>大きな変化は認められない</td></tr> <tr><td>評価</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td></tr> <tr><td>ア 部生鳥類: イ 病虫害: ウ カメ類: エ 進化化: オ 自然発生: ク その他: ナ 特化なし:</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td><td>確認された影響(+)</td></tr> <tr><td></td><td>引き続きモニタリングによる経過観察を行う</td><td>引き続きモニタリングによる経過観察を行う</td><td>引き続きモニタリングによる経過観察を行う</td><td>引き続きモニタリングによる経過観察を行う</td></tr> </table>	【高】主要構成樹種	キハダ	キハダ	シナノキ、トドマツ	シナノキ、トドマツ	【高】樹高	20m以上	20-28m	20m以上	20-28m	【高】樹幅率	-	50%	-	80%	【高】樹冠	10cm以上	37-48cm	30cm以上	29-78cm	【高】土壌構成割合	オニコウ	シワリヅクラ	トドマツ	トドマツ、シワリヅクラ	【高】樹種	10m以上	12-18m	10m以上	10-15m	【高】被覆率	-	50%	-	15%	【高】樹冠	20cm以上	19-29cm	20cm以上	11-17cm	【低】主要構成樹種	アカイタヤ	ハバチカエデ	アカイタヤ	ハバチカエデ、ホノキ	【低】樹高	5m以上	3-8m	5m以上	1.8-7m	【低】樹幅率	-	30%	-	18%	【低】樹冠	10cm以上	1-8cm	15cm以上	1-8cm	最高樹種	キハダ	ヤクダモ	トドマツ	トドマツ	樹高	25m	28.8m	30m	28.8m	無大直径樹種	キハダ	ヤクダモ	シナノキ	ハリギリ	直徑	10cm	48.4cm	78cm	77.8cm	保護対象の生長割合	20-30%	20%以下	20%以下	20%以下	風倒木	風倒(中)	風倒(小)	風倒(小)	風倒(小)	病虫害	-	-	-	-	異常、灾害等の記録	落葉木あり	-	落葉木あり	古木倒木によるギャップあり	鳥類	エゾシカ振跡、その他振跡	シカ道、足跡、食痕	シカ道、足跡、食痕	鳥、夷研	鳥類の種類	シカ道	シカ道	シカ道	シカ道	鳥類の分布	-	-	-	-	鳥類のコロナイト	-	エゾシカの樹皮食痕少数あり	-	-	侵入する植物種	チシマツザ	クマイザサ、リュウゼンシダ	チシマツザ	チシマツ	植生率	50%	50%	50%	40%	植生層	1.5m以上	0.1-1.5m	1.5m以上	0.1-1.5m	天然更新状況	保護対象層なし	保護対象層なし	保護対象層なし	保護対象層なし		保護対象層以外なし	保護対象層以外なし	保護対象層以外なし	保護対象層以外なし		保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある	保護林の状況	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサが増えていて、プロット内に作業道あり。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	評価	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)	ア 部生鳥類: イ 病虫害: ウ カメ類: エ 進化化: オ 自然発生: ク その他: ナ 特化なし:	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
【高】主要構成樹種	キハダ	キハダ	シナノキ、トドマツ	シナノキ、トドマツ																																																																																																																																																																												
【高】樹高	20m以上	20-28m	20m以上	20-28m																																																																																																																																																																												
【高】樹幅率	-	50%	-	80%																																																																																																																																																																												
【高】樹冠	10cm以上	37-48cm	30cm以上	29-78cm																																																																																																																																																																												
【高】土壌構成割合	オニコウ	シワリヅクラ	トドマツ	トドマツ、シワリヅクラ																																																																																																																																																																												
【高】樹種	10m以上	12-18m	10m以上	10-15m																																																																																																																																																																												
【高】被覆率	-	50%	-	15%																																																																																																																																																																												
【高】樹冠	20cm以上	19-29cm	20cm以上	11-17cm																																																																																																																																																																												
【低】主要構成樹種	アカイタヤ	ハバチカエデ	アカイタヤ	ハバチカエデ、ホノキ																																																																																																																																																																												
【低】樹高	5m以上	3-8m	5m以上	1.8-7m																																																																																																																																																																												
【低】樹幅率	-	30%	-	18%																																																																																																																																																																												
【低】樹冠	10cm以上	1-8cm	15cm以上	1-8cm																																																																																																																																																																												
最高樹種	キハダ	ヤクダモ	トドマツ	トドマツ																																																																																																																																																																												
樹高	25m	28.8m	30m	28.8m																																																																																																																																																																												
無大直径樹種	キハダ	ヤクダモ	シナノキ	ハリギリ																																																																																																																																																																												
直徑	10cm	48.4cm	78cm	77.8cm																																																																																																																																																																												
保護対象の生長割合	20-30%	20%以下	20%以下	20%以下																																																																																																																																																																												
風倒木	風倒(中)	風倒(小)	風倒(小)	風倒(小)																																																																																																																																																																												
病虫害	-	-	-	-																																																																																																																																																																												
異常、灾害等の記録	落葉木あり	-	落葉木あり	古木倒木によるギャップあり																																																																																																																																																																												
鳥類	エゾシカ振跡、その他振跡	シカ道、足跡、食痕	シカ道、足跡、食痕	鳥、夷研																																																																																																																																																																												
鳥類の種類	シカ道	シカ道	シカ道	シカ道																																																																																																																																																																												
鳥類の分布	-	-	-	-																																																																																																																																																																												
鳥類のコロナイト	-	エゾシカの樹皮食痕少数あり	-	-																																																																																																																																																																												
侵入する植物種	チシマツザ	クマイザサ、リュウゼンシダ	チシマツザ	チシマツ																																																																																																																																																																												
植生率	50%	50%	50%	40%																																																																																																																																																																												
植生層	1.5m以上	0.1-1.5m	1.5m以上	0.1-1.5m																																																																																																																																																																												
天然更新状況	保護対象層なし	保護対象層なし	保護対象層なし	保護対象層なし																																																																																																																																																																												
	保護対象層以外なし	保護対象層以外なし	保護対象層以外なし	保護対象層以外なし																																																																																																																																																																												
	保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある	保護対象層以外少しある																																																																																																																																																																												
保護林の状況	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサが増えていて、プロット内に作業道あり。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。	キハダ、シワリヅクラが遺点する。林床のクマイザサは本のみ、周囲はトドマツ林でシダ類が多くなる。下灌木層にて一部シカの糞便がみられたが林分は健全な状態である。																																																																																																																																																																												
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない																																																																																																																																																																												
評価	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)																																																																																																																																																																												
ア 部生鳥類: イ 病虫害: ウ カメ類: エ 進化化: オ 自然発生: ク その他: ナ 特化なし:	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)	確認された影響(+)																																																																																																																																																																												
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う																																																																																																																																																																												



キハダ



亞高木層の状況

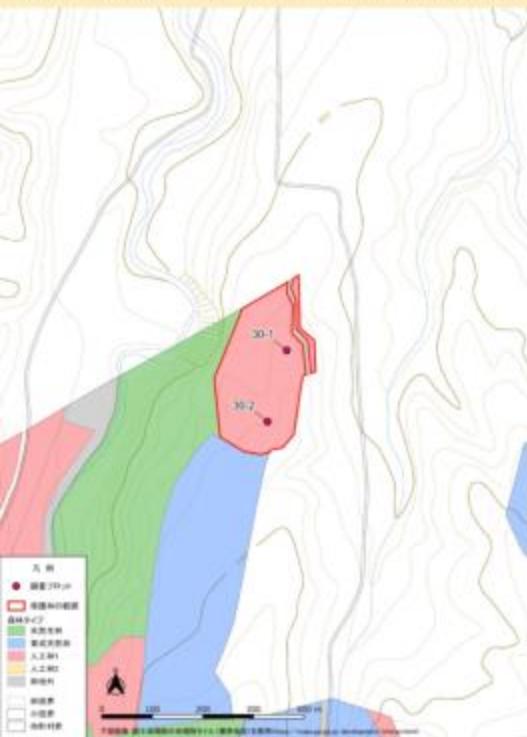
### 確認された影響[特になし]

- ・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・キハダの生育は局所的であった。
- ・いくつかの風倒木が確認された。

# 30 増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.30-1		
北	南	比較結果等
植木方向		
草木方向		
木立方向		大きな変化はない。
天井		-
木立方向		大きな変化はない。
天井		-
木立方向		大きな変化はない。
天井		-
木立方向		大きな変化はない。
天井		-

プロットNo.30-2		
北	南	比較結果等
植木方向		
草木方向		
木立方向		大きな変化はない。
天井		-
植木方向		大きな変化はない。
天井		-
植木方向		大きな変化はない。
天井		-
植木方向		大きな変化はない。
天井		-

保護林森林概況調査 総括		
保護林名	増毛グイマツ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	グイマツ	
プロットNo.	30-1	30-2
日No.	30801-2	30801-1
調査日	2019/8/29	2024/6/12
標高	239m	245m
プロット情報	北東方向、傾斜(平坦)	W 7° NE 9°
出所地図	甲田集落	
【高】主要構成樹種	グイマツ	グイマツ
【高】樹高	20m以上	20m以上
【高】樹冠率	80%	80%
【基】DBH	30cm以上	30cm以上
【基】主要構成樹種	コシアブラ	ホオノキ、グイマツ
【基】樹高	10m以上	10m以上
【基】樹冠率	50%	20%
【基】DBH	10~20cm	8~22cm
【他】主要構成樹種	アカイタヤ	アカイタヤ
【他】樹高	1~5m	2~5m
【他】樹冠率	10%	5%
【他】DBH	5~10cm	5~10cm
最大樹高樹種	グイマツ	グイマツ
樹基	25m	25m
最大直径樹種	グイマツ	グイマツ
直徑	40cm	40cm
天然更新状況	50~80%	50~80%
保護対象種の天然更新率	50~80%	50~80%
乳象者	風害(小)	風害(小)
病虫害	-	-
鳥類・鳴虫	風害木あり	風害木あり
エゾシカ痕跡	-	-
その他痕跡	-	-
痕跡の程度	-	-
痕跡のコメント	-	-
侵食する植物種	チシマザサ	クマイザサ
種被率	100%	100%
種生率	0.5~1.5m	0.1~2.2m
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし
保護対象種以外	少ない	普通
保護対象種以外	少ない	少ない
保護林の状況	風害木、立ち枯れが少數みられる。	グイマツが侵食するが、天然更新はみられない。並み分岐としては健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア フルーツ・イ ノウサギ・ウ カモ稚	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
エ ブタ・オ リス・カ その他の 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

## 確認された影響[特になし]

- 林相に大きな変化はみられなかった。
- 天然更新はみられない。
- 立木の生育状態は健全であったが天然更新がみられないため、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

低木層の様子

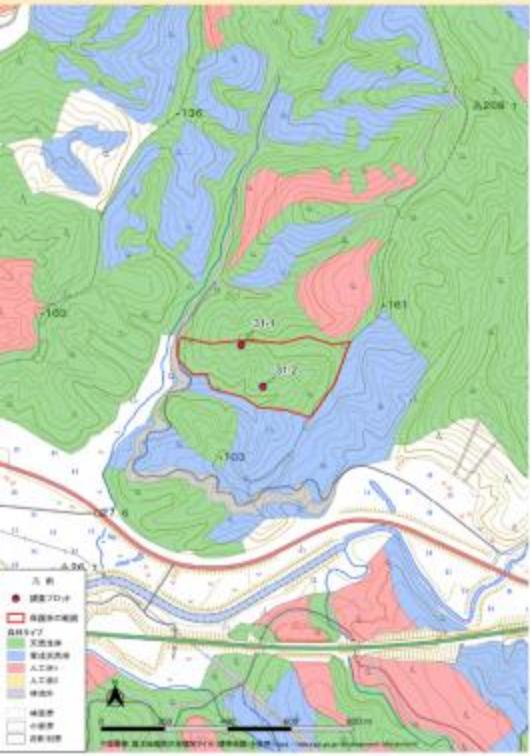


グイマツの高木

# 31 西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.31-1		
北	南	北朝向等
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
		立木ではクマイザサが一齊枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
		立木ではクマイザサが一齊枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
		立木ではクマイザサが一齊枯死。



ミズナラの実生

プロットNo.31-2		
北	南	北朝向等
		林床ではクマイザサが一齊枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。
		立木に大きな変化はない。林床ではクマイザサが一齊枯死。

保護林森林概況調査 総括	
保護林名	西幌糠ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林
保護対象種	ミズナラ
プロットNo.	31-1
日No.	30802-2
調査日	2019/9/14
標高	104m
プロット情報	面積方位、傾斜(平均)
面積	5.18'
傾斜	5°~17°
立地面形	山腹凸凹面
【高】主導樹種	ミズナラ
【高】樹高	20m以上
【高】樹冠率	-
【高】DBH	30cm以上
【生】土壌構成樹種	アカイタヤ
【生】樹高	5~10m
【生】樹冠率	30%
【生】DBH	10cm未満
【老】主要構成樹種	アカイタヤ、ヤマグワ
【老】樹高	1~5m
【老】樹冠率	-
最大樹高樹種	ミズナラ
樹高	21m
最大直径樹種	ミズナラ
直徑	60cm
保護計画地の木割割合	50~80%
気温	最高(小)
地温	-
湿度	-
風速	-
エゾシカ痕跡	-
その他の痕跡	-
痕跡の頻度	-
痕跡のコメント	-
クマ占す植物種	クマイザサ
植被率	90%(ツサ枯れ含む)
樹冠率	10%(ツサ枯れ含まない)
天然更新状況	保護対象種以外多い
保護林の状況	トドマツの天然更新が多い。ミズナラおよびその他の種類の天然更新が多い。立木は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[+]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温度化 オ:自然擾乱 カ:その他	確認された影響[オ]
-特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

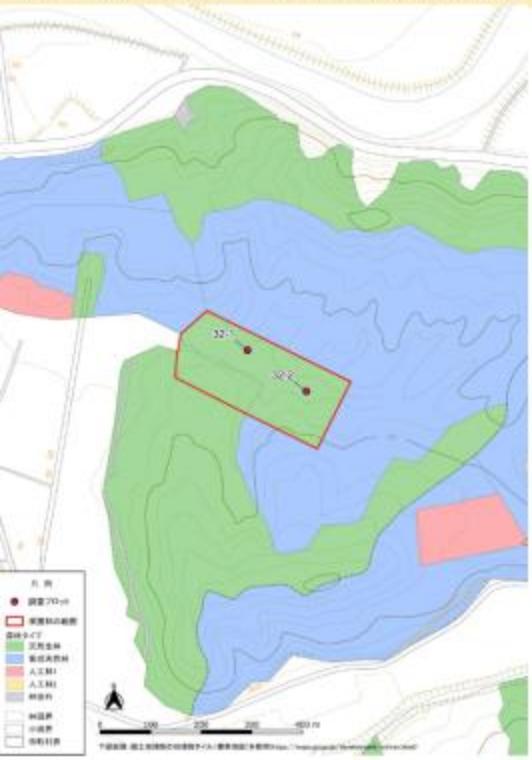
## 確認された影響[特になし]

- ・林床のクマイザサの一齊枯死がみられたほかには、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・天然更新もみられた。

### 3-3.希少個体群保護林（5/5）

No	保護林ID	保護林名 (面積)	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
32	30803	達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林 (5.00ha)	ヤチダモ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・ヤチダモの立木の生育は健全であり大木も見られた。 ・プロットNo.2でクマイザサの枯死が見られたほかは前回調査から大きな変化はなかった。 ・ヤチダモの天然更新も豊富にみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
33	30804	古丹別トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (6.05ha)	トドマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林床のクマイザサの一斉枯死がみられたほかには前回調査から大きな変化はなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
34	31001	曲淵グイマツ遺伝資源希少個体群保護林 (25.58ha)	グイマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新はみられない。	10年	確認された影響[特になし] ・立木の生育状態は健全であったが、天然更新はみられず、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。 ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
35	31002	鬼志別エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (9.19ha)	エゾマツ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
36	31003	志美宇丹ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林 (37.89ha)	ミズナラ、トドマツ、シナノキ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・ミズナラ以外の種では天然更新がみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
37	31004	音標モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林 (15.87ha)	モンゴリナラ	R1	・森林概況調査 (2箇所)	・林相に大きな変化はみられなかった。 ・天然更新もみられた。	10年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 32 達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林



プロットNo.32-1

		比較結果等
南北方向	東西方向	
		大きな変化はない。
平真なし		
		-
平真なし		
		大きな変化はない。
平真なし		
		大きな変化はない。
天球		

プロットNo.32-2

		比較結果等
南北方向	東西方向	
		クマイザサ枯死あり。
平真なし		
		クマイザサ枯死あり。
平真なし		
		クマイザサ枯死あり。
平真なし		
		クマイザサ枯死あり。
天球		

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)

保護林森林概況調査 総括

保護林名	達布ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林		
保護対象種	32-1	32-2	ヤチダモ
プロトNo.	30803-2	30803-1	
調査日	2019/6/30	2024/6/12	2019/6/30
標高	33m	36m	
プロット情報	南北方位、植樹/平地	W 1°	W 2°
局所地名	山脚成層園	山脚成層園	
【第1主葉構成樹種】 【高さ樹高】 【高さ種被率】 【高さDBH】	ヤチダモ 20m以上 100% 30cm以上	ヤチダモ 20~37m 10m以上 18~33cm	ヤチダモ 18~36m 100% 30cm以上
【第2主葉構成樹種】 【登】樹高 【登】種被率 【登】DBH	ケヤマハンノキ 10m以上 5% 20cm以上	ケヤマハンノキ 10m以上 5% 30cm以上	ケヤマハンノキ 10m以上 10% 20cm以上
【第3主葉構成樹種】 【低】樹高 【低】種被率 【低】DBH	ケヤマハンノキ 5m以上 - 10cm以上	ケヤマハンノキ 5m以上 - 10cm以上	ケヤマハンノキ 5m 1% 4cm
最大樹高樹種 樹高 最大高樹種 高さ	ヤチダモ 30m ヤチダモ 75cm	ヤチダモ 35.8m ヤチダモ 83.0cm	ヤチダモ 38.4m ヤチダモ 90cm 67.5cm
保護地面積の本数割合	80%以上	80%以上	50~80%
気象書	-	-	風速(小)
気温書	-	-	-
気象書、気温書(3点併記)	-	-	-
鳥取種苗場	シカ道 その他筋跡 筋跡の度 筋跡のコメント	シカ道 - - シカ道があるが、筋跡は少數	シカ道、足跡 - - - シカ道、食痕
侵占する植物種	ニシマツサ	ニシマツサ	クマイザサ
種被率	衛生	衛生	90% (サ始れむ)
衛生率	15cm以上	0.1~2.1m	80% (サ始れむ)
天然更新状況	保護対象種一なし 保護対象種以外一多い	保護対象種一なし 保護対象種以外一普通	保護対象種一普通 保護対象種以外一少ない
保護林の状況	ヤチダモの巨木が見られない。巨木が多く、根木類が多い。	ヤチダモの巨木が見られる。林床のクマイザサは枯死しており、ヤチダモの衛生が悪化にみられる。部分は健全な状態である。	ヤチダモの巨木によると、林床のクマイザサは枯死しており、ヤチダモは枯死の実態がみられる。林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	クマイザサ枯れあり
評議・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア) 野生鳥類 イ) 病虫害 ウ) 外来種 エ) 活動化 オ) 自然復旧 カ) その他 - 特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



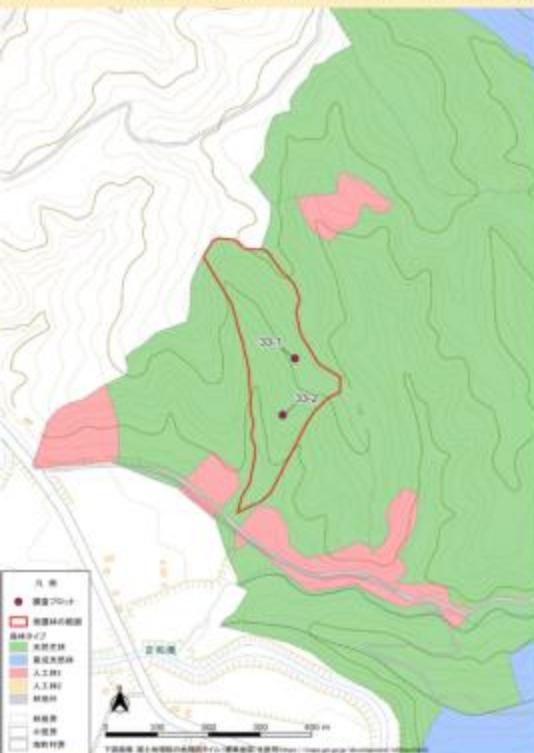
### 確認された影響[特になし]

- ・ヤチダモの立木の生育は健全であり、高木も見られた。
- ・プロットNo.2でクマイザサの枯死が見られたほかは、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・ヤチダモの天然更新も多くみられた。

# 33 古丹別トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林森林概況調査 総括	
	古丹別トドマツ遺伝資源希少個体群保護林
保護林番号	トドマツ
保護对象種	トドマツ
プロットNo.	33-1 33-2
面積	30004-2 30004-1
調査日	2019/9/12 2024/6/12
標高	117m 155m
プロット情報	北緯度方位、緯度平均 SW 30° SW 24°
緯度平均	山腹平野斜面 山腹平野斜面
【1】主要構成樹種	トドマツ トドマツ
【2】樹高	20m以上 20m以上
【3】樹被率	80% 80%
【4】DBH	30cm以上 30cm以上
【5】主登場樹種	トドマツ トドマツ
【6】樹高	5~10m 7~13m
【7】樹被率	10% -
【8】DBH	10cm未満 12~17cm
【9】主要構成樹種	ハウチワカエデ ハウチワカエデ
【10】樹高	1~5m 1~5m
【11】樹被率	15% -
【12】DBH	5cm未満 1~5m
最大樹高樹種	トドマツ トドマツ
樹高	23m 27.0m
最大面積樹種	トドマツ トドマツ
面積	62.4cm 70cm
【13】樹冠の木割割合	30%以上 30%以上
生長率	= =
病害率	= =
虫食害	= =
鳥取種類	シカ道、足跡 角研 無 無
鳥取種類の経年	無 無
表向きのコントラクト	角研跡は古い 無
侵入する植物種	チシマザサ ツツジ科、イワガラシ
出生	40% 出生
株生高	0.5~15m 0.5~15m
保険対象種→シナリオ	トドマツが傷亡し、天然更新も見られない。保険対象種では、ハイヌカヤの再生が少し。 トドマツが傷亡し、天然更新も見られない。保険対象種では、ハイヌカヤの再生が少し。
天然更新状況	保険対象種→普通 保険対象種以外→普通 保険対象種以外→普通 保険対象種以外→普通
保険林の状況	トドマツの再生は少し。 トドマツが傷亡し、天然更新も見られない。保険対象種では、ハイヌカヤの再生が少し。 トドマツによる枯死木が多い。 被田による枯死木が多い。 林分は健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない。 大きな変化は認められない。 大きな変化は認められない。 大きな変化は認められない。
評価・課題等確認された影響	確認された影響[なし] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
ア:野生鳥類・ベニズヌイ・ツノホウズ エ:蜜蠟・木の自然剥離・カモの巣 シ:鳥類	確認された影響[なし] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



トドマツの実生



トドマツの高木

## 確認された影響[特になし]

- 林床のクマイザサに一斉枯死がみられたほかは、前回調査から大きな変化はみられなかった。
- 天然更新もみられた。

# 34 曲淵(まがりふち)グイマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.34-1		
北	南	比較結果
植生方向		大きな変化はない。
植生方向		大きな変化はない。
北		大きな変化はない。
南		大きな変化はない。
北		大きな変化はない。
南		大きな変化はない。

プロットNo.34-2		
北	南	比較結果
植生方向		大きな変化はない。
植生方向		大きな変化はない。
北		大きな変化はない。
南		大きな変化はない。
北		大きな変化はない。
南		大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括		曲淵グイマツ遺伝資源希少個体群保護林	
保護林名	保護林種	34-1	34-2
プロットNo.	田地No.	31001-1	31001-2
調査日	標高	2014/6/28	2014/6/22
プロット情報	斜面方位・種類・平均	5° E	SW 2°
地形地図	平田園地	平田園地	平田園地
【主】主要構成樹種	グイマツ	グイマツ	グイマツ
【主】樹高	20m以上	18~22m	20m以上
【主】植被率	-	80%	-
【主】DBH	30cm以上	24~46cm	30cm以上
【主】主要構成樹種	キハダ	キハダ	キハダ
【主】樹高	8~10m	9~18m	8~10m
【主】植被率	-	5%	-
【主】DBH	10cm未満	10cm未満	8~12cm
【次】主要構成樹種	-	-	ナチカマツ
【次】樹高	-	-	3m
【次】植被率	-	-	5%
【次】DBH	-	-	4cm
最大直径胸高	グイマツ	グイマツ	グイマツ
樹高	20m	22.5m	20m
最大直径胸高	グイマツ	グイマツ	グイマツ
直徑	50cm	48.5cm	40cm
保護林面積の割合	50~80%	80%以上	80%以上
気象者	風害(小)	-	-
絶滅者	-	-	-
育成者	育成木あり	-	-
エゾシカ痕跡	-	食痕	-
その他の痕跡	-	-	ホヌ足跡
痕跡の程度	-	微	-
痕跡のコメント	-	-	エゾシカ個体1頭目様
侵入する植物種	チシマザサ	クマイザサ	クマイザサ
種被率	密生	密生	100%
植生層	0.5~1.5m	0.1~2.0m	0.5~1.5m
天然更新状況	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
	保護対象種なし	保護対象種なし	保護対象種なし
保護林の状況	最高木層以下はキハダとエゾシカコガ少數のみ、ササが生長しており天然更新はみられない。	林床はマツザガが生長し、天然更新はみられない。ササが生長しており、天然更新はみられない。	林床はマツザガが生長し、天然更新はみられない。ササが生長しており、天然更新はみられない。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア 野生鳥類 イ 病虫害 ウ 外来種 ニ 濒滅危 機 オ 自然擾乱 カ その他 ヘ 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

## 確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新はみられない。
- ・立木の生育状態は健全であったが天然更新はみられず、永年的なグイマツ林分の継続は難しいと考えられる。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

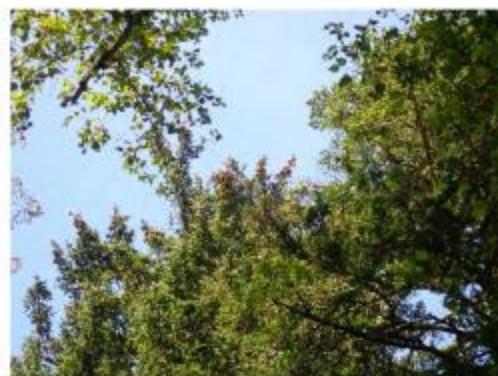


低木層の状況



グイマツの高木

# 35 鬼志別(おにしべつ)エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林



エゾマツの球果



エゾマツの大径木

プロットNo.35-1

南北方向	東西方向	比較結果
写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	南北方向	大きな変化はない。
写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	南北方向	大きな変化はない。

プロットNo.35-2

南北方向	東西方向	比較結果
写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	南北方向	大きな変化はない。
写真なし	写真なし	大きな変化はない。
南北方向	南北方向	大きな変化はない。

## 実施した現地調査

## 保護林森林概況調査(2箇所)

### 保護林森林概況調査 総括

保護林名	鬼志別エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	エゾマツ	エゾマツ
プロットNo.	35-1	35-2
日No.	31002-2	31003-1
調査日	2019/9/13	2024/9/25
標高	92m	94m
プロット情報	面積方位、植樹平均	面積方位、植樹平均
面積方位	SW 2°	NE 12°
植樹平均	半世葉樹	半世葉樹
【基】主要構成樹種	エゾマツ	エゾマツ、ヒマツ、ミズナラ
【基】樹高	20m以上	23~30m
【基】種植率	-	60%
【基】DBH	30cm以上	70~95cm
【基】主要構成樹種	エゾマツ	エゾマツ、ヒマツ、ミズナラ
【基】樹高	10m以上	10m以上
【基】種植率	-	30%
【基】DBH	10~20cm	30~40cm
【基】主要構成樹種	トドマツ	アカイタヤ、ミズナラ
【基】樹高	1~5m	4~8m
【基】種植率	-	10%
【基】DBH	5cm未満	5cm未満
最大樹高樹種	エゾマツ	エゾマツ
樹高	30m	25m
最大径樹種	エゾマツ	エゾマツ
直径	80cm	66.4cm
保護林面積の本数割合	10~60%	20~50%
気象	-	-
病虫害	-	-
気象、病虫害のコメント	-	-
鳥類観察	足跡、糞 その他痕跡 傷跡の程度	シカ道、糞 シカ道 微
傷跡の程度	微	微
傷跡のコメント	-	-
林床補生	塊占する植物種	クマイザサ
種植率	70%	チシマザサ
植生高	0.5~1.5m	0.2~2.3m
天然更新状況	保護対象種一なし 保護対象種二なし	保護対象種一あり 保護対象種二あり
保護対象種三なし	保護対象種三なし	保護対象種三なし
保護林の状況	トドマツ、エゾマツ、ミズナラの大径木が多い。エゾマツは倒木更新がみられる。	シカ道、糞 シカ道 微
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等 確認された影響	ア.野鳥観察 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温帯化 オ.自然保全 カ.その他の - 特記事項	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
ア.野鳥観察 イ.病虫害 ウ.外来種 エ.温帯化 オ.自然保全 カ.その他の - 特記事項	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



エゾマツ倒木更新

### 確認された影響[特になし]

- 林相に大きな変化はみられなかった。
- 天然更新もみられた。
- 引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

### 36 志美宇丹(しうたん)ミズナラ等遺伝資源希少個体群保護林

### 実施した現地調査

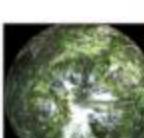
保護林森林概況調查(2箇所)



## トドマツの低木



ミズナラの高木

プロットNo.36-1		プロットNo.36-2	
南北	東西	南北	東西
植生方向		植生方向	
			
写真なし	大きな変化はない。	写真なし。	大きな変化はない。
植生方向		植生方向	
			
写真なし	大きな変化はない。	写真なし。	大きな変化はない。
植生方向		植生方向	
			
写真なし	大きな変化はない。	写真なし。	大きな変化はない。
天井		天井	
			
大きな変化はない。	大きな変化はない。	大きな変化はない。	大きな変化はない。

保護林森林概況調査 総括					
保護林名	志走キサ生ミズナラ混生林資源希少種個体群保護林				
保護対象種	ミズナラ、トドマツ、シナノキ				
プロットNo.	36-1	36-2	36-3	36-4	36-5
日付	2019.9.28	2024.9.27	2019.9.28	2024.9.27	2019.9.28
基高	230m	183m			
絶頂方位、傾斜平均	SE 10°	SE 11°			
品目地帯	山腹半斜面	山腹半斜面			
標高	230m	183m			
【樹】主茎構成樹種	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、ミズナラ、アカヒタチ、トドマツ	ミズナラ、ミズナラ、シナノキ、ダケカンバ		
【樹】樹高	20m以上	25~28m	28m以上	24~30m	
【樹】樹被率	-	40%	-	30%	
【樹】DBH	10cm以上	25~81cm	30cm以上	35~84cm	
【樹】主茎構成樹種	ホオノキ、ハリギリ	ホオノキ、オガムル、アカヒタチ	ホオノキ	ホオノキ、ハリギリ、アカヒタチ	
【樹】樹高	10m以上	18~24m	9~16m	10~16m	
【樹】樹被率	-	30%	-	20%	
【樹】DBH	10~20cm	15~28cm	16cm未満	16~25cm	
【樹】主茎構成樹種	エゾヒタチ	エゾヒタチ、ホオノキ、トドマツ	ダケカンバ	エゾヒタチ	
【樹】樹高	5~8m	10m	1~5m	4~8m	
【樹】DBH	5cm未満	4~14cm	5cm未満	5~10cm	
喬木樹系樹種	ミズナラ	ミズナラ	トドマツ	トドマツ	
樹高	25m	28.0m	23m	30.3m	
喬木直徑樹種	ミズナラ	ミズナラ	トドマツ	トドマツ	
直徑	70cm	81.0cm	78cm	64.2cm	
樹冠面積割合の割合	50~80%	60%以上	50~80%	60%以上	
気象要 候立場	-	-	風削(小)	-	
気象要 候立場	-	-	-	-	
知覚者、風削の範囲	-	風削やわずかにあり	風削少數あり	風削やわずかにあり	
鳥類類似度 その他の地 理的の程度	-	-	-	-	クマゲラ
地圖のコメント	-	-	-	-	クマゲラ風削わざかにあり
森林構成 種	ミソシカ低層 その他地 理的の程度	-	-	-	-
森林構成 種	-	-	-	-	クマゲラ
森林構成 種	-	-	-	-	クマゲラ
森林構成 種	-	-	-	-	クマゲラ
森林構成 種	ミシマザサ	クマイヅサ	シシマヅサ	クマイヅサ	
樹被率	固生	100%	密生	100%	
樹生基	0.5~1.5m	1.0~20m	0.5~15m	1.5~22m	
天然更新状況	保護計画種(少)なし 保護計画種(少)なし	保護計画種(少)なし 保護計画種(少)なし	保護計画種(少)なし 保護計画種(少)なし	保護計画種(少)なし 保護計画種(少)なし	
保護林の状況	立木の生長状況は良好。 ミズナラの天然更新率はみ られないが、トドマツ、ホ ノキのものは少數みられる。 林分は健全な状態である。	立木の生長状況は良好。 ミズナラの天然更新率はみ られないが、トドマツ、ホ ノキのものは少數みられる。 林分は健全な状態である。	立木の生長状況は良好。 ミズナラの天然更新率はみ られないが、トドマツ、ホ ノキのものは少數みられる。 林分は健全な状態である。	立木の生長状況は良好。 ミズナラの天然更新率はみ られないが、トドマツ、ホ ノキのものは少數みられる。 林分は健全な状態である。	
林分等の状況	大きな変化認められない	大きな変化認められない	大きな変化認められない	大きな変化認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア野生動物・個体出現・ウイルス病 害・害虫害虫・土壌汚染・かそきの発 生・開拓	引き続きモニタリングに よる経過観察を行う	引き続きモニタリングに よる経過観察を行う	引き続きモニタリングに よる経過観察を行う	引き続きモニタリングに よる経過観察を行う	

### 確認された影響「特になし」

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
  - ・ミズナラ以外の種では天然更新がみられた。
  - ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

## 37 音標(おとしべ)モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロットNo.37-1		
写真	現状	比較結果
	大きな変化はない。	
	-	
	大きな変化はない。	

プロットNo.37-2		
写真	現状	比較結果
	大きな変化はない。	
	-	
	大きな変化はない。	

保護林森林概況調査 総括		
音標モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林		
保護林名	音標モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種	モンゴリナラ	
プロットNo.	37-1	37-2
田舎番	21004-1	21004-2
調査日	2019/8/28 2024/9/27	2019/8/28 2024/9/27
標高	8m	10m
傾斜方位、傾斜(平地)	0°	0°
品種地勢	平地地	平地地
【高】主要構成樹種	モンゴリナラ	モンゴリナラ
【高】樹高	10~20m	10~20m
【高】樹被率	80%	70%
【高】DBH	20~30cm	20~30cm
【高】葉面	5m以下	5m以下
【高】葉被率	-	-
【高】DBH	10cm未満	10cm未満
【低】主要構成樹種	-	-
【低】樹高	-	-
【低】樹被率	-	-
【低】DBH	-	-
最大樹高樹種	モンゴリナラ	モンゴリナラ
樹高	15m	15m
最大直立樹種	モンゴリナラ	モンゴリナラ
直径	40cm	30cm
保護对象樹の本数割合	60%以上	60%以上
気象害	-	-
病虫害	-	-
氣象、病虫害のリスク	-	-
鳥類類似群	-	-
個別のコメント	-	-
保護占める植物種	クマイザサ	クマイザサ
種被率	密生	密生
発生基	0.5~1.5m	1.0~1.5m
天然更新状況	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし	保護対象種→なし 保護対象種以外→なし
保護林の状況	ササが寄生し、天然更新はみられない。	モンゴリナラの先端更新は離葉のみみられる。林分は離葉健全な状態である。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-] ア.野生鳥獣、イ.病虫害、ウ.伴生種 エ.温帯化 オ.自然復旧 カ.その他 -特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う



モンゴリナラの堅果



モンゴリナラ



モンゴリナラの実生

### 確認された影響[特になし]

- ・林相に大きな変化はみられなかった。
- ・天然更新もみられた。
- ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。